ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ若シハ監視ニ付セラレタル者

但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサル者ヲ犯シ罰金ヲ納ムルヿ能ハス

シテ輕禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ此限ニ非ス

㊟明治十八年三月三十日乙第三十四號ヲ以テ第六款左ノ如ク增加

第六款　賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者

第二條　第一條ノ一款若クハ數款ニ觸ルヽ者ハ學校教員ノ職ニ申請スルヲ得ス又就職ノ後ト雖モ本廳ヨリ其職ヲ停罷セシムルヿアルヘシ

但本文ノ場合ニ於テ本人有スル所ノ師範學校卒業證書教員免許狀ハ本廳ヨリ沒收ヲ命スルモノトス

第三條　第一條ノ一款若クハ數款ニ觸ルヽ者ト雖モ土地ノ情況ニ依リ特ニ學校教員ニ申請セントスルトキハ其族籍姓名幷ニ事由ヲ具狀シ豫メ伺出ツヘシ

○第十八節　町村立中小學校沿革取調項目

○本縣丙第廿八號達　明治十七年四月十八日　郡區役所　學務委員

町村立中小學校沿革ノ儀ハ勿論記錄シ置カサルヘカラサル筈ニ候處或ハ其儀ナク漸次年所ヲ經過スルニ隨ヒ其事實ヲ審カニスル能ハサル等ノ儀有之候テハ不都合ニ候條此際別記取調項目ニ準據シ詳細取調每校必ス備置キ年々增補致スヘク且ツ私立學校ノ儀モ凡ソ右ニ準シ取調置候樣致スヘシ此旨相達候事

町村立中小學校沿革取調項目

一學校名稱

本分何校トシ且ツ設立以來變更アラハ之ヲ詳記スヘシ

一所在地

何郡區何町村何番地トシ且ツ設立以來移轉等ノ事アラハ移轉年月及其理由等ヲ詳記スヘシ

一設立年月

假開學本開學及ヒ分離開學等認可ノ年月日ヲ詳記スヘシ

一敎員及俸給

設立以來教員幷授業生等ノ族籍氏名俸給及任免年月等ノ事實ヲ詳記スヘシ

一職員及俸給

設立以來學區取締世話掛學務委員事務掛等ノ族籍氏名俸給及任免年月等ノ事實ヲ詳記スヘシ

一生徒ノ員數

設立以來每一週年生徒ノ惣數及卒業生徒ノ員數ヲ詳記スヘシ

但本文生徒ハ男女ヲ分チ且卒業生徒ハ上下等及初中高等小學科等ヲ區別スヘシ

一經費收入

設立以來每一週年收入金額等（資本金利子寄附金協議集金授業料等ノ區別ヲ要ス）ヲ詳記スヘシ

一經費支出

設立以來每一週年支出金額等（教員給料職員幷諸雇給料教職員旅費書籍器械費校舍營繕薪炭油筆紙墨費雜費等ノ區別ヲ要ス）ヲ詳記スヘシ

一資本金蓄積

何年ニハ有志寄附金（一時及月賦年賦或ハ約定寄附等ノ區別ヲ要ス）何程ヲ募リ或ハ何年ニハ賦課法（地價〔石〕戸數割等ノ區別ヲ要ス）等ヲ以テ何程ヲ募ル等ノ事實ヲ詳記スヘシ

一校舍ノ敷地

買入レ借地或ハ寄附又ハ官有地下渡等ノ年月幷坪數及其理由等ヲ詳記スヘシ

但買入レノ分ハ其支辨金額及金種（寄附金或ハ協議集金等ノ類）ヲ記スヘシ

一校舍及圖面

築造增築認可及ヒ落成ノ年月幷該費額及ヒ金種等ヲ記シ或ハ借館ナレハ借入約定ノ旨趣ヲ摘書シ且ツ圖面ニハ建坪ノ數ヲ記スヘシ

一學區組合町村

設立以來變更ノ都度其變更ノ年月理由及學區町村名等ヲ詳記スヘシ

一記事要略

學校設立ノ原因及學校設立等ニ付盡力セシ人物ノ氏名行事又ハ學校ニ勤務シ功績顯著ナル教員等ノ氏名行事ヲ詳記スヘシ

右ノ外學校ニ關シ將來參考トナルヘキコトアラハ之ヲ詳記スヘシ

○第十九節　町村立私立學校ヲ集會ニ充用スルキ郡區長ノ認可ヲ經ヘシ

○本縣乙第八十一號達　明治十七年七月九日　郡區役所　戶長役場　學務委員

町村立私立學校ヲ集會ニ充用セシメントスルキハ其集會ノ事情ヲ詳具シ郡區長ノ認可ヲ經ヘシ此旨相達候事

○第二十節　教員解職ニ當リ校長ヲ置サル學校ハ學務委員ニ於テ取扱ヘシ

○本縣乙第百十一號達　明治十七年九月十七日　郡區役所　戶長役場　學務委員

徵兵令第十八條第二項第二十條第三項公立町村學校教員解職スルニ當リ校長ヲ置カサル各學校ニ於テハ徵兵事務條例第百三十四條ハ各町村學務委員ニ於テ取扱ヘシ此旨相達候事

○第廿一節　戶長在職中ハ其所轄內ノ學務委員ヲ帶勤スヘシ

○本縣乙第百三十號達　明治十七年十月廿九日　郡區役所　戶長役場

戶長在職中ハ其所轄內ニ屬スル學區（數學區ニ跨ルモノハ數學區）ノ學務委員ヲ帶勤スヘシ此旨相達候事

但シ辭令書ハ之ヲ交付セス

○第廿二節　新潟學校規則

○告第貳百六號　明治十七年十二月六日

新潟學校規則別冊之通改正ス此旨告示候事

但師範學生徒學資給與及服務規則留學生規則ハ從前ノ通可相心得事

新潟學校規則目次

第一章　目的

第二章　學科及資格

第三章　年限及學級

第四章　學年、學期及休業

第五章　學科課程、教科用圖書及授業要旨
第六章　入學、退學及證書請願
第七章　試業及證書
第八章　生徒心得
第九章　受授料
第十章　圖書及器械
第十一章　寄宿舍
第十二章　罰則

新潟學校諸規則

第一章　目的

第一條　當校ハ中學部、男子師範學部及女子師範學部ヨリ成立ス而シテ中學部ハ中人以上ノ業務ニ就クカ爲メ又ハ高等ノ學校ニ入ルカ爲メ男女兩師範學部ハ小學校教員タルヘキモノヲ養成スルカ爲メニ忠孝彝倫ノ道ヲ本トシ必須ノ學科ヲ授クル所トス

第二章　學科及資格

第一條　中學部學科ハ初等中學科高等中學科ノ二トス

第二條　初等中學科ハ脩身、和漢文、英語、算術、代數、幾何、地理、歴史、生理、動物、植物、物理、化學、經濟、記簿、習字、圖畫、及唱歌体操トス

但唱歌ハ教授法ノ整フヲ待チテ之ヲ設クヘシ（女子音樂ノ外以下總テ之ニ倣フ）

第三條　高等中學科ハ修身、和漢文、英語、三角、金石、物理、化學、記簿、本邦法令、圖畫及唱歌体操トス

第四條　初等中學科卒業ノ者ハ高等中學科高等專門學科等ヲ脩ムルヲ得

第五條　高等中學科卒業ノ者ハ大學科高等專門學科等ヲ脩ムルヲ得

但大學科ヲ修メントスルモノハ當分ノ內尙必須ノ外國語學ヲ修メンコトヲ要ス

第六條　男女兩師範學部學科ハ各初等師範學科、中等師範學科、高等師範學科ノ三トス

第七條　男子初等師範學科ハ脩身、讀書、習字、算術、地理、物理、教育學、學校管理法、

實地授業及唱歌、体操トス

第八條　男子中等師範學科ハ修身、讀書、習字、算術、地理、歷史、圖畫、生理、博物、物理、化學、幾何、記簿、農工商業、教育學、學校管理法、實地授業及唱歌、体操トス

第九條　男子高等師範學科ハ修身、讀書、習字、算術、地理、歷史、圖畫、生理博物、物理、化學、幾何、代數、經濟、記簿、農工商業、本邦法令、心理、教育學、學校管理法、實地授業及唱歌、体操トス

第十條　女子初等師範學科ハ修身、讀書、習字、算術、地理、物理、教育學、學校管理法、實地授業、裁縫、禮節、家政及音樂、体操トス

第十一條　女子中等師範學科ハ修身、讀書、習字、算術、地理、歷史、圖畫、博物、物理、教育學、學校管理法、實地授業、裁縫、禮節、家政及音樂、体操トス

第十二條　女子高等師範學科ハ修身、讀書、習字、筭術、地理、歷史、圖畫、博物、物理、化學、教育學、學校管理法、實地授業、裁縫、禮節、家政及音樂、体操トス

第十三條　高等師範學科卒業ノモノハ小學各等科ノ教員タルヲ得ヘシ中等師範學科卒業ノモノハ小學中等科及初等科ノ教員タルヲ得ヘシ初等師範學科卒業ノ者ハ小學初等科ノ教員タルヲ得ヘキモノトス

第三章　年限及學級

第一條　修業年限ハ初等中學科ヲ四ケ年トシ高等中學科ヲ二ケ年トス男子初等師範學科ヲ一ケ年トシ男子中等師範學科ヲ二ケ年半トシ男子高等師範學科ヲ四ケ年トシ女子初等師範學科ヲ二ケ年トシ女子中等師範學科ヲ三ケ年半トシ女子高等師範學科ヲ五ケ年トス

第二條　初等中學科ヲ分チテ八級トシ高等中學科ヲ分チテ四級トス男子初等師範學科ヲ分チテ二級トシ男子中等師範學科ヲ分チテ五級トシ男子高等師範學科ヲ分チテ八級トシ女子初等師範學科ヲ分チテ四級トシ女子中等師範學科ヲ分チテ七級トシ女子高等師範學科ヲ分チテ十級トス

第四章　學年、學期及休業

第一條　學年ハ九月一日ニ始リ翌年七月十五日ニ終ル之ヲ前後ノ二學期ニ分チ一學期

テ以テ一學級ニ配當ス其前學期ハ九月一日ヨリ翌年二月十五日ニ至ル百六十八日間トシ後學期ハ二月廿一日ヨリ七月十五日ニ至ル百四十五日間トス

第二條　授業日數ハ毎年大約四十週ニシテ其時間ハ毎週中學科二十九時乃至卅一時男子師範學科ハ廿八時乃至卅二時女子師範學科ハ廿八時乃至卅一時毎日凡ソ五時卅分トシ土曜日ハ三時卅分トス

但授業時間ノ終始ハ日ノ長短ニヨリテ之ヲ定ム

第三條　休業日左ノ如シ

日曜日

秋季皇靈祭　秋分日

神嘗祭　十月十七日

天長節　十一月三日

新嘗祭　十一月廿三日

冬季休業　十二月廿五日至翌年一月七日

孝明天皇祭　一月卅日

紀元節　二月十一日

前學期後休業　二月十六日至仝月廿日

春季皇靈祭　春分日

神武天皇祭　四月三日

夏季休業　七月十六日至八月卅一日

第五章　學科課程、教科用圖書及授業要旨

第一條　中學部及男女兩師範學部ノ學科課程、教科用圖書及授業要旨ヲ定ムルコト左ノ如シ

●左表欄外「假定」ノ字ヲ欄中ニ入

中學教科用圖書表

初等中學科

脩身ノ部

圖書名	卷冊記號	出版年月	著譯者氏名	出版者氏名住所
小學	四冊		宋朱熹	
大學	一冊			
論語	四冊			

和漢文ノ部

讀書

日本外史	卷ノ六ヨリ廿二マデ十六冊	明治六年六月	賴襄編輯	博論堂
日本政記	八冊	明治七年一月	賴襄著	賴又三郎 京都上京區新本木上ノ町四百五十七番地
通鑑纂要	十五冊	天保五年		
正文章軌範	三冊		姚培謙錄	
語撮徑	四冊	弘化二年十月	鈴木重胤著	
假定明倫冊集	五冊	文久二年	德川齊昭編	和泉屋 金右衛門

神皇正統記	六冊		北畠親房撰	
作文				
近世名家文鈔	卷ノ一至八 四冊	安政二年	釋月性編	
再刻日本文章軌範	三冊	未詳	石川鴻齋批撰	
正文章軌範	三冊		宋謝枋得選	
書牘文用書未定				

英語ノ部

綴字書	一冊	千八百七十五年	米人ウエブスター	
第一讀本	一冊	千八百七十五年	米人ウヰルソン	
第二讀本	壹冊	千八百七十五年	米人ウヰルソン	
第三讀本	壹冊	千八百七十四年	米人ウヰルソン	
第四中間讀本	壹冊	千八百七十四年	米人ウヰルソン	
萬國史	壹冊	千八百七十四年	米人スウヰントン	

英國史	壹	冊	千八百七十四年	米人 ジートリツチ
文法書	壹	冊	千八百七十四年	米人 クヱケンボス
文法書	壹	冊	千八百八十一年	米人 ブラオン
習字本	壹	冊		スペンセリアン

算術ノ部

筆算摘要	五	冊	明治八年十月	神津道太郎譯 神津道太郎 東京麻布區新網町一丁目廿四番地

代數ノ部

代數教科書	二	冊	明治十五年六月	田中矢德 編 近藤眞琴 東京芝區芝新錢座町十六番地

幾何ノ部

假定 筭學講本	三四	二冊	三編 明治十一年五月 四編 仝十二年十二月	陸軍士官學校 陸軍士官學校

地理ノ部

常用曲線	一	冊	明治十五年八月	赤木周行抄譯 辻諒之介外二名 東京本鄉區元町一丁目

輿地誌略	一卷ノ壹	冊	明治三年	内田正雄纂輯 大學南校
日本地誌要略	六	冊	明治十四年七月	大槻脩二編輯 青山紅樹樓 東京淺草區富坂町卅七番地
萬國地誌略	三	冊	明治十三年九月	東京師範學校編輯 文部省
コルチル地形論	四	冊	明治十二年三月	帆足義兼譯 帆足義兼 東京神田佐久間町四丁目
日本地圖	六	軸	明治十四年八月	中野豐記著 小林二郎 新潟縣新潟區東仲通
萬國地圖	七	軸		米人 ミツチユル

歷史ノ部

假定 國史纂要	十五	冊	明治十二年十月	星野恆 著 星野恆 東京麴町區中六番丁五十五番地
十八史略	七	冊	明治九年四月	大賀富士再補 大賀富士 東京芝區飯倉五丁目五番地
續十八史略	五	冊	明治八年八月	宮脇通赫編次 山中市兵衛 東京芝區三嶋町
校正萬國史略	十一	冊	明治九年八月	西村茂樹 編 西村茂樹 東京京橋區築地一丁目一番地

生理ノ部

カットル氏生理養生篇	壹	冊	明治十三年五月	小林義直	譯
人体解剖圖	二	軸		ジョンストン	

動物ノ部

普通動物學	壹	冊	明治十四年九月	丹波敬三外二名編	丹波敬三

植物ノ部

普通植物學	壹	冊	明治十四年九月	丹波敬三外二名合譯	丹波敬三外二名

物理ノ部

改正物理全誌	壹	冊	明治十三年一月	宇田川準一譯	諸葛信澄

化學ノ部

小等化學書	三	冊	明治七年十二月	市川盛三郎譯	文部省

經濟ノ部

寶氏經濟學	五	冊	明治十年十月	永田健助譯	永田健助

記簿ノ部

簿記學階梯	貳	冊	明治十一年十月	森嶋脩太郎 森下岩楠合譯	森嶋脩太郎 森下岩楠

習字ノ部

楷書千字文	壹	帖		唐顔眞卿書	
行書千字文	一	帖		卷菱湖書	
草書千字文	一	帖		卷菱湖書	

圖畫ノ部

臨書帖				フオスター	
用器畫法	三	冊	明治十六年四月	平瀬作五郎纂譯	中嶋精一 國町三番地

高等中學科

修身ノ部

論語	四	冊			
中庸	一	冊			
近思錄	二	冊			

和漢文ノ部

讀書

徒然草讀本	二冊	明治十七年五月	高津柏樹標註	丸屋善七 東京日本橋通三丁目
史記評林	二十五冊	万暦五年八月	凌稚雲輯	
春秋左氏傳	十五冊	明治十二年六月	宮脇通赫校輯	
唐宋八大家文讀本	十六冊	文化十年	清沉德潛	

作文

唐宋八大家文讀本	十六冊	文化十年	清沉德潛	
古今集	（四季ノ部）			
三体詩				

英語ノ部

讀本	第四第五二冊	千八百八十二年	米人サンダー	
ウオーレン ヘスチング	一冊		英人マーコレー	東京大學文學部翻刻
ヒヘヰヒア、エンドカルチコア			米人エマソン	東京大學文學部翻刻
シヒリゼヰシヨン アートエントクロクエンス			米人エマソン	東京大學文學部翻刻
アツドレヰス、オン、ゼヰクレヰム、オフ、サヰンチヒクイジユケ、シヨン			ジヤスタス、リビーグ バルナード ユーマン 三名	東京大學文學部翻刻
キヤラクター		千八百八十年	英人スマヰル	
セルフ、ヘルプ		千八百八十年	英人スマヰル	
文學書		千八百七十四年	米人クレブランド	
脩辞書		千八百七十四年	米人クエケンボス	

三角法ノ部

測角便蒙	三冊	明治八年	淺田世良著	陸軍文庫
假定正面三角法	一冊	明治十六年六月	突兌翰多爾氏著 長澤龜之助譯述	川北朝隣 麴町區富士見町二丁目六番地

金石ノ部

金石學	一冊	明治十年	和田維四郎譯	東京博物館

假定地學要略	一	冊	明治十六年十一月	富士谷孝雄編述　富士谷孝雄　東京麹町區下六番丁三十番地
物理學ノ部				
士都華氏物理學	一	冊	明治十六年一月	東京大學
改正物理全誌	一	冊	明治十三年一月	川木清一譯　諸寫信澄　東京九大區小三區西ケ原村七十七番地
化學ノ部				
羅斯珂氏化學	十	冊	明治九年五月	茂木春太譯　開成學校
記簿ノ部				
簿記學階梯	二	冊	明治十一年十月	森嶋脩太郎　森下岩楠合譯
簿記學例題	一	冊	明治十一年十二月	森嶋脩太郎著　森島脩太郎
木邦法令ノ部				
類集法規	自明治元年至仝十五年十六冊			司法省　博聞社　東京京橋區銀座四丁目
圖書ノ部				
臨書帖				フオスター

一初等中學科近世名家文鈔ハ卷ノ二、八高等中學科徒然草讀本ハ不都合ノ箇所ヲ省キテ用フ

一初等中學科輿地誌略ハ總論ノ部ノミ地形論及高等中學科測角便蒙ハ書中誤謬等不掛ニ付注意シテ授ク

一初等中學科ノ物理全誌ハ天文學ノ部ヲ省キテ授ク

一高等中學科士氏物理學ハ氣象學ヲ欠ク故ニ物理全誌氣中現象ノ部ヲ以テ之ヲ補フ又測角便蒙ハ卷ノ四五ヲ省キ平面三角法ト併用ス

一高等中學科類聚法規ハ必須ノ部ヲ摘シテ授ク

一高等科用器畫法ハフオスター臨畫帖ヨリ摘シテ授ク

中學科授業ノ要旨

脩身　本科ハ專ラ儒敎ニ基キ先ツ賢哲ノ嘉言、善行ニ依リテ孝悌、忠信等ノ事ヲ說キ次ニ修身上ノ理ニ及ホシ以テ人倫ノ大道、處世ノ要務ヲ知ラシムヘシ總テ本科ヲ授クルニハ德性ヲ養ヒ躬行履踐ヲ務メシムルヲ旨トシ徒ニ章句ノ記誦ニ止マラシメサル

ヲ要ス

和漢文　本科ヲ分チテ讀書作文トス

讀書ニ於テ和文ハ文字、言語、音韻等ノ諸論ヨリ用言運用言ノ定則ヲ授ケ古今ノ文章ニ依リテ其倚格ヲ講究シ其活用ヲ了知シ併セテ雅文ノ意義ヲ解セシム漢文ハ古今ノ書ニ就キ先ツ文字ノ音訓、句讀ノ斷續、章句ノ意義ヲ明カニシ稍々進ムニ從ヒテ字句ノ安排、篇章ノ起伏、照應等ノ諸法ヲ說キ以テ詳カニ文理ニ通曉セシメ兼テ作文ニ資ス

作文ハ書牘日用ノ俗体ヨリ記事論說ノ假名交リ文、和文、漢文ニ及ホシ書牘文、假名交リ文、和文ハ近世及中古雅馴ノ文体ニ漢文ハ古雅ノ文体ニ倣ヒテ之ヲ作ラシム總テ文題ハ實用ニ適切ナルモノヲ撰ヒ撰文ハ簡明着實ニシテ句調暢和ナランコトヲ要シ又時ニ詩歌ヲ作ラシム

英語　本科ヲ分チテ綴字、讀方、譯讀、讀書、文法、修辭、習字、作文トス

綴字ハ文字ノ名及音、拇音、子音ノ區別等ヲ授ケ以テ發音ヲ正クシ稍習熟スルニ至レハ單語ヲ分音セシメ或ハ之ヲ書取ラシメ以テ綴字法ニ練熟セシム

讀方ハ音聲ノ抑揚、句讀ノ斷續ヲ明ニシ以テ聽者ヲシテ容易ニ意義ヲ會得セシムルヲ旨トシ且讀讀ノ際狀貌ヲ整ヘ音調ヲ正シクセシメンコトヲ務ム

譯讀ハ英語ヲ邦語ニ譯シ其意義ヲ了解セシメ以テ專ラ解文ノ力ヲ養ハンコトニ要ス

讀書ハ讀方、譯讀ヲ兼ネ授クルモノトス之ヲ授クルニハ生徒ヲシテ正シク章句ヲ誦讀セシメ教師其意義ヲ講明シ或ハ生徒ヲシテ之ヲ解釋セシメ遂ニ英文ヲ直讀シテ其意義ヲ理會スルニ至ラシムルヲ旨トシ又時々緊要ノ章句ヲ書取ラシメ以テ聽感ヲ練リ筆記ニ慣レシム

文法ハ言詞、章句ノ法則、用格等ヲ授ケ實地ニ就キテ之ヲ練習シ又時々文章ノ誤謬ヲ修正セシメ以テ英語ヲ理會スルノ力ヲ鞏固ナラシム

修辭ハ言論、文章ノ潤色、活用等ヲ知ラシメ以テ英文撰成ノ法ヲ會得セシムルヲ旨トス

習字ハ先ツ姿勢、執筆及運筆ノ法ヲ授ケ次ニ手本ニ就キテ之ヲ習熟セシム總テ字形

鮮明ニシテ運筆ヲ自在ナラシム

作文ハ先ツ適實卑近ノ題ヲ課シテ簡易ノ文章ヲ作ラシメ或ハ塡語、正誤ノ法ニ依リテ其作倒ヲ知ラシメ漸次書牘文、記事文、論說文ニ及ホシ又時々和文英譯ヲナサシメテ以テ實用ノ利ヲ收メシメンコトヲ要ス

算術　本科ハ加減乘除ニ始メ級數ニ終ル之ヲ授クルニハ每法其數理ヲ講明シ法則ヲ論證シ必ス生徒ヲシテ之ヲ了會セシメ然ル後日用適切ノ問題ヲ課シテ其應用ヲ練習シ施算正確ニシテ且迅速ナラシム

代數　本科ハ先ツ字母、記號ノ用方等ヲ授ケ次ニ整數四術ヨリ漸次列數ニ及ホシ之ヲ授クルノ要ハ算術科ニ異ナルコトナシト雖モ本科ハ他日數學ノ基本ヲ立テシムルモノナレハ理論ヲ推究スル殊ニ其精細ヲ加フ

幾何　本科ハ先ツ術語ノ界說、記號ノ用方等ヲ授ケ次ニ線、角、面、体ノ性質、關係及測度法ニ及ホシ之ヲ說明スルニハ最モ詳細精確ヲ旨トシ又常用曲線ハ圓錐斜截ノ曲線ニ關スル普通ノ諸理ヲ知ラシムルヲ務メ共ニ實用ニ適切ナル問題ヲ課シテ學理ノ應

用ヲ練習セシム

三角法　本科ハ先ツ術語ノ界說及ヒ八線ノ變化ヲ授ケ次ニ諸三角形ノ測度法ニ及ホシ其要式ヲ暗記セシメ適實ナル問題ヲ課シ務メテ諸則ノ應用ト對數ノ用法トヲ練習セシム

地理　本科ヲ分チテ地理、地文トス

地誌ハ先ツ總論ヲ授ケ次ニ本邦ヨリ萬國ニ及ホシ各國ノ位置、形勢、風俗、邦制上ノ區畫、都邑、物產等ヲ授ケ地文ハ地球ノ位置、搆成、外狀、氣中水中ノ顯象、海陸生物ノ分賦等ヲ授ケ其事本邦ニ關スルモノハ殊ニ詳細ヲ加フ總テ本科ヲ授クルニハ務メテ實物、摸型、地圖等ヲ示シ以テ記憶ヲ鞏固ナラシム

歷史　本科ヲ分チテ本邦、支那、萬國トス

本科ハ先ツ本邦ノ歷史ヲ課シ主トシテ建國ノ体制、風俗ノ變迁、政度ノ沿革、治亂興敗ノ跡、學術ノ隆替、明主賢相ノ偉行、忠臣義士ノ節操等ヲ講授シ務メテ尊王愛國ノ志氣ヲ振起セシメンコトヲ要ス

次ニ支那歴史ヲ課シ以テ我邦制度、文獻ノ其國ニ關スルモノ亦掛カラサルヲ知ラシメ終リニ萬國ノ歴史ニ及ホシテ其概略ヲ授ク又歴史ト地理ノ科ノ如キハ照應解明シテ相想起セシメ以テ記憶ヲ鞏固ナラシム

生理　本科ハ先ツ總論ヲ授ケ次ニ骨骼、筋肉、消化、循血、呼吸、感覺等ノ諸器ニ就キテ其構造、效用等ヲ說キ兼テ養生法ニ及ホシ以テ人身發育ノ理ト攝生ノ法トヲ知ラシム而シテ本科ヲ授クルニハ務メテ人体模型、解剖圖等ヲ示シ以テ其講スル所ヲ明確ナラシム

動物　本科ハ總論ヨリ分科法、各科動物ノ構造、發育、習慣、產地、效用等ヲ授ケ務メテ實物ニ就キテ之ヲ講明シ以テ知識ヲ確實ニシ動物ノ全界ヲ了解セシメンコトヲ要ス

植物　本科ハ總論ヨリ形狀、構造、生理、產地、分科法等ヲ授ケ務メテ實物ニ就キテ之ヲ講明シ以テ知識ヲ確實ニシ植物ノ全界ヲ了解セシメンコトヲ要ス又緊要ナル植物ニ在リテハ特ニ其性質、效用等ヲ知ラシム

金石　本科ハ先ツ金石ノ形象、物理及化學上ノ性質等ニ關スル總論ヲ說キ略々分科法

ニ通セシメ然ル後實物若シクハ標品ニ就キテ通常金石ノ性質、識別法、效用、產地等ヲ授ケ又終リニ於テ地質學ノ大意ヲ授ケ地層ノ構造、種類等ヲ知ラシメ採鑛術ノ端緒ヲ開カンコトヲ要ス

以上ノ三科ヲ授クルニハ徒ニ學理ヲ講スルヲ以テ足レリトセス廣ク農工商ノ實用ニ供スルノ方ヲ索メ且本邦產スル所ノ動物、植物、金石ニ就キテ其講スル所ヲ詳明センコトヲ要ス

物理　本科ハ初等科ニ在リテハ總論ヨリ萬物形態上ノ現象及法則ノ大意ヲ授ケ高等科ニ至リテ尚其高尚ナル理論及諸力ノ關係等ヲ授ケ務メテ實驗ヲ施シ以テ其講スル所ヲ証明シ實理ト應用ノ道トヲ知ラシム

化學　本科ハ初等科ニ在リテハ通常ノ元素及其化合物ノ概略ヲ說キ以テ化學ノ大意ヲ知ラシメ高等科ニ至リテ尚精密ニ總論、元素化合ノ法則及化合物ノ性狀、製法、效用等ヲ授ケ次ニ有機化學ノ大意ニ及ホシ以テ化學ノ全体ヲ知ラシム總テ本科ヲ授クル

ニハ務メテ實驗ヲ施シ又實物、標品、繪圖等ヲ示シテ其講スル所ヲ証明シ以テ應用ノ一班ヲ知ラシム

經濟　本科ハ生財、配財、交易等ニ關スル學理ノ要領ヲ摘授シ務メテ實例ニ就キテ利用、厚生ノ道ヲ知ラシムルヲ旨トシ徒ニ理論ニ馳セス且一家ノ所說ニ偏セサランコトヲ要ス

記簿　本科ハ初等科ニ在リテハ先ツ借貸ノ理、帳簿ノ種別、用法等ヲ授ケ次ニ實地記入ノ法、試算表、正算表ヲ製スルノ式及手形証書ノ式等ニ及ホシ簡易ノ問題ヲ課シテ之ヲ練習セシメ高等科ニ至リテ更ニ實地ニ生スヘキ種々ノ錯雜ナル問題ヲ課シテ反復練習セシメ以テ實用ニ方リ誤謬ナカラシム

本邦法令　本科ハ本邦現行ノ諸法令中敎育、衛生、戶籍、財產、兵役等ノ如キ臣民タルモノヽ日常知ラサルヘカラサルモノニ就キテ其要略ヲ授ケ但成文ノ意義ヲ知ラシムル旨トシ其理ヲ講スルヲ要セス

習字　本科ハ先ツ執筆及運筆ノ法ヨリ漸次間架、結搆ノ法ヲ授ケ手本ニ就キテ之ヲ習

熟セシメ且筆力適勁ニシテ**字形**端正ナルヲ要ス

圖畫　本科ヲ分チテ自在畫法、用器畫法トス

自在畫ハ先ツ姿勢、執筆及運筆ノ法ヲ授ケ次ニ範本、摸型或ハ實物ヲ示シテ之ヲ臨寫セシメ以テ手指、眼目ヲ練習セシムルヲ旨トシ用器畫ハ幾何畫法、投影畫法等ノ諸理ヲ講明シ之ヲ活用シテ實地ニ眞体ヲ畫カシム總テ本科ヲ授クルニハ排列ノ法其宜ヲ得光線陰影ノ法其度ニ適セシメンコトヲ要ス

体操　本科ハ徒手運動、器械運動ヲナサシメ身体ノ發育ヲ平等ニシ健康ヲ保全セシムルヲ旨トシ兼テ步兵操練ヲ授ケ兵技ヲ演習セシム

◉左表欄外ニアル「假定」ノ二字及ヒ「△□○×」等ノ符ヲ初欄中ニ入

男子師範學敎科用圖書表

脩身ノ部

圖書名	卷冊記號	出版年月	著譯者氏名	出版者氏名住所
△□○小學	內外篇		宋朱熹	
×大學	一冊			
×論語	四冊			
○中庸	一冊			
假定△□○小學作法演習書	一冊	明治十六年十二月	水野忠雄	東京麹町區飯田町二丁目六十五番地
△□○新撰立禮式	二冊	明治十六年五月	水野忠雄著述 小笠原清務著述	小笠原清務 東京神田區猿樂町三番地 水野忠雄 東京麹町區飯田町二丁目六十五番地

讀書ノ部

讀書

△□○和文讀本	四冊	明治十五年十二月	稻垣千頴輯	東京下谷區仲徒士町二丁目廿一番地
△語彙別記	一冊	明治四年十二月	岡本保孝外五名撰	編輯察
×語孟字義	五冊	弘化二年	鈴木重胤著	

假定×明倫歌集	五冊	文久二年晚冬	德川齊昭	和泉屋金右衛門
○土佐日記	二冊		紀貫之作	
×通鑑擊要	十五冊	天保五年	姚培謙錄	
△□○日本政記	八冊	明治七年一月	賴襄著	賴又三郎 京都上京區廿二組新三本木上ノ町
□文章軌範	三冊	明治新刻	宋謝枋得選	
○唐宋八大家文讀本	十六冊	文化十年	清沉德潛選	
○春秋左氏傳	十五冊	明治十二年六月	宮脇通赫校輯	

作文

△□○近世名家文鈔	卷ノ一至八四冊	安政二年	釋月性編	
×再刻日本文章軌範	三冊		稻田佐平	東京京橋區三十間堀二丁目四番地
○唐宋八大家文讀本	十六冊		清沉德潛選	
○徒然草讀本	二冊	明治十七年二月	高津柏樹標註	丸屋善七 東京日本橋區通三丁目十四番地
□文章軌範	三冊	明治新刻	宋謝枋得撰	

書牘文未定			
○土佐日記	二	冊	紀貫之作
習字ノ部			
△□○楷書千字文	一	帖	唐顏眞卿書
△□○行書千字文	一	帖	卷菱湖書
△□○草書千字文	一	帖	卷菱湖書
算術ノ部			
筆算			
△□○筆算摘要	五	冊	明治八年十一月 神津道太郎譯 神津道太郎東京麻布新網町二丁目廿四番地內八番地
△□○算術教科書	一	冊	同十六年 田中矢德編 近藤眞琴 東京芝溜錢座町十番地
珠算			
△□○珠算精法	六	冊	同十二年四月 駒野政和著 駒野政和 東京牛込區北山伏町四十六番地
地理ノ部			

△□○地誌略	卷一一	冊	明治三年十月 內田正雄纂輯 文部省
△□○新潟縣地誌略	二	冊	明治十三年四月 大槻脩二編輯 松田周平 新潟縣長岡吳服町百三十番地
△□○日本地誌要略	六	冊	同十三年九月改正 大槻脩二編輯 大槻脩二 東京淺草區富坂丁三十四番地
△□○小學暗射日本地圖附錄	二	冊	同十四年七月 中野豐記編輯 小林二郎 新潟縣新潟區東仲通
△□○新潟縣地圖	一	軸	同十三年四月 大槻脩二 著 松田周平 新潟縣長岡吳服丁百三十四番地
△□○日本地圖	六	軸	同十四年八月 中野豐記編纂 小林二郎 新潟縣新潟區東仲通
×萬國地誌略	四	冊	同十二年三月 東京師範學校編輯
×萬國地圖	七	軸	ミツチエル著
○地形論	四	冊	明治十二年三月 帆足義兼著 帆足義兼 東京神田佐久間町四丁目廿四番地
歷史ノ部			
×皇朝史略	正續八	冊	明治八年五月 青山延于著 文淵堂 文敬堂
假定×近世日本外史	六	冊	明治九年五月 關機著 稻田佐平 東京一大區小六區通二丁目十九番地
×十八史略	正十二續	冊	正明治九年四月 續同年八月 大正賀富二再補 川端藤次郎 京都下京三條通高倉東屋丁八十八番地

書名	冊數	出版年月	著譯者	出版人
○校正萬國史略	十一冊	明治九年八月	西村茂樹編輯	西村茂樹 東京京橋區築地一丁目一番地
圖畫ノ部				
△□○臨畫帖			フオスター	
□用器畫法	三冊	明治十五年十一月	平瀬作五郎譯	中嶋精一 東京芝區三田四國丁三番地
○圖畫臨帖	三冊	明治十六年二月	東京醫學豫備校	東京醫學豫備校 東京神田區同朋町廿番地
生理ノ部				
□弗氏生理書	七冊	明治八年八月	坪井爲春 小林義直同譯	文部省
○生理養生篇	四冊	明治十三年五月	小林義直譯	小林義直 東京本鄉區駒込西片町拾番地
○人体解剖圖	二軸		ジヨンストン	
博物ノ部				
動物				
×普通動物學	壹冊	明治十六年	丹波敬三外二名編	丹波敬三 東京本鄉區弓町二十番地
植物				

書名	冊數	出版年月	著譯者	出版人
×植物通解	壹冊	明治十六年二月	矢田部良吉譯	文部省
金石				
×金石學	壹冊	明治十一年	和田維四郎譯	博物館
物理ノ部				
△小學物理書	三冊	明治十七年四月	志賀泰山譯	原亮三郎 東京日本橋區本町三丁目十七番地
×改正物理全誌	一冊	明治十三年一月	宇田川準一譯	諸葛信澄 東京九大區小三區西ヶ原村七十七番地
化學ノ部				
□訓蒙化學	二冊	明治十三年九月	中川謙二郎編述	讀我書屋
○羅斯珂氏化學	無機部六冊	明治九年五月	茂木春太譯	開成學校
幾何ノ部				
○幾何教科書	壹冊	明治十五年十月	田中矢德編	田中矢德 東京神田區五軒町廿番地
□幾何新論	完一冊	明治十年二月	宮川保全譯	大村長衛 東京小石川區金富町三十一番地
代數ノ部				

○代數教科書	二冊	明治十五年一月同年六月	田中矢德編	近藤眞琴 東京芝區新錢座丁十番地

經濟ノ部

○實氏經濟學	五冊	明治十年十月	永田健助譯	永田健助 東京牛込區揚場丁十七番地

記簿ノ部

×簿記學階梯	二冊	明治十一年十月	森嶋修太郎合譯 森下岩楠	森島修太郎 森下岩楠

農工商ノ部

×小學商業書	二冊	明治十三年五月同十六年七月	塚原苦園著	塚原苦園 東京四ッ谷坂町百六拾番地
×農學捷徑	一冊	明治十四年十二月	關澄藏	中島精一 東京芝區三田四國丁廿六番地
×農工商經濟論	十冊	明治十六年十一月	永田健助譯	

本邦法令ノ部

○類聚法規	自明治元年至同十五年十六冊		司法省	博聞社 東京銀座四丁目

心理ノ部

○心理新說	四冊	明治十五年九月	井上哲次郎譯	青木輔清 東京日本橋區濱町二丁目十一番地

教育學學校管理法ノ部

×日本教育史略	全壹冊	明治十年八月	大槻修二編	文部省
△□○平民學校論略	一冊	明治十三年二月	村岡範爲馳譯	文部省
△□○學校管理法	一冊	明治十五年九月	伊澤修二著	森重遠 東京小石川區小日向臺三丁目廿番地
八□心論	一冊	明治十一年四月	川本清一譯	文部省

一本邦法令ノ部類聚法規教育學學校管理法ノ部人心論平民學校論略ハ口授ノ用書トス

一歷史ノ部皇朝史略教育學學校管理法ノ部人心論作文ノ部徒然草讀本ハ不都合ノ箇所同シク近世名家文鈔ハ卷ノ二八ヲ省キテ用フ

一生理ノ部弗氏生理書ハ附錄ヲ省キ教育學々校管理法ノ部平民學校論略ハ本邦ノ教育ニ適セサル所ヲ省キテ用フ

一地理ノ部輿地誌略ハ總論ノ部ノミ地形論ハ書中誤謬アルニ付注意シテ授ケ代數ノ

部代數教科書ハ二次方程式マテヲ用フ

一禮儀ノ部新選立禮式讀書ノ部語提徑明倫歌集本邦法令ノ部類聚法規ハ斟酌シテ之ヲ用フ

一筆算ノ部筆算術教科書ハ筆算摘要ノ不足ヲ補フモノトス

一表中△ハ初等科□ハ中等科○ハ高等科×ハ中等高等通シテ用ユルノ符號ナリ

男子師範學科授業ノ要旨

男子師範學部ハ忠孝彝倫ノ道ヲ本トシテ生徒ヲ教導スヘキモノナレハ生徒ナシテ殊ニ其品行ヲ修メ其心力ヲ研キ夙夜黽勉小學校教員心得ニ掲ケル所ノ條款ヲ服膺セシムヘシ又師範學科ノ授業ハ他日生徒ノ自ラ兒童ヲ教授スルノ摸範タルヘキモノナレハ教師タルモノハ殊ニ課業ノ撰擇ヲ愼ミ實用ヲ主トシテ高尚ノ理論ニ馳セス設問教示懇到周密ナランコトヲ旨トスヘシ生徒ノ應答講習亦詳明着實ナランコトヲ要ス而シテ師範學科ノ中他日兒童ニ授ケヘキモノハ唯之ヲ知ラシムルノミナラス之ヲ兒童ニ傳ヘシムルノ目的ヲ以テ教授スルコト極メテ緊要ナリトス

修身附禮儀　本科ハ每級ニ於テ必ス之ヲ課スルモノトス其要ハ專ラ儒教ニ基キ聖賢ノ嘉言善行ヨリ修身上ノ理ヲ講授シ以テ人倫ノ大道、處世ノ要務ヲ知リ常ニ躬行實踐シテ自己ノ德性ヲ養ヒ他日子弟ヲ感化スルノ基ヲ立テ兼テ禮儀ヲ習ハシムヘシ又時々生徒ヲシテ教師ノ地位ニ立チ小學校ニ於テ授クヘキ修身ノ講談ヲナサシムヘシ

讀書　本科ヲ分チテ讀書、作文ノ二トス讀書ニ於テ和文ハ五十音及音韻ノ清濁ヨリ用言、運用言ノ定則ヲ示シ古今ノ文章ニ依リテ其例格ヲ知リ併セテ雅文ノ意義ヲ解セシムヘシ漢文ハ雅馴ノ文体ニ就キテ講授シ文字ノ音訓、句讀ノ斷續ヲ明カニシ、句意、章意ヲ詳ニシ且文章ノ主客、抑揚、應照等ノ諸法ヲ說キ以テ文理ニ通セシムヘシ

作文　先ツ日用書牘ノ文体ヲ熟セシメ次ニ記事、論說ノ假名交リ文ヨリ簡易ノ和文及漢文ヲ作ラシムヘシ文題ハ務メテ實用ニ適スルヲ旨トシ摘文ハ着實ニシテ句暢調和ナランコトヲ要ス

習字　本科ハ姿勢執筆及運筆結字ノ法ヲ教ヘ然ル後手本ニ就キテ之ヲ練習シ又黒板書方ニ習熟セシムヘシ

算術　本科ヲ分チテ筆算、珠算ノ二トス筆算ハ加減乘除ヨリ求積ニ至リ珠算ハ之レヲ差分ニ止メ共ニ諸法ノ理數ヲ說明シ法則ヲ論証シ日用適切ノ問題ヲ課シテ其應用ヲ練習シ施算正確ニシテ且迅速ナラシム

地理　本科ヲ分チテ地誌、地文ノ二トス地誌ハ先ツ總論管内幷ニ本邦ヨリ萬國ニ及ホシ各國ノ位置、區域、形勢、人口、風俗、都邑、物産等ノ誌ヲ授ケ地文ハ地球ノ全体地上ノ諸現象及生物分賦ノ事等ヲ授ク且本邦ニ關係スル事項ハ特ニ詳細ヲ加フ凡テ本科ヲ授クルニハ務メテ實物、摸型、地圖等ヲ示シ以テ記憶ヲ鞏固ナラシム

歷史　本科ヲ分チテ本邦、支那、萬國ノ三トス本邦及支那史ハ建國ノ体制、制度ノ沿革、治亂ノ顚末、風俗ノ變更、學術ノ隆替、明主賢相、忠臣義士ノ偉績、節操等ヲ說キ本邦ニ在リテハ特ニ詳細ヲ加ヘ尊王愛國ノ志氣ヲ振起セシメンコトヲ要ス萬國史ハ古今各國ノ形勢、盛衰ノ概略ニ通セシムルヲ旨トス又歷史ト地理ノ科ノ如キハ照應解明シテ相想起セシメ以テ記憶ヲ鞏固ナラシム

圖畫　本科ヲ分チテ自在畫法、用器畫法ノ二トス自在畫ハ先ツ執筆運筆ノ法ヲ授ケ次ニ範本、摸型、或ハ實物ヲ示シテ之ヲ臨寫セシメ以テ手指眼目ノ練習ヲ要ス用器畫ハ幾何畫法及投影畫法等ノ理ヲ講シ之ヲ活用シテ實地ニ眞体ヲ畫キ又黑板畫方ニ習熟セシム

生理　本科ハ總論ヨリ骨骼、筋肉、消化、循血、呼吸、感覺等ノ諸器ニ就キテ其構造、効用等ヲ說キ兼テ養生法ニ及ホシ以テ身体ノ發育スル所以ノ理、飮食ヲ節シ運動ヲ勉ムヘキ所以ノ理ヲ知ラシム而シテ教授ノ際務メテ人体、解剖圖、骨骼、摸型等ヲ示シ以テ其講スル所ヲ明確ナラシム

博物　本科ヲ分チテ植物、動物、金石ノ三トス植物ハ總論ヨリ形狀、構造、生理ノ概略及分科法ヲ授ケ又通常植物ノ性質、効用等ヲ知ラシム動物ハ總論、分科法ヨリ各科動物ノ名稱、習慣、効用等ヲ授ケ金石ハ總論、分科法ヨリ通常金石ノ形狀、性質、効用、產地等ヲ授ク總テ本科ヲ授クルニ主トシテ本邦所產ノ物ニ就キテ之ヲ講明シ務メテ實物、標品、摸型等ヲ示シ以テ其講スル所ヲ明確ナラシム

物理　本科ハ總論ヨリ萬物形態上ノ現象及法則ヲ教ケ教師自ラ實驗ヲ施シ或ハ生徒ヲ

シテ之ヲ爲サシメ以テ講スル所ヲ證明シ務メテ其眞理ヲ了解シ應用ノ道ヲ知ラシム

化學　本科ハ總論、元素化合ノ法則及化合物ノ性質、製法、効用等ヲ授ケ敎師自ラ實驗ヲ施シ或ハ生徒ヲシテ之ヲ爲サシメ以テ講スル所ヲ證明シ應用ノ一班ヲ知ラシメンコトヲ要ス

幾何　本科ハ先ツ術語ノ界說、記號ノ用方等ヲ授ケ次ニ線、角、面体ノ性質、關係及其測度法ニ及ホシ種々ノ問題ヲ與ヘテ諸則ヲ應用セシメ以テ思想ヲ精密ナラシム總テ理論ヲ說明スル詳細ニシテ且精確ナランコトヲ要ス

代數　本科ハ先ツ字母、記號ノ用法等ヲ授ケ次ニ整數四術ヨリ三次方程式ニ及ホシ其他ノ要旨ハ算術科ニ同シト雖モ特ニ理論ヲ推究スル精細ヲ加ヘ數學ノ智識ヲ密ニシ他日兒童ニ明晰ノ敎授ヲ施スヲ得セシム

經濟　本科ハ生財、配財、交易ニ關スル要領ヲ授ケ務メテ實例ニ就キ理論ニ馳セス又一家ノ說ニ偏セス以テ利用厚生ノ道ヲ知ラシム

記簿　本科ハ先ツ借貸ノ理、諸帳簿ノ用法ヲ授ケ次ニ實地記入ノ法、試算表、正算表ヲ

製スルノ式及手形証書ノ式等ニ及ホシ種々ノ問題ヲ課シテ之ヲ習練セシメ實用ニ方リ誤謬ナカラシム

農工商業　本科ハ農、工、商實地作業ノ大要ニ通セシムルヲ旨トシ高尙ナル理論ヲ避ケ務メテ實用ニ適セシメ兼テ農、工、商家經濟ノ梗概ヲ知ラシム

本邦法令　本科ハ現行ノ諸法令中臣民タルモノヽ日常知ラサルヘカラサルモノニ就キ其要略ヲ授ク但シ成文上ノ意義ヲ解セシムルヲ旨トシ其理ヲ講スルヲ要セス

心理學　本科ハ心意諸力ノ作用、發達ノ順序及ヒ之ヲ衝動スヘキ方法等ヲ知ラシメ務メテ實着ノ知識ヲ得セシム

敎育學及學校管理法　本科ハ德育、智育、体育ノ理、敎育ノ沿革、敎育ニ關スル法令、小學各等科ノ授業法等ヲ授ケテ學校管理ノ要務ニ通曉セシメ以テ之ヲ實施スルノ方法ヲ講究セシム

實地授業　本科ハ附屬小學校ニ就キ小學各等科ノ授業ニ從事セシメ以テ其己ニ學ヒシ所ノ敎育ノ理、學校管理ノ法ヲ實地ニ練習セシメ又時々敎師自カラ兒童ヲ敎授シテ

シテ之ヲ爲サシメ以テ講スル所ヲ證明シ務メテ其眞理ヲ了解シ應用ノ道ヲ知ラシム

化學　本科ハ總論、元素化合ノ法則及化合物ノ性質、製法、効用等ヲ授ケ次ニ線、角、面体ノ性質、關係及其測ヲ施シ或ハ生徒ヲシテ之ヲ爲サシメ以テ講スル所ヲ證明シ應用ノ一班ヲ知ラシメンコトヲ要ス

幾何　本科ハ先ツ術語ノ界説、記號ノ用方等ヲ授ケ次ニ線、角、面体ノ性質、關係及其測度法ニ及ホシ種々ノ問題ヲ與ヘテ諸則ヲ應用セシメ以テ思想ヲ精密ナラシム總テ理論ヲ説明スル詳細ニシテ且精確ナランコトヲ要ス

代數　本科ハ先ツ字母、記號ノ用法等ヲ授ケ次ニ整數四術ヨリ二次方程式ニ及ホシ其他ノ要旨ハ算術科ニ同シト雖モ特ニ理論ヲ推究スル精細ヲ加ヘ數學ノ智識ヲ密ニシ

他日兒童ニ明晰ノ教授ヲ施スヲ得セシム

經濟　本科ハ生財、配財、交易ニ關スル要領ヲ授ケ務メテ實倘ニ就キ理論ニ馳セス又一家ノ説ニ偏セス以テ利用厚生ノ道ヲ知ラシム

記簿　本科ハ先ツ借貸ノ理、諸帳簿ノ用法ヲ授ケ次ニ實地記入ノ法、試算表、正算表ヲ製スルノ式及手形証書ノ式等ニ及ホシ種々ノ問題ヲ課シテ之ヲ習練セシメ實用ニ方リ誤謬ナカラシム

農工商業　本科ハ農、工、商實地作業ノ大要ニ通セシムルヲ旨トシ高尚ナル理論ヲ避ケ務メテ實用ニ適セシメ兼テ農、工、商家經濟ノ梗概ヲ知ラシム

本邦法令　本科ハ現行ノ諸法令中臣民タルモノハ日常知ラサルヘカラサルモノニ就キ其要略ヲ授ク但シ成文上ノ意義ヲ解セシムルヲ旨トシ其理ヲ講スルヲ要セス

心理學　本科ハ心意諸力ノ作用、發達ノ順序及ヒ之ヲ衝動スヘキ方法等ヲ知ラシメ務メテ實着ノ知識ヲ得セシム

教育學及學校管理法　本科ハ德育、智育、体育ノ理、教育ノ沿革、教育ニ關スル法令、小學各等科ノ授業法等ヲ授ケテ學校管理ノ要務ニ通曉セシメ以テ之ヲ實施スルノ方法ヲ講究セシム

實地授業　本科ハ附屬小學校ニ就キ小學各等科ノ授業ニ從事セシメ以テ其己ニ學ヒシ所ノ教育ノ理、學校管理ノ法ヲ實地ニ練習セシメ又時々教師自カラ兒童ヲ教授シテ

授業ノ摸範ヲ示シ或ハ授業ノ生熟ヲ批評シ之ヲ改良セシメンコトヲ要ス

体操　体操ハ徒手運動、器械運動ヲ爲サシメ身体ノ發育ヲ平等ニシ健康ヲ保全セシムルヲ旨トシ兼テ体操ノ本旨及準備ヲ知ラシム又歩兵操練ヲ授ケ兵技ヲ演習セシム

●左表欄外の「假定」及び「△□○×」等の符號を初欄中に入る

女子師範學教科用圖書表

脩身の部

圖書名	冊數記號	出版年月	著譯者氏名	出版者氏名住所
△□○和漢孝義錄	三冊	明治十五年八月	鈴木重義　編	
△□○女誡	一冊	嘉永甲寅	後漢曹大家著　王相晉升箋注	孝友堂
△□○標注劉向列女傳	三冊	明治十一年五月	松木高年標注	別所平七　東京第四大區五小區鮫洲住丁四番地
△□○小學	四冊		宋朱熹	

×論語　四冊

諸書の部

讀書

△□○和文讀本	四冊	明治十五年十二月	稻垣千頴　輯	稻垣千頴外一名　東京下谷區仲徒士町二丁目廿二番地
△□○語孟字義	五冊	弘化二年十月	鈴木重胤　著	
假定△□○明倫叢集	五冊	文久二年	德川齊昭　編	和泉屋金右衛門　東京
×徒然草讀本	二冊	明治十六年		丸屋善七　東京日本橋區三百十四番地
○土佐日記	二冊		紀貫之作	
△□○日本外史	十二冊	明治六年六月	賴襄　編輯	博渝堂
△□○十八史略	七冊	明治九年四月	大賀富二再補	大賀富二　東京二大區小七區飯倉五丁目三十番地
×正文章軌範	三冊		宋謝枋得　選	
○八大家文格	五冊	文久三年	明唐順之原撰　川西潛　編次	

作文

△□○文證大成	二冊	明治八年四月	原田道義編輯	北澤伊八 東京淺草區茅丁二丁目五番地
假定△□○小學女子用文大全	三冊	明治十二年十月	加藤葦雄 編	加藤葦雄 東京日本橋區數寄屋丁二番地
△□○女子文例	二冊	明治十六年二月	岡野伊平編述	岡野伊平 東京神田區皆川丁三番地
假定△□○消息案文	一冊	天保四年	黑澤翁滿	永樂屋東四郎 名古屋
×消息文例	三冊	文化二年	藤井高尚 著	河內屋儀助 大坂
×雁の行かひ	一冊	享和二年四月		
敍事文用書未定				
○文苑玉露	二冊	文化十二年五月	蓮阿法師 輯	

習字の部

△□○楷書千字文	一帖	明治十五年十月	卷菱湖書	小林二郎 新潟縣新潟區東仲通
△□○行書千字文	一帖	明治九年三月	卷菱湖書	杉本要藏 東京本所横川街四十番地
△□○百人一首	一帖	未詳	卷菱湖書	杉本要藏 東京本所横川街四十番地
△□○草書千字文	一帖	明治九年六月	卷菱湖書	杉本要藏 東京本所横川街四十番地
×古今和歌集序文	一帖	未詳	卷菱湖書	杉本要藏 東京本所横川街四十番地
○楷行草三体千字文	一帖	明治七年八月	卷菱湖書	杉本要藏 東京本所横川街四十番地

算術　附代數幾何の部

△□○筆算摘要	五冊	明治八年十一月	神津道太郎譯	神津道太郎 東京麻布新綱町二丁目廿四番地內八番地
△□○珠算精法	六冊	明治十二年四月	駒野政和 著	駒野政和 牛込區牛込北山伏町四十六番地
○續筆算摘要	八冊	明治十年三月	神津道太郎譯	神津道太郎 東京麻布新綱町一町目廿四番地
○幾何新論	一冊	明治九年八月	宮川保全 譯	大村長衛 東京小石川區金富町三十一番地

地理の部

△□○輿地誌略	卷一一冊	明治八年十月	內田正雄纂輯	文部省
△□○新潟縣地誌略全地圖	二冊 一軸	明治十三年四月	大槻脩二編輯	松田周平 新潟縣長岡吳服丁三十四番地
△□○日本地誌要略	六冊	明治十一年九月	大槻脩二編輯	青山紅綱 青樓 東京淺草區北富坂丁卅四番地
△□○小學暗射日本地圖附錄日本地圖	二冊 六軸	明治十四年七月	中野豊記編輯	小林二郎 新潟縣新潟區東仲通

△□○文證大成	三	冊	明治八年四月	原田道義編輯	北澤伊八 東京淺草區茅
假定△□○小學女子用文大全	二	冊	明治十三年十月	加藤韋雄編	加藤韋雄 東京日本橋區
△□○女子文例	一	冊	明治十六年二月	岡野伊平編述	岡野伊平 東京神田區岩
假定△□○消息案文	二	冊	天保四年	黒澤翁滿	永樂屋東四郎
×消息文例	二	冊	文化二年	藤井高尚著	河內屋儀助
×胭の行かひ	一	冊	享和二年四月		
叙事文用書未定					
○文苑玉露	二	冊	文化十二年五月	遠阿法師輯	
〝習字の部					
△□○楷書千字文	一	帖	明治十五年十月	卷菱湖書	小林三郎 新潟縣新潟區東仲通
△□○行書千字文	一	帖	明治九年三月	卷菱湖書	杉本要藏 東京本所橫川
△□○百人一首	二	帖	未詳	卷菱湖書	杉本要藏 東京本所橫川
△□○草書千字文	一	帖	明治九年六月	卷菱湖書	杉本要藏 東京本所橫川

×古今和歌集序文	一	帖	未詳	卷菱湖書	杉本要藏 東京本所橫川
○楷行草三体千字文	一	帖	明治七年八月	卷菱湖書	杉本要藏 東京本所橫川

算術　附代數幾何の部

△□○筭摘要	五	冊	明治八年十一月	神津道太郎譯	神津道太郎 東京麻布新綱町二丁目廿四番地內八番地
△□○珠筭精法	六	冊	明治十二年四月	駒野政和著	駒野政和 牛込區牛込北山伏町四十六番地
○續筭摘要	八	冊	明治十年三月	神津道太郎譯	神津道太郎 東京麻布新綱町一町目廿四番地
○幾何新論	一	冊	明治九年八月	宮川保全譯	大村長衛 東京小石川區金富町三十一番地

地理の部

△□○輿地誌略	卷一二冊	明治八年十月	內田正雄纂輯	文部省	
△□○新潟縣地誌略全	二冊	明治十三年四月	大槻脩二編輯	松田周平	新潟縣長岡呉服丁三十四番地
△□○地圖	一軸				
△□○日本地誌要略	六冊	明治十一年九月	大槻脩二編輯	青山紅樹書樓	東京淺草區北富坂丁卅四番地
△□○小學暗射日本地圖附錄日本地圖	二六軸	明治十四年七月	中野豊記編輯	小林二郎	新潟縣新潟區東仲通

×萬國地誌略	三	冊	明治十三年九月改正	東京師範學校編輯	文部省
×萬國地圖	七	軸	ミツチエル著		
○地形論	四	冊	明治十二年十月	帆足義兼 著	帆足義兼 東京神田佐久間町四丁目廿四番地

歷史の部

假定×國史擧要	八	冊	明治九年九月	棚谷元善編輯	篠崎竹二郎 東京一大區小六區下槇丁八番地

圖書の部

×圖畫臨帖	三	冊	明治十六年二月	東京醫學豫備校	東京醫學豫備校 東京神田區同朋町廿番地
×臨畫帖				フオスター	
×用器畫法	三	冊	明治十六年四月	平瀨作五郎纂譯	中嶋精一 東京芝區三田四國丁三番地

博物の部

×植物通解	全一	冊	明治十六年二月	矢田部良吉譯	文部省
×普通動物學	一	冊	明治十六年七月	丹波敬三 編	丹波敬三外一名 東京本鄉區弓町二十番地
×小學人身究理	二	冊	明治十三年四月	浦谷義春 著	山岸彌平

×養生淺說	二	冊	明治十二年四月	小林義直 譯	小林義直 東京本鄉駒込西片町十四番地
×人体解剖圖	二	軸		ジヨンストン	
×礦物小學	一	冊	明治十年	松本榮三郎纂譯	石川治兵衛 東京日本橋區馬喰町二町目一番地

物理の部

△小學物理書	三	冊	明治十七年四月	志賀泰山 譯	原亮三郎 東京日本橋區本町三町目十七番地
×改正物理全誌	十	冊	明治十三年一月	宇田川準一譯	諸葛信澄 京東九大區小三區西ヶ原村七十七番地

化學の部

○訓蒙化學	二	冊	明治十三年九月	中川謙二郎編述	中川謙二郎 東京赤坂區臺町十一番地

教育學學校管理法の部

△□○平民學校論略	一	冊	明治十三年二月	村岡範爲馳譯	文部省
△□○學校管理法	一	冊	明治十五年三月	伊澤修二 著	森重遠 東京小石川區小日向臺町三丁目
○人心論	一	冊	明治十一年四月	川本精一 譯	文部省

禮節の部

假定△□○小學作法演習書	一	冊	明治十六年十二月	水野忠雄 著	水野忠雄 東京麹町區飯田町二丁目六十五番地
△□○小學女禮式	一	冊	明治十五年五月	小笠原清務 水野忠雄 編輯	小笠原清務 東京神田區猿樂町三番地水野忠雄右同斷
△□○新撰立禮式	二	冊	明治十六年五月	右 同 斷	右 同 斷

家政の部

△□○家事要訓	二	冊	明治十四年十月	前田寅七郎 編述	前田寅七郎 東京赤坂區臺町十一番地
○育兒須知	二	冊	明治十四年九月	杉山由哲 譯	杉山由哲 東京麹町區一番町六番地
○初學經濟論	三	冊	明治十二年十一月再刻	牧山耕平 譯	牧山耕平 東京府下本鄉區駒込西片町十番地

音樂の部

△□○唱歌集	二	冊	明治十四年十一月同十六年六月	文部省音樂取調掛編輯	文部省
△□○唱歌掛圖	三	綴	明治十五年四月同十六年六月	文部省音樂取調掛編纂	文部省

一敎育學學校管理法の部人心論い不都合の箇所平民學校論略い本邦の敎育に適せざる

所修身の部標註劉向列女傳卷一第二十八葉裏五行至六行卷二第十二葉表九行至十行第三十一葉表初行至九行第三十二葉表初行至六行第三十八葉表三行至同葉裏初行卷三第四十一葉裏末行至第四十二葉表十行を省き口授の用書とせ

一作文の部文證大成上卷第八葉表下卷第六十六表裏第百七葉表第百二十一葉表並に裏第百二十三葉第百二十七葉表等の猥褻に渉る文字を省きて用ふ

一地理の部輿地誌略い總論の部のみ地形論い書中誤謬等不渺に付注意して授く

一譜書の部語提徑明倫和歌集徒然草讀本禮節の部新撰立禮式は斟酌して之を用ふ

一表中△い初等科□い中等科○い高等科×い中等科高等科のみに課するの符合なり

女子師範學科授業の要旨

女子師範學部い獘倫道德を本として生徒を敎導すべき者なれば生徒をして殊に其品行を修め其心力を研き夙夜勗勉小學校敎員心得に掲くる所の條款を服膺せしむへし又諸學科の授業い他日生徒の自ら女見を敎授するの模範たるへき者なれば敎員たる者い殊に課業の撰擇を愼み實用を主として高尙の理論に馳せず設問敎示懇到周密ならんまと

を旨とすへく生徒の應答講習亦詳明着實ならんことを要す而して諸學科の中他日女兒に授くへき者ハ唯に之を知らしむるのみならず之を女兒に教へしむるの目的を以て教授すること極めて緊要なりとす

修身　本科ハ毎級に於て必ず之を課するものとす其要ハ專ら儒教ホ基き身を修むるの道を教へ女子の守るへき分を辨へしめ以て本然の德性を涵養し他日子弟をして其德性善行に薫染感化せしむるの基を立しむ稍進歩するを候ひ時々生徒をして教師の地位に立ち小學校に於て授くへき所の修身講談をなさしむ

讀書　本科を分ちて讀書、作文の二とす讀書に於て和文ハ五十音及音韻の清濁より用言、運用言の定則を示し古歌或ハ古文辭に依りて其活用を知り中世雅文の意義を解キ併せて文法を會得せしむ漢文ハ古今の書に就き句讀の斷續、章句の意義を解說し又字句の順逆、篇章の布置等を講究せしむ作文ハ日用の女子消息文等より記事の假名交り文を作らしめ稍歩を進めて中世の文体に導き雅言消息文等を作らしむ文題ハ實用に適するを旨とし撰文ハ簡易着實にして句調、暢和なるを要す雅文ハ特に趣味

優美なるを主とす

習字　本科ハ先つ執筆、運筆、結字の法を教へ務めて字体をして端正ならしめ然して後に手本ホ就て之を練習せ又黒板書方に習熟せしむ

算術附代數幾何　本科を分ちて筆算、珠算の二とす筆算ハ加減乘除より級數に至り珠算と之を差分ホ止め共に諸法の數理を說明し法則を論證し日用適切の問題を課して其應用を習練せしめ且施算正確にして迅速ならしめんことを要す又代數と數理を明晰にし幾何は思想を精密ならしむるものなれは其大要を授け以て數學の基本を確立せしむ

地理　本科を分ちて地誌、地文の二とす地誌は先つ總論管内並に本邦より海外各國の位置、區域、氣候、風俗等を授け殊に本邦各州の地勢、都邑、物産等ハ詳細を加ふ地文ハ地球の構造、地上の諸現象及生物の分布等を授け理學上の事實を知らせむ凡て本科を授くるハ務めて實物、摸型、地圖等を示し以て記憶を鞏固ならしむ

歷史　本科ハ本邦建國の大体、制度沿革の大要より明主賢相の治績忠孝貞淑の行蹟等

を講授し興廢得失の原因結果を了解せしめ以て尊王愛國の志氣を養成す又歷史と地理の科の如き照應解明して相啓發せしめ以て記憶を鞏固にせんことを務む

圖畫　本科を分ちて自在畫法、用器畫法の二とす自在畫は先つ執筆運筆の法を授け次に範本、模型或ひ實物を示して之を臨寫せしめ以て手指、眼目の練習を養成す用器畫ひ幾何畫法及投影畫法等の理を講し之を活用して實地に眞体を畫かき又黑板畫方に習熟せしむ

博物　本科を分ちて植物、動物、金石の三とす植物ひ總論より形狀、構造、生理の概略及分科法を授け又通常植物の性質、効用等を知らしむ動物ひ總論分科法より各科動物の名稱、習慣、効用等の概略を說き人体に就きて特に其構造、機能等より養生法を知らみむ金石ひ總論、分科法より通常金石の形狀、性質、効用、產地等を授く總て本科を授くるにひ主として本邦所產の物に就きて之を講明し務めて實物、標品、模型等を示し以て其講する所を明確ならしむ

物理　本科は總論より萬物形体の現象及法則を授け教師自ら實驗を施し或ひ生徒をして之を爲さしめ以て講する所を證明し應用の一班を知らしむることを要す

教育學及學校管理法　本科ひ教育の理學、化學、元素、化合の法則及化合物の性質、製法、効用等を授け教師自ら實驗を施し或は生徒をして之を爲さしめ以て講する所を證明し務めて其實理を了解し應用の道を知らしむ

實地授業　本科ひ附屬小學校に就き小學各等科の授業に從事せしめ以て其既に學ひ所の教育の理、學校管理の法を實地に練習せしめ又教師時々授業の摸範を示し或ひ授業の生熟を批評し之を改良して至當に歸せしめんことを要す

裁縫　本科ひ運針より漸次單物、袷、綿入、帶、羽織、袴等總て大人、小兒、各種衣類の調製法を授け務めて實用に適せしめんことを要す

禮節　本科を分ちて坐禮、立禮とし吉凶及平常交際の間に就き坐作、進退、應對、授受、

薦撤、飲食等の諸禮式を練習せしむ總て古禮に泥まず慮節に流れす務めて實用に適し修身に資するを要す

家政　本科ハ衣服、飲食、住居より出納、育兒等の事に渉り其要旨を授け又實地に就て裁縫、理髪等の技を練習せしめ實用に適そるを旨とし家政の要務を知らしめ兼て經濟の大意を授く

音樂　本科を分ちて唱歌、彈琴の二とそ唱歌ハ簡易なる單音唱歌より漸次複音唱哥に及ほし彈琴ハ唱歌の聲調を和するを旨とし專ら心情を感發し修身に資するを要す

体操　本科ハ輕運動を爲さしめ身体の發育を平等にし健康を保全せしむるを旨とし兼て体操の本旨及準備等を知らしむ

第六章　入學、退學及証書請願

第一條　入學ノ期ハ毎學期ノ始メ即チ二月、九月ノ二回トシ生徒ノ員數募集ノ日限等ハ豫メ廣告スヘシ

但時宜ニ由リ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第二條　凡ソ不都合ノ行爲アリテ放校ノ處分ヲ受ケ文部卿ヨリ官公私立ノ學校ニ入學ヲ禁セラレタルモノハ當校ニ入學スルコトヲ許サス

第三條　中學部ニ入學ヲ望ムモノハ左ニ揭クル所ノ諸件ヲ具スルヲ要ス

品行　端正ナルモノ

學力　小學中等科（高等中學科ヲ修メント欲スルモノハ初等中學科）卒業以上ニ相當スルモノ

年齡　十二年以上（高等中學科ヲ修メント欲スルモノハ十六年以上）ニシテ入學後一ケ年内ニ徵兵ニ當ラサルモノ

身体　種痘或ハ天然痘ヲ歷躰質强健ナルモノ

第四條　男子師範學部ニ入學ヲ望ムモノハ左ニ揭クル所ノ諸件ヲ具スルヲ要ス

品行　端正ニシテ小學教員タルコトヲ得ヘキモノ

學力　小學高等科卒業以上ニ相當スルモノ

年齡　十七年以上ニシテ入學後一箇年内ニ徵兵ニ當ラサルモノ

但高等科ヲ修メント欲スルモノハ十五年以上中等科ヲ修シト欲スルモノハ十六年以上タルモ妨ケナシ

身体　種痘或ハ天然痘ヲ歷体質強健ニシテ在學中家事ニ係累ナキモノ

志望　小學教員タラントコトヲ欲スルモノハ品行、身体、志望ノ三項前條ニ準スト雖モ學力年齢ノ二項ハ左ノ如シ

第五條　女子師範學部ニ入學ヲ望ムモノハ品行、身体、志望ノ三項前條ニ準スト雖モ學

學力　小學中等科卒業以上ニ相當スルモノ

年齢　十六年以上ノモノ

但高等科ヲ修メント欲スルモノハ十四年以上中等科ヲ修メント欲スルモノハ十五年以上タルモ妨ケナシ

第六條　入學ヲ願フモノハ左式ニ準シ入學願書及履歷書ヲ當校ニ差出スヘシ

入學願書

（用紙郵半紙）

私儀初等／高等中學科（中等師範學科／高等）修業志願ニ付キ御校ヘ入學仕度別紙履歷書相添ヘ此段相願候也

何國何郡區何町村何番地
何府縣華士族平民誰子女兄弟姉妹
或ハ戸主　姓　名　印
年　月　日　年号何年何月生

新潟學校長何某殿

右之者從來ノ品行不都合ノ廉無之依テ奥印候也

何府縣何國何郡區何町村戸長
姓　名　印

履歷書

（用紙郵半紙）

學　業　一何年何月何府縣公立私立何學校ニ入リ（或ハ何某ニ就キ）何學科何年間修業何等級卒業用書何々

職　業　一何職ニ就キ或ハ何業ヲ營ム等

賞　罰　一何年何月何所ニ於テ何事ニ付キ賞ヲ受ケ若シハ罰ヲ蒙ル等

右之通相違無之候也

年月日

何國何郡區何町村何番地
何府縣華士族平民誰子女兄弟姉妹
或ハ戸主
姓　名　印
年号何年何月生

第七條　入學ノ許可ヲ得タルモノハ左式ニ準シ正副保証人連署ノ在學証書ヲ出スヘシ

正副保証人ハ丁年以上ノ男子ニシテ保証人ハ本人ノ父兄又ハ親族副保証人ハ新潟區内ニ住シ共ニ一家計ヲ立ルモノニ限ル

但保証人又ハ副保証人死去轉住若シハ改印スルトキハ速ニ該証書ヲ改メ旅行スルトキハ代理人ヲ立テ届出ヘシ

在學証書　（用紙鼻美濃紙印紙貼用）

何國何郡區何町村何番地
何府縣華士族平民誰子女兄弟姉妹
或ハ戸主
姓　名　印
年號何年何月生

右何某今般御校ヘ入學御許可相成候ニ付テハ在學中諸規則堅ク爲相守可申ハ勿論本人ニ係ル一切ノ事件拙者共引請可申仍テ保証如斯ニ候也

何國何郡區何町村何番地
何府縣華士族平民
保証人　姓　名　印
年号何年何月生

新潟區何町何番地住居（寄留）
何府縣華士族平民
副保証人　姓　名　印
年号何年何月生

年　月　日

新潟學校長何某殿

右保証人何某ハ丁年以上ニシテ當區（町村）ニ於テ一家計ヲ立ツルモノニ相違無之候也

年　月　日　何府縣何郡區何町村　戸長・役場

右副保証人何某ハ丁年以上ニシテ當區内ニ於テ一家計ヲ立ツルモノニ相違無之候也

年　月　日　新潟區役所

第八條　中學部及男女兩師範學部生徒ニシテ願ニ依リ退學セシモノ再ヒ入學ヲ請フトキハ詮議ノ上之ヲ許可ス但シ其退學セシ時ヨリ一箇年以内ナルトキハ試業ヲ須ヒス相當ノ級ニ入ルコトヲ得

第九條　生徒疾病或ハ已ムヲ得サル事故アリテ退學セント欲スルモノハ其事由ヲ詳記シ保証人連署ヲ以テ願出ルトキハ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十條　疾病事故等ニ因リ引續キ六十日欠席スルモノハ一日停學ヲ命シ次回生徒募集ノ期ヲ待テ相當ノ級ニ入ラシムヘシ

第十一條　生徒若シ學業不進歩及疾病事故等ニ因リ引續キ二回學期試業ニ落第シ或ハ學期試業ニ合格セス進退表ニ據リ退學ノ部ニ該ルモノハ退學ヲ命スヘシ

第十二條　男女兩師範學部ニ入ラスシテ卒業証書ヲ請願スルモノハ左ノ式ニ準シ請願

何國何郡區何町村何番地
何府縣華士族平民　保証人　姓　名　印
年号何年何月生

新潟區何町何番地住居（寄留）
何府縣華士族平民　保証人　姓　名　印
副保証人　姓　名　印
年号何年何月生

新潟學校長何某殿

右保証人何某ハ丁年以上ニシテ當區（町村）ニ於テ一家計ヲ立ツルモノニ相違無之候也

年月日　何府縣何郡區何町村　戸長　役場

右副保証人何某ハ丁年以上ニシテ當區内ニ於テ一家計ヲ立ツルモノニ相違無之候也

年月日　何府縣何郡區何町村　戸長　役場

第八條　中學部及男女兩師範學部生徒ニシテ願ニ依リ退學セシモノ再ヒ入學ヲ請フトキハ詮議ノ上之ヲ許可ス但シ其退學セシ時ヨリ一箇年以内ナルトキハ試業ヲ須ヒス相當ノ級ニ入ルコトヲ得

第九條　生徒疾病或ハ已ムヲ得サル事故アリテ退學セント欲スルモノハ其事由ヲ詳記シ保証人連署ヲ以テ願出ルトキハ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十條　疾病事故等ニ因リ引續キ六十日欠席スルモノハ一旦停學ヲ命シ次回生徒募集ノ期ヲ待テ相當ノ級ニ入ラシム

第十一條　生徒若シ學業不進歩及疾病事故等ニ因リ引續キ二回學期試業ニ落第シ或ハ學期試業ニ合格セス進退表ニ據リ退學ノ部ニ該ルモノハ退學ヲ命スヘシ

第十二條　男女兩師範學部ニ入ラシテ卒業証書ヲ請願スルモノハ左ノ式ニ準シ請願

新潟區役所

書及履歴書ヲ當校ニ差出スヘシ

卒業證書請願書　（用紙鄙半紙）

私儀小學校敎員志願ニ付キ御校規則ニ依リ試業ノ上初等／中等師範／高等學科卒業証書御授與相成度依テ履歴書相添此段相願候也

何國何郡區何町村何番地
何府縣華士族平民誰子女兄弟姉妹
或ハ戸主
姓　名　印
年号何年何月生

年月日

新潟學校長何某殿

或ハ拙者ニ就キ　（用紙鄙半紙）

何某儀當校ニ於テ「或ハ拙者ニ就キ」何年間何學科修業セル者ニ有之且ツ品行上不都合ノ廉無之候也

何府縣何國何郡區何町村何番地
何學校　印

年月日

或ハ　（用紙鄙半紙）

何某儀從來ノ品行不都合ノ廉無之依テ奥印候也

何府縣華士族平民
敎師　姓　名　印

年月日

何府縣何國何郡區何町村戸長
姓　名　印

履歴書　（用紙鄙半紙）

學業

一何年何月何府縣／公立／私立何學校ニ入リ「或ハ何某ニ就キ」何學科何年間修業何等科卒業用書何々

職業

一何職ニ就キ何業ヲ營ム等

賞罰

一何年何月何所ニ於テ何事ニ付キ賞ヲ受ケ若クハ罰ヲ蒙ル等
右之通相違無之候也

何國何郡區何町村何番地
何府縣華士族平民誰子女兄弟姉妹
或ハ戸主　姓　名　印
年號何年何月生

年月日

第十三條　卒業證書有効ノ期滿チテ更ニ之ヲ請願スルモノハ左式ニ準シ請願書及履歴書ヲ當校ニ差出スヘシ

卒業証書請願書　（用紙郵半紙）

私所持ノ卒業証書有効年限相滿チ候ニ付御校規則ニ依リ試業ノ上更ニ卒業証書御授與相成度依テ履歴書相添此段相願候也

何國何郡區何町村何番地
何府縣華士族平民誰子女兄弟姉妹
或ハ戸主　姓　名　印
年號何年何月生

年月日

新潟學校長何某殿

右之者從來ノ品行不都合ノ廉無之依テ奥印候也

何府縣何國何郡區何町村戸長
姓　名　印

年月日

履歴書　（用紙郵半紙）

何年何月何師範學校何等師範學科卒業何年何月何學校教員奉職解職及賞罰等

但卒業証書等辞令書ノ寫ヲ添フヘシ

右之通相違無之候也

何國何郡區何町村何番地
何府縣華士族平民誰子女兄弟姉妹
或ハ戸主
姓　名　印
年号何年何月生

年　月　日

第七章　試業及証書

第一條　試業ヲ分テ入學試業、日課試業、學期試業、應請試業ノ四種トス

第二條　入學試業ハ入學ヲ願フモノヽ、品行、年齢、身体、志望等ヲ檢定スルノ後之ヲ施行ス

但各學部最下級ニ入ルヲ望ムモノハ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歴史ノ各科目ヲ試業シ其他ニ入ルヲ望ムモノハ該等級ニ必需ノ諸科目ヲ試ム

第三條　日課試業ハ一學期内二度以上六度以下受持教員ノ見込ニ依リ臨時施行シ以テ生徒學業ノ熟否ヲ試ム

第四條　學期試業ハ毎學期ノ終リニ於テ之ヲ施行シ該學期中ニ履修セシ諸科目ヲ試驗ス

第五條　應請試業ハ師範學部ニ入ラスシテ卒業証書ヲ請願スルモノヽ試驗シ又卒業証書有効ノ期滿ヲテ更ニ之ヲ請願スルモノヽ試驗ス但シ應請試業ヲ施行スルニハ本人ノ品行、年齢、身体、志望等ヲ檢定スルノ後其請願スルトコロノ卒業證書ノ品等ニ依リ所定ノ科目ヲ試驗シ更ニ附屬小學校ニ於テ實地授業ヲ爲サシム

第六條　凡ソ試業ノ優劣ハ點數ヲ以テ評定ス其評點ハ各科目一百ヲ以テ定點トス

第七條　各科目ノ定點ハ問題ノ難易ニ應シテ豫メ之ヲ各題ニ配當シ答按誤謬ノ多少ニ因リテ評點ノ數ヲ判定スルモノトス

但修身科ハ平素ノ行狀ヲ考察シ其優劣ニ因リテ試業ノ點數ヲ加減ス

第八條　各科目ノ評點ハ成ルヘク筆記ノ試業ニ據リテ定ムヘシト雖ヒ實驗ヲ要スル科目ハ實地ニ就キ其優劣ヲ判定スルモノトス

第九條　入學試業ノ評點ハ各科目ノ評點ヲ通計シ得ルトコロノ和ヲ科目ノ數ヲ以テ除

シ諸科目評點平均數六十以上ニ至ルモノヲ及第トス

但本文ノ點數ヲ得ルモ一科目ノ評點三十ニ滿タサルモノハ落第トス

第十條　應請試業ノ評點ハ前條ノ法ニ據リテ計算スト雖ニ各科目ノ評點六十以上ニ至ラサレハ及第スルコトヲ得ス

但諸科目評點平均數六十以上ニシテ一科目ノ評點五十以上六十未滿ノモノ全科目三分一以內ニアルトキハ及第トス

第十一條　一科目ノ學期評點平均數ハ每學期ノ終リニ於テ日課試業ノ評點ヲ通計シ得ル所ノ和ヲ該試業ノ數ヲ以テ除シ更ニ之ニ學期試業ノ評點ヲ加ヘ二除シテ定ムルモノトス

第十二條　諸科目學期評點平均數ハ各科目ノ學期評點平均數ヲ通計シ得ル所ノ和ヲ科目ノ數ヲ以テ除シテ定ムルモノトス

第十三條　每學期ノ終リニ於テ各科目ノ日課試業及學期試業ノ評點ヲ計算シ左表ノ定規ニ據リテ生徒ヲ進退ス但シ試業ニ合格セサルモノハ何等ノ事由ニ拘ラス再試業ヲ

受ルコトヲ得ス

學期評點及平均數	試業ニ合格セサル科目ノ數及其評點	科目數	評點	判定
六十以上一百以下	無			及第
仝		一科目	五十以上六十未滿	及第
仝		二科目	五十以上六十未滿	及第
仝		仝	五十未滿	落第（該科目日課試業評點若クハ學期試業評點六十以上ナルトキハ）及第
仝		仝	一科目五十以上六十未滿一科目四十以上五十未滿	落第（二科目共ニ日課試業評點若クハ學期試業評點六十以上ナルトキハ）及第
仝		仝	五十未滿	落第
仝		三科目以上	五十以上六十未滿	落第（學期評點平均數六十未滿ノ科目ノ數履修セル總科目ノ半數若クハ半數以下ナルトキハ）及第
仝		仝	五十未滿	落第

シ諸科目評點平均數六十以上ニ至ルモノヲ及第トス

但本文ノ點數ヲ得ルモ一科目ノ評點三十ニ滿タサルモノハ落第トス

第十條　應請試業ノ評點ハ前條ノ法ニ據リテ計算スト雖モ各科目ノ評點六十以上ニ至ラサレハ及第スルコトヲ得ス

但諸科目評點平均數六十以上ニシテ一科目ノ評點五十以上六十未滿ノモノ全科目三分一以內ニアルトキハ及第トス

第十一條　一科目ノ學期評點平均數ハ每學期ノ終リニ於テ日課試業ノ評點ヲ通計シ得ル所ノ和ヲ該試業ノ數ヲ以テ除シ更ニ之ニ學期試業ノ評點ヲ加ヘ二除シテ定ムルモノトス

第十二條　諸科目學期評點平均數ハ各科目ノ學期評點平均數ヲ通計シ得ル所ノ和ヲ科目ノ數ヲ以テ除シテ定ムルモノトス

第十三條　每學期ノ終リニ於テ各科目ノ日課試業及學期試業ノ評點ヲ計算シ左表ノ定規ニ據リテ生徒ヲ進退ス但シ試業ニ合格セサルモノハ何等ノ事由ニ拘ラス再試業ヲ

受ルコトヲ得ス

學期評點	試業ニ合格セサル科目ノ數及其評點	及平均數科目數	評點	判定
仝		六十以上一百以下	無	及第
仝		一科目	五十以上六十未滿	及第
仝		仝	五十未滿	落第（該科目日課試業評點若クハ學期試業評點六十以上ナルトキハ）及第
仝		二科目	五十以上六十未滿	及第
仝		仝	仝	落第（二科目共ニ日課試業評點若クハ學期試業評點六十以上ナルトキハ）及第
仝	一科目五十以上六十未滿四十以上五十未滿	仝	仝	落第
仝		仝	五十未滿	落第
仝		三科目以上	五十以上六十未滿	落第（學期評點平均數六十未滿ノ科目ノ數履修セル總科目ノ半數若クハ半數以下ナルトキハ）及第
仝		仝	仝	落第

五十以上六十未滿	一科目	五十以上六十未滿	落第（該科目日課試業評點若クハ學期試業評點六十以上ナルトキハ）及第
仝	二科目以上	六十未滿	落第
仝	三科目以上	四十未滿	退學
四十以上五十未滿	一科目	五十未滿	落第
仝	二科目以上	仝	退學
四十未滿	一科目以上	四十未滿	退學

第十四條　毎學期ノ終リニ方リ學業ノ優劣ニ從テ各生徒ノ級表ヘ詳カニ一科目ノ日課試業評點、學期試業評點、一科目ノ平均數及諸科目評點總計及平均數ヲ附載シテ之ヲ掲示スヘシ

但席順ハ諸科目評點平均數ヲ以テ定ムヘシ

第十五條　學期試業ニ闕席セルモノハ該學期中ニ得タルトコロノ日課試業評點五十以上ニ至ラサレハ特別ノ試業ヲ受クルコトヲ得ズ但シ特別試業ハ次學期ノ始メニ於テ施行ス

第十六條　第十三條ノ定規ニ據リ元級ニ止メ或ハ退學セシムヘキ生徒ニシテ受持教員其平素ノ品行、志望若クハ疾病事故等勉學ヲ妨ケタル事實ヲ証明スルトキハ詮議ノ上假リニ及第或ハ在學ヲ許スコトアルヘシ

第十七條　學期試業前三日間復習ノ時ヲ與ヘ疑義ヲ質問スルコトヲ許ス

第十八條　毎學期試業ニ及第スルモノニハ左式ニ準シ修業証書ヲ授與スヘシ

但書式中女子ニ在リテハ各等師範學科ノ上女子ノ二字ヲ加フ（以下之ニ倣フ）

修業証書

何府縣族籍

姓名

何年何ヶ月

初等
高等
中學科（初等
中等
高等
師範學科）第何級修業候事

年月日

新潟學校

校印

番號

第十九條　當校ノ敎科ヲ履修シ第一級ノ試業ヲ完フスルモノニハ左式ニ準シ卒業証書ヲ授與スヘシ

但師範學科卒業証書ハ有効年限七ケ年トス

○中學科

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ケ月

印

右ハ當校ノ敎科ヲ履修シ成規ノ試業ヲ完了セルヲ以テ初等中等高等

中學科卒業ヲ證スル者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

○師範學科

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ケ月

印

右ハ當校ノ敎科ヲ履修シ成規ノ試業ヲ完了セルヲ以テ初等中等師範學科卒業證書ヲ授與スル則ヲ向後七ケ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

第二十條　應請試業ニ於テ學力授業共ニ合格スルモノニハ左式ニ準シ卒業證書ヲ授與スヘシ其有効年限七ケ年トス

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

卒業証書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ヶ月

右ハ請ニ應シ當校ノ敎則ニ依リテ學業ヲ試驗シ且其品行等檢定ノ上中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ヶ年間小學初等中等科ノ敎員タルコトヲ得ヘキ者也

年月日

新潟縣新潟學校長姓名印

番號

印

校名

卒業證書

何府縣族籍

其功績ヲ考ヘ縣令ノ裁定ヲ經若クハ縣令ノ命ヲ奉シ試業ヲ須ヒス授與スルモノニシテ之ヲ分ケテ二種トス其一ハ學力優等、授業練熟、品行端正ノ證跡アルモノニ授與スルモノトシ其有効年限七ケ年トス其一ハ七ケ年以上小學校教員ノ職ニ從事シ學力優等、授業練熟、品行端正ノ證跡アルモノニ授與スルモノトシ終身有効トス其證書式左ノ如シ

卒業證書

何府縣族籍

姓　名

何年何ケ月

校印

右ハ從來ノ功績ヲ考ヘ試驗ヲ須ヒス中等師範學科卒業證書ヲ授與ス則チ向後七ケ年間小學初中等高等科ノ教員タルコトヲ得ヘキ者也

明治何年何月何日　官立何師範學校制定ノ教科ヲ履修シ何等

何府縣　立

師範學科卒業證書受領若クハ明治何年何月何日官立何師範學校ニ於テ學業ノ試驗ヲ經テ何等師範學科卒業證書受領若クハ又明治何年何月何日官立何師範學校ニ於テ功績ニ依リ何等師範學科卒業證書受領若クハ學力優等、授業熟練、品行端正ノ證跡アルヲ以テ此卒業證書ヲ授與ス

年月日

番號

新潟縣新潟學校長姓名印

從來卒業證書ヲ受領シタルコト幾回ナルモ悉ク之ヲ記入スヘシ

卒業証書

何府縣族籍

姓　名

何年何ケ月

校印

右ハ從來ノ功績ヲ考ヘ試驗ヲ須ヒス中等高等師範學科卒業証書ヲ授與スル則チ終身小學初中等科ノ教員タルコヲ得ヘキ者也

明治何年何月何日　何府縣立何師範學校制定ノ教科ヲ履修シ何等師範學科卒業証書受領若クハ明治何年何月何日官立何府縣師範學校ニ於テ學業ノ試驗ヲ經テ何等師範學科卒業証書受領若クハ又明治何年何月何日官立何府縣何師範學校ニ於テ功績ニ依リ何等師範學科卒業証書受領玆ニ何ケ年間小學校教員ノ職ニ從事シ學力優等授業練熟品行端正ノ證跡アルヲ以テ此卒業証書ヲ授與ス

年月日　新潟縣新潟學校長姓名印

番號

從來卒業證書ヲ受領シタルコ幾回ナルモ悉ク之ヲ記入スヘシ

第廿二條　師範學科ノ卒業証書ヲ有スルモノニシテ品行不正ノ證跡アルトキハ縣令ノ命ヲ奉シ若クハ縣令ノ裁定ヲ經テ其卒業證書ヲ沒收スヘシ

第廿三條　疾病其他ノ事故ニ因リ卒業ノ期ニ至ラス退學スルモノニハ願ニ依リ左式ニ準シ証明狀ヲ付與スルコトアルヘシ

證明狀

何府縣族籍

姓名

何年何ケ月

右ハ當校初等／高等中學科（中等師範學科）／高等　第何級修業中何事ニ由リ退學差許候處在學中不都合ノ廉無之候事

年月日　新潟學校　校印

番號

第八章　生徒心得

第一條　當校ノ生徒タルモノハ常ニ左ノ件々ヲ服膺シ須臾モ之ヲ忽忘スヘカラス

第一款　孝悌忠信ヲ主トシ尊王愛國ノ志氣ヲ有スヘキ事

第二款　長ヲ敬シ幼ヲ慈シ信義ヲ守リ寛恕ヲ旨トスヘキ事

第三款　禮讓ヲ重ンシ廉耻ヲ勵ミ躁妄輕浮ヲ戒愼スヘキ事

第四款　專心業ヲ勉メ切問近思ヲ旨トスヘキ事

第五款　嚴肅其志ヲ操持シ苟モ放恣偷安ノ擧動アルヘカラサル事

第六款　衣服起臥ヲ適度ニシ身体ノ健全ヲ保チ精神ヲ快活ニスヘキ事

第七款　容儀ヲ端正ニシ衣服ヲ肅整ニシ生徒タルノ体面ヲ汚染スヘカラサル事

第八款　衣服器具等ハ渾テ質素ヲ旨トスヘキ事

第九款　訓達スル所ノ規則ヲ恪守シ師長ノ示諭ニ遵フヘキ事

女子師範學部生徒に在りては左の條款を以て本條に代ふ

第一條　女子師範學部生徒たるものは常に左の件々を守り須臾も忽にすべからず

第一款　孝悌貞順を主とし温和靜淑の女德を養ふべき事

第二款　長上朋友に對しては常に禮讓信實を重んずへき事

第三款　容儀を正くし言語を愼むへき事

第四款　服飾は質素を旨とし奇異浮華の風に流るべからざる事

第五款　學業を勤め心志を磨き識見を廣めんことを勉むへき事

第六款　起臥飲食の常度を守り身体、衣服の不潔を戒め以て身体を健にし心氣を爽かにすへき事

第七款　校内は勿論外出の節と雖も苟にも女子に恥つへき擧動あるべからざる事

第八款　今日脩學養ふ所の德義學藝は皆他日兒童の模範とあるべきものなれは深く自ら警しむへき事

第九款　訓達する所の規則を守り師長の教戒に遵ふへき事

第九章　受業料

第一條　中學生徒ハ一人ニ付一ケ月金五拾錢ヲ納ムヘシ

第二條　一家二人以上入學スル者ハ一人ハ全額一人ハ半額ヲ納ムヘシ

第三條　一家三人以上入學スル者ハ二人第二條ノ如ク納メヘシ他ノ一人ハ納ムルニ及

第四條　貧困ニシテ定額ヲ納ムル能ハサル者アリテ學務委員之ヲ証スルトキハ其幾分ヲ減スルコトアルヘシ

第十章　圖書及器械

第一條　當校所藏ノ圖書ハ教科用及參考ノ便ニ供スルモノトス

第二條　當校ノ職員生徒ニシテ圖書ヲ閲覧セントスルモノハ閲覧室ニ於テシ渾テ圖書掛員ノ差圖ヲ受クヘシ

第三條　職員ハ職務上必要ノ圖書ヲ借受スルコトヲ得但シ毎學年末一旦之ヲ返納スヘシ

第四條　學校長監事ノ公用ニ供スルタメ借受スル圖書ハ一員十冊ヲ限リトス

但冊數ハ洋裝ノ本ニ就テ定ムル故ニ和漢製ノ本ハ三冊ヲ以テ壹冊ニ充ツルモノトス（以下之ニ倣フ）

第五條　教員授業用ノ教科書ヲ借受シ得ルハ其科ノ生徒ニ用サシムルモノト同一ノ圖

書タルヘシ

第六條　教員參考書ヲ借受シ得ルハ一員貳拾冊ヲ限リトス

但參考上本文ノ冊數以上及字典ヲ要スルトキハ學校長ノ特許ヲ得ヘキモノトス

第七條　凡ソ生徒ノ教科用圖書ヲ自辨スル能ハサルモノニハ願ニ依リ之ヲ貸附スヘシ

但部數ノ都合ニ依リ貳人若クハ三人ニ壹本ヲ貸附スルコトアルヘシ

第八條　總テ圖書ヲ借受スルニハ圖書掛ヨリ該借受證書ヲ受取リ定式ノ如ク記名捺印スヘシ

但生徒ハ受持教員ノ捺印ヲ要ス

第九條　生徒參考ノ爲メ圖書ヲ借受センコトスルモノハ願ニ依リ三冊ヲ限リ之ヲ貸附スルコトアルヘシ

但願書ニハ該學科受持教員ノ保認書ヲ添テ差出スヘシ

第十條　學校ヨリ歸鄉ヲ命シタル生徒ハ其期限中該級ノ教科用圖書ヲ借受センコトスルトキハ願ニ依リ詮議ノ上貸附スルコトアルヘシ

第十一條　凡ソ生徒ノ借受セル圖書ハ每學期ノ終リニ於テ必ス一旦之ヲ返納スヘシ

第十二條　生徒下宿歸鄉スルトキハ其日限ノ長短ヲ問ハス借受セル圖書ヲ纏メ之ヲ圖書掛ニ預クヘシ

但通學生ニシテ二週間以上引續キ缺席スルトキハ本條ニ準ス

第十三條　凡ソ借受セル圖書ハ一切轉貸スルコトヲ許サス

第十四條　凡ソ教科用ノ器械、標本、摸型、試藥ハ其學科教場若クハ付屬器械室ニ備置クモノトス

第十五條　教員參考ノ爲メ教科用ノ器械、標本等ヲ借受セントスルトキハ學校長ノ特許ヲ得ヘキモノトス

但其日限ハ一週間以內トス尤モ時宜ニ由リ臨時返納セシムルコトアルヘシ

第十六條　生徒ハ教科用ノ器械ヲ借受スルコトヲ許サス

但時宜ニ由リ算盤、石板等ノ類ハ貸附スルコトアルヘシ

第十七條　凡ソ借受セル圖書、器械ヲ毀損汚染又ハ紛失スルトキハ速ニ之ヲ脩繕シ若クハ同一ノ物品ヲ償還セシム

第十八條　前條々ニ違背スルモノハ其輕重ニ從ヒ圖書、器械ノ借受ヲ停止或ハ禁止スヘシ

第十一章　寄宿舍

第一條　寄宿舍ハ各學部ニ其室ヲ分ヶテ又中學部ハ之ヲ分ヶテ幼年（十五年未滿）室青年室ノ二トス

第二條　師範學部生徒ハ必ス入舍ヲ命シ中學部生徒ハ願ニ依リ之ヲ許否スヘシ

第三條　中學部生徒ニシテ入舍志願ノモノハ左式ニ準シ入舍ノ願書ヲ差出スヘシ

（用紙罫半紙）

入舍願書

私儀入舍仕度候ニ付御許可被成下度此段相願候也

何等何級生　姓　名　印

年号何年何月生

年　月　日

新潟學校長何某殿

第四條　入舍ノ許可ヲ得タルモノハ保証人ヨリ左式ニ準シ在舍證書ヲ差出スヘシ

在舍証書　（用紙濃美濃紙印紙貼用）

何等何級生　姓　名
年号何年何月生

右何某今般入舍御許可相成候ニ付テハ御舍規則堅ク爲相守候ハ勿論在舍中ノ費金其他一切ノ事件拙者辨理可致萬一退舍又ハ下宿被命候節ハ拙者ニ於テ速ニ引取可申仍テ證書如此ニ候也

年月日

新潟區何町何番地
何府縣華士族平民
姓　名　印

新潟學校長何某殿

第五條　晨起就褥食事入浴及外出歸舍等ハ其時々示ストコロノ時限ヲ恪守スヘシ

第六條　室内掃除及衣服ノ洗濯等ヲ怠ラス渾テ清潔ニ注意スヘシ

第七條　食料ハ一箇月大約金二圓五十錢ト定メ自費生ハ會計掛ニ前納シ給費生ハ給與ノ學資金ヨリ支辨セシム

第八條　舍中ニ在リテハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

第一項　猥ニ他室ニ往來スヘカラス

第二項　金錢衣服等ヲ貸借スヘカラス

第三項　舍内ニ於テハ湯水茶菓ノ外飲食スヘカラス

第四項　男子ハ着袴セスシテ教場及諸局ニ出入シ及門外ニ出ツヘカラス

第五項　寢室ニ於テ點燈、喫煙スヘカラス

第六項　放歌、高吟、奔走等他人ノ勤學ニ妨ケアル擧動ヲナスヘカラス

第七項　小説稗史ヲ閲覧シ又ハ圍碁門牌等ノ遊戲ヲナスヘカラス

第八項　居室ハ監事ノ定ムル所ニ從ヒ隨意ニ轉換スヘカラス

第九項　學校ノ器物ヲ毀損シ及戸壁等ヲ汚染スヘカラス

第十項　小使部屋幷ニ賄所ヘ猥リニ立入ヘカラス

第九條　病氣ニテ欠課スルモノハ課業時間前其旨監事ニ届出ツヘシ

但缺課引續キ七日以上ニ及フトキハ醫証ヲ添テ届出ツヘシ

第十條　疾病其他已ムヲ得サル事故アリテ臨時外出、歸舍時限遲刻、外泊等ヲ爲ントスル者ハ其事由ヲ詳記シ保證人又ハ父兄等ノ証印ヲ以テ願出テ監事ノ許可ヲ受クヘシ

但自宅近火等本條ノ手續ヲ經ルニ暇ナキトキハ特ニ監事ノ許可ヲ得テ外出スヘシ

第十一條　散歩先ニ於テ前條ノ願ヲ爲スヘキ事件俄ニ差起ルトキハ歸舍時限前其願書ヲ差出シ監事ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條　父母ノ疾病其他已ムヲ得サル事故アリテ歸省又ハ下宿セントスルモノハ保証人ノ証印ヲ以テ願出テ學校長ノ許可ヲ請フヘシ

但疾病ニ依リ本文ノ願ヲ爲スモノハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ尤至急ヲ要スルトキハ歸舍ノ際之ヲ差出サシムヘシ

第十三條　前三條歸省下宿外泊及臨時外出歸舍時限遲刻等ヲ爲シタルモノハ歸舍ノ際保証人ヨリ時間附ノ証書ヲ持參スヘシ

第十四條　散歩時間ニ外出セントスルモノハ生徒掛ニ於テ出門鑑札ヲ受取出門ノ際門監ニ渡置キ歸舍ノ際之ヲ生徒掛ニ納ムヘシ

第十五條　病氣ニテ一課ダリトモ闕席シクルモノハ當日外出スルコヲ許サス

第十六條　病氣ニシテ晨起、就褥等ノ定規ヲ履ム能ハサルモノハ養生室ニ入リ療養スヘキモノトス

但病症ニ依リテハ病院ニ入ラシメ又ハ歸鄉セシムルコアルヘシ

第十七條　來訪者アルトキハ必ス應接所ニ於テ面會スヘシ病氣ニテ應接所ニ出ツル能ハサルトキト雖モ監事ノ許可ヲ得ルニアラサレハ來訪者ヲ舍内ニ入ラシムヘカラス

附　錄

女子師範學部に於ては左の條款を以て本則中の條款に代へ第十八條を加ふ

第十四條　外出と休業日及び水曜日に限り之を許す

第九項　學校ノ器物ヲ毀損シ及戸壁等ヲ汚染スヘカラス

第十項　小使部屋幷ニ賄所ヘ猥リニ立入ヘカラス

第九條　病氣ニテ缺課スルモノハ缺課業時間前其旨監事ニ届出ツヘシ

但缺課引續キ七日以上ニ及フトキハ醫証ヲ添テ届出ツヘシ

第十條　疾病其他已ムヲ得サル事故アリテ臨時外出、歸舍時限遲刻、外泊等ヲ爲ントスル者ハ其事由ヲ詳記シ保證人又ハ父兄等ノ証印ヲ以テ願出テ監事ノ許可ヲ受クヘシ

但自宅近火等本條ノ手續ヲ經ルニ暇ナキトキハ特ニ監事ノ許可ヲ得テ外出スヘシ

第十一條　散歩先ニ於テ前條ノ願ヲ爲スヘキ事件俄ニ差起ルトキハ歸舍時限前其願書ヲ差出シ監事ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條　父母ノ疾病其他已ムヲ得サル事故アリテ歸省又ハ下宿セントスルモノハ保証人ノ証印ヲ以テ願出テ學校長ノ許可ヲ請フヘシ

但疾病ニ依リ本文ノ願ヲ爲スモノハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ尤至急ヲ要スルトキハ歸舍ノ際之ヲ差出サシムヘシ

第十三條　前三條歸省下宿外泊及臨時外出歸舍時限遲刻等ヲ爲シタルモノハ歸舍ノ際保証人ヨリ時間附ノ証書ヲ持參スヘシ

第十四條　散歩時間ニ外出セントスルモノハ生徒掛ニ於テ出門鑑札ヲ受取出門ノ際門鑑ニ渡置キ歸舍ノ際之ヲ生徒掛ニ納ムヘシ

第十五條　病氣ニテ一課タリトモ闕席シタルモノハ當日外出スルコヲ許サス

第十六條　病氣ニシテ晨起、就褥等ノ定規ヲ履ム能ハサルモノハ養生室ニ入リ療養スヘキモノトス

但病症ニ依リテハ病院ニ入ラシメ又ハ歸鄉セシムルコアルヘシ

第十七條　來訪者アルトキハ必ス應接所ニ於テ面會スヘシ病氣ニテ應接所ニ出ツル能ハサルトキト雖モ監事ノ許可ヲ得ルコアラサレハ來訪者ヲ舍内ニ入ラシムヘカラス

附　錄

女子師範學部に於ては左の條款を以て本則中の條款に代へ第十八條を加ふ

第十四條　外出と休業日及び水曜日に限り之を許す

但し外出の節ハ出入檢査簿に訪尋ぞへき場所を記ー て生徒掛の檢印を受け出先に
て証印を取歸舍の節復た生徒掛の檢印を受くへし

第十七條　來訪者あるときハ生徒掛の許可を得て應接所に於て面會ー生徒對面簿に來
訪者及ひ自己の氏名を記載し生徒掛の檢査を受くへし
但父兄又ハ保証人の証印ある添書を持參せざるものには猥に面會を許さす

第十八條　書狀は發着共に生徒掛の點檢を受け書狀往復簿に差出人受取人及自己の姓
名を記載すへし

第十二章　罰　則

第一條　凡ソ生徒規則ニ違背スルモノハ之ヲ罰ス
但生徒ヲ罰スルハ專ラ改良ヲ旨トス故ニ德義ニ基キ徒ニ形跡ノミニ拘ハラサルヘシ

第二條　罰科ハ譴責、拘止、禁足、放校ノ四トス

第三條　譴責ハ其過誤ヲ責メテ嚴ニ後來ヲ誡メ拘止ハ通學生ニ之ヲ科シ放課後二時間
拘止又ハ禁足ニ處ス

第四條　過誤失錯ニ出ツル犯則ハ譴責ニ處シ其事ニ害アルモノハ一日以上七日以下ノ

第五條　怠慢自恣ニ出ツル犯則ハ七日以上三十日以下ノ拘止又ハ禁足ニ處ス

第六條　數回罰ヲ受ケ尙悔悟ノ徵ナキモノ或ハ校命ニ悖ルモノ或ハ放肆ニシテ風儀ヲ
紊亂スルモノハ放校ニ處シ情狀ニ因リテハ官立學校及府縣立公立私立ノ學校ニ入學
ヲ禁セラルヽコトアルヘシ

但本條禁止ノ處分ヲ受ケタルモノト雖モ謹愼悔悟ノ實蹟アルトキハ特ニ入學ヲ許
可セラルヘシ

○第廿三節　町村立學校ヲ戸長役場ニ貸與スルキ學務委員ヨリ伺出ヘシ

○本縣乙第三號達　明治十八年一月十四日　郡區役所　戸長役場　學務委員

明治十七年(八月)乙第百五號ヲ以戸長役場假用ノ儀相達候處町村立學校ヲ戸長役場ニ

假用スルキハ其校組ノ學齢員數生徒員數及校舍ノ坪數間取仕切等詳細ニ列記シ戸長役場ニ貸與ノ儀ヲ學務委員ヨリ本廳ヘ伺出ツヘシ此旨相達候事

○第廿四節　新潟縣小學校規則

○本縣甲第九號布達　明治十八年一月三十一日

新潟縣小學校規則別冊之通相定メ候條此旨布達候事

但明治十五年本廳乙第廿三號及乙第百三號達ハ取消候事

新潟縣小學校規則目次

第一章　目的
第二章　學科
第三章　學期
第四章　授業ノ時日及休業
第五章　學科課程及教科用圖書
第六章　授業要旨

第七章　小學試驗規則
第八章　入退學及欠席
第九章　授業料
第十章　生徒心得
第十一章　生徒懲戒
第十二章　寄宿舍規則

新潟縣小學校規則

第一章　目的

第一條　小學校ハ彝倫道德ヲ本トシ普通ノ教育ヲ兒童ニ授クルヲ目的トス

第二章　學科

第一條　小學科ヲ分ツテ初等中等高等ノ三等トス

第二條　初等科ハ修身讀書習字算術ノ初歩及唱歌體操トス

第三條　中等科ハ初等科ノ修身讀書習字算術ノ初歩及唱歌体操ノ續ニ地理歴史圖書博

物物理ノ初歩特ニ男子ニハ農業若クハ工業ノ初歩女子ニハ裁縫ノ初歩ヲ加フ

第四條　高等科ハ中等科ノ修身讀書習字算術地理圖畫博物農業若クハ商業若クハ工業裁縫及唱歌体操ノ續ニ化學生理幾何ノ初歩及男子ニハ經濟女子ニハ家事經濟ノ初歩ヲ加フ

第三章　學　期

第一條　學期ハ初等科及中等科ヲ各三ケ年高等科ヲ二ケ年通シテ八ケ年トス

第二條　一年ヲ前後二學期ニ分チ一學期ヲ以一級ニ配當シ初等科及中等科各六級高等科ヲ四級トシ毎級六ケ月ノ修業トス

第四章　授業ノ時日及休業

第一條　授業ノ日數ハ一年四十週以上トス

第二條　授業ノ時間ハ一日五時間土曜日ハ三時間卽一週廿八時初等第六級ハ一日四時間卽一週廿三時トス唱歌体操ハ此時間ノ外毎週一時三十分乃至三時ツヽ之ヲ課ス

第三條　年中休業日左ノ如シ臨時休業ハ其時々之レヲ掲示スヘシ尤一週日以内ハ郡區長ノ認可ヲ受クヘシ一週日以外ハ郡區役所ヲ經テ縣令ノ認可ヲ受クヘシ

年始	一月一日ヨリ仝五日マテ
孝明天皇祭	一月三十日
紀元節	二月十一日
春季皇靈祭	春分日
神武天皇祭	四月三日
秋季皇靈祭	秋分日
神嘗祭	十月十七日
天長節	十一月三日
新嘗祭	十一月廿三日
年末	十二月三十日三十一日

日曜日

村社祭

夏季　二週日以内

冬季　二週日以内

産業期　二週日以内

第四條　村社祭夏冬二季産業期ノ休業日ハ豫メ郡區役所ニ届置クヘシ尤産業期休業日ヲ減シ或ハ全ク之ヲ除キ夏冬季休業日ヲ増スコトヲ得又夏冬期休業日ヲ減シ或ハ全ク之ヲ除キ産業期休業日ヲ増スコトヲ得ルト雖モ通シテ六週日ヲ超過スルヲ許サス

第五章　學科課程及教科用圖書

第一條　學科課程左表ノ如シ

土地ノ情況ニヨリ初等科ニ於テ筆算ヲ省キ中等科ニ至テ之レヲ課スルモノハ第六級ハ名數命位加法減法第五級ハ乘法除法四則雜題度量衡貨幣第四級ハ分數第三級ハ小數第

●○印ヲ付スル部分ハ總テ朱書

小學校初等科課程

第一學年 第二學年 第三學年

學科		修身	讀書	書方	習字	算術	地理	歷史	圖畫	博物	物理	化學	生理	幾何	男經濟	男農業
第一學年 前期	第六級 每週時數	三	六	三	五	六										
		簡易格言、事實等ニ就テ德性ヲ涵養シ兼テ作法ヲ授ク	讀方 以呂波五十音、濁音、次清音、假名ノ單語等	作文 近易ノ庶物ニ就キ其性質等ヲ解セシメ之ヲ單語ニ短句ニ綴ラシム	片假名 平假名	實物ニ就キ計方、加減、數字										
第一學年 後期	第五級 上	三	六	三	五	六										
		前期ノ續	讀方 假名交リ讀本、讀本中緊要ノ字句ヲ書取ラシム	作文 前期ノ續 近易ノ漢字ヲ交フ	行書	筆算 實物ノ加減乘除、算用數字名數命位 珠算 實物ノ加減乘除、筆珠用法										
第二學年 前期	第四級 上	三	六	五	五	六										
		前期ノ續	讀方 前期ノ續 日用文讀本	作文 近易ノ庶物ニ就キ其性質等ヲ解セシメ之ヲ假名交リ文ニ作ラシム	行書	筆算 加法、減法 珠算 加法、減法										
第二學年 後期	第三級 上	三	六	五	五	六										
		前期ノ續	讀方 前期ノ續	作文 前期ノ續 及日用書類ヲ作ラシム	行書、草書	筆算 減法、乘法 珠算 減法、乘法										
第三學年 前期	第二級 上	三	六	五	五	六										
		前期ノ續	讀方 前期ノ續	作文 前期ノ續 及日用書類ヲ作ラシム	行書、草書	筆算 乘法、除法 珠算 乘法、除法										
第三學年 後期	第一級 上	三	六	五	五	六										
		前期ノ續	讀方 前期ノ續	作文 前期ノ續	行書、草書	筆算 四則雜題及度、量、衡、貨幣 珠算 四則雜題及度、量、衡、貨幣										
備考		三	五	二	三	六	二	二	一	三	六					

農業ノ細科目中朱書ハ海濱ニ在ルモノハ耕作等ニ換ヘテ課スルモノトス

通計	體操	唱歌	女縫裁	女家事經濟	商業	工業	男農業	男經濟	幾何	生理	化學	物理	博物	圖畫	歷史	地理	算術	習字	書
二九／二三																	六	五／五	六
七	遊戲	單音															實物ノ計方、實物ノ加減、數字	片假名平假名	題トシ假名單語、短句（テニヲハ）綴ラシム
二八／二八																	六	五／五	五
七	全上	全上															筆算 實物ノ加減乘除、算用數字名數命位 珠算 實物ノ加減乘除、算珠用法	行書	字ヲ交フ
二八／二八																	六	五／五	五
七	全上	全上															筆算 加法、減法 珠算 加法、減法	行書	題トシ假名交リ文ヲ作ラシム
二八／二八																	六	五／五	五
七	全上	全上															筆算 減法、乘法 珠算 減法、乘法	行書、草書	類ヲ作ラシム
二八／二八																	六	五／五	五
七	徒手運動 全上	全上															筆算 乘法、除法 珠算 乘法、除法	行書、草書	類ヲ作ラシム
二八／二八																	六	五／五	五
七	全上	全上															筆算 四則雜題及度、量、衡、貨幣 珠算 四則雜題及度、量、衡、貨幣	行書、草書	
三四／二八			三／三			三／三						六／三	一／一		二／二		六	三／三	二

程表

小學中等科

年	後期	第一級	前期ノ續	讀方 前期ノ續	作文 前期ノ續	行書、草書	筆算 四則雜題及度、量、衡、貨幣	珠算 四則雜題及度、量、衡、貨幣										
第四年	前期	全/上	三/六	五/五	二/二	三/三	六/六		二/二		一/一	三/六						三
		第六級	稍高尚ノ格言、事實等ニ就テ德性ヲ涵養ス	讀方 前期ノ續 書取ヲ省ク	作文 日用書類及既ニ學習セシ事物ヲ題トシ假名交リノ文ヲ作ラシム	行書、草書	筆算 前期ノ續	珠算 前期ノ續 速算	學校近傍ノ地形管内地理日本地理總論		直線、曲線及單形	通常ノ植物名種、部分、性質、效用等 通常ノ動物名稱、部分、常習效用等						耕作ノ大概 ○水産物ノ名稱利用等
	後期	全/上	三/六	五/五	二/二	三/三	六/六		二/二		一/一	三/六						三
		第五級	前期ノ續	讀方 前期ノ續	作文 前期ノ續	行書、草書	筆算 數ノ性質、分數、名數、命位化法	珠算 前期ノ續 異乘同除	日本地理		前期ノ續	前期ノ續						全 上 ○全 上
第五年	前期	全/上	三/六	五/五	二/二	三/三	六/六		二/二		一/一	三/六						三
		第四級	前期ノ續	讀方 前期ノ續	作文 前期ノ續	行書、草書	筆算 分數、加法、減法、乘法、除法	珠算 前期ノ續	前期ノ續世界地理總論及外國地理ノ大要		紋畫	通常ノ金石名稱、性質、效用等						全 ○全 上 上
	後期	全/上	三/六	五/五	二/二	二/二	六/六		三/六	二/二	一/一		一/一					三
		第三級	前期ノ續	讀方 前期ノ續 漢文讀本日用文讀本ヲ省ク	作文 前期ノ續	楷書	筆算 小數、名數、命位化法、加法、減法、乘法、除法	珠算 前期ノ續 同乘異除	外國地理ノ大要	日本歷史 國初ヨリ平氏ノ末ニ至ル	前期ノ續及器具、花葉等		重力水論等ノ初步					全 ○漁具ノ名 用法等 上
第六年	前期	全/上	三/六	五/五	二/二	二/二	六/六			三/六	一/一		三/三					三
		第二級	前期ノ續	讀方 前期ノ續	作文 前期ノ續	楷書	筆算 比例	珠算 前期ノ續		日本歷史 賴朝總追捕使トナルヨリ豐臣氏ノ末ニ至ル	器具、花葉、家屋等		氣、熱及音論ノ初步					全 ○全 上 上
	後期	全/上	三/六	五/五	二/二	二/二	六/六			三/六	一/一		三/三					三
		第一級	前期ノ續	讀方 前期ノ續	作文 前期ノ續	楷書	筆算 前期ノ續	珠算 前期ノ續 差分		日本歷史 家康將軍トナルヨリ現時ニ至ル	前期ノ續		光、電氣及磁氣論ノ初步					全 ○捕魚採藻等 上
第七年	前期	全/上	三/三	六/六	一/一	一/一	四/四		四/四		二/二			二/二		二/二		三
		第四級	前期ノ續	讀方 漢文讀本	作文 前期ノ續	楷書 行書 草書	筆算 前期ノ續 及百分算		地文ノ大要		草木、禽獸等 幾何畫法			化學ノ端緒		線、角、面及体ノ性質關係等		全 土地氣候 上
		全/上	三/三	六/六	一/一	一/一	四/四				二/二	二/二		二/二	二/二	二/二		三

小

書、草書	算 則雜題 度、量、貨幣	算 則雜題 度、量、貨幣															上	上	七
三/三	六/六		二/二		一/一	六/三						三/三				三/三			三四/二八
行書、草書	筆算 前期ノ續	珠算 前期ノ續 速算	學校近傍ノ地形管內地理日本地理總論		直線、曲線及單形	通常ノ植物名種、部分、性質、効用等 通常ノ動物名稱、部分、常習効用等						耕作ノ大概○水産物ノ名稱利用等	器械ノ功用流水力風利用ノ一班等	商業ノ一班		運針法衣服ノ名稱	單音複音	全上	男 一一 女 一一
三/三	六/六		二/二		一/一	六/三						三/三				三/三			三四/二八
行書、草書	筆算 數ノ性質 分數 名數、命位化法	珠算 前期ノ續 異乘同除	日本地理		前期ノ續	前期ノ續						全上 ○全上	全上	全上		前期ノ續單物ノ類	全上	全上	男 一一 女 一一
三/三	六/六		二/二		一/一	六/三						三/三				三/三			三四/二八
行書、草書	筆算 分數、加法減法、乘法除法	珠算 前期ノ續	前期ノ續世界地理總論及外國地理ノ大要		紋畫	通常ノ金石名稱、性質、効用等						全上 ○全上	全上	全上		前期ノ續	全上	全上	男 一一 女 一一
二/二	六/六		六/三	二/二	一/一		一/一					三/三				三/三			三四/二八
楷書	筆算 小數、名數、命位化法、加法、減法、乘法、除法	珠算 前期ノ續 同乘異除	外國地理ノ大要	日本歷史 國初ヨリ平氏ノ末ニ至ル	前期ノ續及器具、花葉等		重力水論等ノ初歩					全上 ○漁具ノ名目用法等	全上	全上		單物、給綿入ノ類	全上	全上	男 一二 女 一二
二/二	六/六			六/三	一/一		三/三					三/三				三/三			三四/二八
楷書	筆算 比例	珠算 前期ノ續		日本歷史 頼朝總追捕使トナルヨリ豊臣史ノ末ニ至ル	器具、花葉、家屋等		氣、熱及音論ノ初歩					全上 ○全上	全上	全上		前期ノ續	全上	徒手運動 輕器械運動	男 一一 女 一一
二/二	六/六			六/三	一/一		三/三					三/三				三/三			三四/二八
楷書	筆算 前期ノ續	珠算 前期ノ續 差分		日本歷史 家康將軍トナルヨリ現時ニ至ル	前期ノ續		光、電氣及磁氣論ノ初歩					全上 ○捕魚採藻等	全上	全上		前期ノ續	全上	全上	男 一一 女 一一
一/一	四/四		四/四		二/二			二/二		二/二		三/三				三/三			二八/二八
楷書 行書 草書	筆算 前期ノ續 及百分算		地文ノ大要		草木、禽獸等 幾何畫法			化學ノ端緒		線、角、面及体ノ性質關係等		土地氣候 ○全上	工家ノ經濟及其土地ニ適切ノ製造物ノ品位等	簿記ノ大略 手形條例		前期ノ續絹布ノ給綿入ノ類	複音 三重音	全上	男 一二 女 一二
一/一	四/四				二/二	二/二		二/二	二/二	二/二		三/三				三/三			二八/二八
前	筆				前 山 幾	植		通 屬	骨 皮 法	前		農 水 ○	全	全		前	全	全	男 女

高等科

小學校

第八年

第七年

第六年

年	期		科目	毎週時數	毎週教授時間通計ヲ百トシ各學科教授時間通計ノ比例
第六年	前期	後期	修身	一	一
			讀方	六	六
			作文	二	二
			書方	二	二
			算術	六	六
			理科	二	二
			地理	二	二
			歴史	二	二
			圖畫	二	二
			唱歌	二	二
			體操	三	三
			裁縫	二	二
			手工	二	二
			農業初歩	二	二
			商業初歩	二	二
			英語	二	二
			毎週教授時間通計	四十	四十
第七年	前期	後期	修身	一	一
			讀方	六	六
			作文	二	二
			書方	一	一
			算術	六	六
			理科	二	二
			地理	二	二
			歴史	二	二
			圖畫	二	二
			唱歌	二	二
			體操	三	三
			裁縫	二	二
			手工	二	二
			農業初歩	二	二
			商業初歩	二	二
			英語	二	二
			毎週教授時間通計	四十	四十
第八年	前期	後期	修身	一	一
			讀方	六	六
			作文	二	二
			書方	一	一
			算術	六	六
			理科	二	二
			地理	二	二
			歴史	二	二
			圖畫	二	二
			唱歌	二	二
			體操	三	三
			裁縫	二	二
			手工	二	二
			農業初歩	二	二
			商業初歩	二	二
			英語	二	二
			毎週教授時間通計	四十	四十

第四級

期		科目	毎週時數	毎週教授時間通計ヲ百トシ各學科教授時間通計ノ比例
前期	後期	修身	一	一
		讀方	六	六
		作文	二	二
		書方	一	一
		算術	六	六
		理科	二	二
		地理	二	二
		歴史	二	二
		圖畫	二	二
		唱歌	二	二
		體操	三	三
		裁縫	二	二
		手工	二	二
		農業初歩	二	二
		商業初歩	二	二
		英語	二	二
		毎週教授時間通計	四十	四十

第三級

期		科目	毎週時數	毎週教授時間通計ヲ百トシ各學科教授時間通計ノ比例
前期	後期	修身	一	一
		讀方	六	六
		作文	二	二
		書方	一	一
		算術	六	六
		理科	二	二
		地理	二	二
		歴史	二	二
		圖畫	二	二
		唱歌	二	二
		體操	三	三
		裁縫	二	二
		手工	二	二
		農業初歩	二	二
		商業初歩	二	二
		英語	二	二
		毎週教授時間通計	四十	四十

第二級

期		科目	毎週時數	毎週教授時間通計ヲ百トシ各學科教授時間通計ノ比例
前期	後期	修身	一	一
		讀方	五	五
		作文	二	二
		書方	一	一
		算術	六	六
		理科	二	二
		地理	二	二
		歴史	二	二
		圖畫	二	二
		唱歌	二	二
		體操	三	三
		裁縫	二	二
		手工	二	二
		農業初歩	二	二
		商業初歩	二	二
		英語	二	二
		毎週教授時間通計	四十	四十

第一級

期		科目	毎週時數	毎週教授時間通計ヲ百トシ各學科教授時間通計ノ比例
前期	後期	修身	一	一
		讀方	五	五
		作文	二	二
		書方	一	一
		算術	六	六
		理科	二	二
		地理	二	二
		歴史	二	二
		圖畫	二	二
		唱歌	二	二
		體操	三	三
		裁縫	二	二
		手工	二	二
		農業初歩	二	二
		商業初歩	二	二
		英語	二	二
		毎週教授時間通計	四十	四十

尋常科

年	期		科目	毎週時數	毎週教授時間通計ヲ百トシ各學科教授時間通計ノ比例
第四年	前期	後期	修身	一	一
			讀方	六	六
			作文	二	二
			書方	一	一
			算術	六	六
			理科	二	二
			地理	二	二
			歴史	二	二
			圖畫	二	二
			唱歌	二	二
			體操	三	三
			裁縫	二	二
			手工	二	二
			農業初歩	二	二
			商業初歩	二	二
			英語	二	二
			毎週教授時間通計	四十	四十
第三年	前期	後期	修身	一	一
			讀方	六	六
			作文	二	二
			書方	一	一
			算術	六	六
			理科	二	二
			地理	二	二
			歴史	二	二
			圖畫	二	二
			唱歌	二	二
			體操	三	三
			裁縫	二	二
			手工	二	二
			農業初歩	二	二
			商業初歩	二	二
			英語	二	二
			毎週教授時間通計	四十	四十
第二年	前期	後期	修身	一	一
			讀方	六	六
			作文	二	二
			書方	一	一
			算術	六	六
			理科	二	二
			地理	二	二
			歴史	二	二
			圖畫	二	二
			唱歌	二	二
			體操	三	三
			裁縫	二	二
			手工	二	二
			農業初歩	二	二
			商業初歩	二	二
			英語	二	二
			毎週教授時間通計	四十	四十
第一年	前期	後期	修身	一	一
			讀方	六	六
			作文	二	二
			書方	一	一
			算術	六	六
			理科	二	二
			地理	二	二
			歴史	二	二
			圖畫	二	二
			唱歌	二	二
			體操	三	三
			裁縫	二	二
			手工	二	二
			農業初歩	二	二
			商業初歩	二	二
			英語	二	二
			毎週教授時間通計	四十	四十

第四級

期		科目	毎週時數	毎週教授時間通計ヲ百トシ各學科教授時間通計ノ比例
前期	後期	修身	一	一
		讀方	六	六
		作文	二	二
		書方	一	一
		算術	六	六
		理科	二	二
		地理	二	二
		歴史	二	二
		圖畫	二	二
		唱歌	二	二
		體操	三	三
		裁縫	二	二
		手工	二	二
		農業初歩	二	二
		商業初歩	二	二
		英語	二	二
		毎週教授時間通計	四十	四十

第三級

期		科目	毎週時數	毎週教授時間通計ヲ百トシ各學科教授時間通計ノ比例
前期	後期	修身	一	一
		讀方	六	六
		作文	二	二
		書方	一	一
		算術	六	六
		理科	二	二
		地理	二	二
		歴史	二	二
		圖畫	二	二
		唱歌	二	二
		體操	三	三
		裁縫	二	二
		手工	二	二
		農業初歩	二	二
		商業初歩	二	二
		英語	二	二
		毎週教授時間通計	四十	四十

第二級

期		科目	毎週時數	毎週教授時間通計ヲ百トシ各學科教授時間通計ノ比例
前期	後期	修身	一	一
		讀方	六	六
		作文	二	二
		書方	一	一
		算術	六	六
		理科	二	二
		地理	二	二
		歴史	二	二
		圖畫	二	二
		唱歌	二	二
		體操	三	三
		裁縫	二	二
		手工	二	二
		農業初歩	二	二
		商業初歩	二	二
		英語	二	二
		毎週教授時間通計	四十	四十

第一級

期		科目	毎週時數	毎週教授時間通計ヲ百トシ各學科教授時間通計ノ比例
前期	後期	修身	一	一
		讀方	六	六
		作文	二	二
		書方	一	一
		算術	六	六
		理科	二	二
		地理	二	二
		歴史	二	二
		圖畫	二	二
		唱歌	二	二
		體操	三	三
		裁縫	二	二
		手工	二	二
		農業初歩	二	二
		商業初歩	二	二
		英語	二	二
		毎週教授時間通計	四十	四十

書	数、名、命位、加法、減法、乗除法	…乗除 …ノ続	地理ノ	歴史 …ヨリ …ノ末ル	…ノ続及花葉		…論等					…ノ名法等 上	上	上		袷綿	上	上	二 二
二/二	六/六			六/三	一/一		三/三					三/三				三/三			三四/二八
楷書	筆算 比例	珠算 前期ノ続		日本歴史 頼朝総追捕使トナルヨリ豊臣史ノ末ニ至ル	器具、花葉、家屋等		気、熱及音論ノ初歩					全 上 ○全 上	全 上	全 上		前期ノ続	全 上	徒手運動 器械運動	男 一一 女 一一
二/二	六/六			六/三	一/一		三/三					三/三				三/三			三四/二八
楷書	筆算 前期ノ続	珠算 前期ノ続 差分		日本歴史 家康将軍トナルヨリ現時ニ至ル	前期ノ続		光、電気及磁気論ノ初歩					全 上 ○捕魚採藻等	全 上	全 上		前期ノ続	全 上	全 上	男 一一 女 一一
一/一	四/四		四/四		二/二			二/二		二/二		三/三				三/三			二八/二八
楷書 行書 草書	筆算 前期ノ続及百分算		地文ノ大要		草木、禽獣等幾何書法			化学ノ端緒		線、角、面及体ノ性質関係等		土地気候 ○全 上	工家ノ経済及其土地ニ適切ノ製造品位等	簿記ノ大略 手形條例		前期ノ続絹布ノ袷綿入ノ類	複音 三重音	全 上	男 一二 女 一二
一/一	四/四				二/二	二/二		二/二	二/二	二/二		三/三				三/三			二八/二八
前期ノ続	筆算 百分算				前期ノ続及山水等幾何書法	植物ノ略説		通常ノ非金属諸元素	骨骼、筋肉、皮膚及養生法	前期ノ続		農具肥料疏水注水 ○全 上	全 上	全 上		前期ノ続	全 上	全 上	男 一三 女 一三
一/一	三/三				一/一	一/一		二/二	二/二	二/二	三/三	三/三			三/三	三/三			二八/二八
前期ノ続	筆算 開平 開立				幾何書法	動物ノ略説		前期ノ続及通常ノ金属諸元素	消化、血液ノ循環及養生法	角及面ニ関スル諸題	生財、配財等ノ大意	穀菜 ○水産物等製造	全 上	簿記ノ大略 郵便條例	衣服、洗濯、住居、什器、食物、割烹、理髪、出納等	前期ノ続	全 上	全 上	男 一四 女 一四
一/一	三/三				一/一	一/一		二/二	二/二	二/二	三/三	三/三			三/三	三/三			二八/二八
前期ノ続	筆算 級数求積等諸法雑題				前期ノ続	前期ノ続及金石ノ略説		通常ノ金属諸元素	呼吸、感覚及養生法	前期ノ続	前期ノ続及交易等ノ大意	牧畜 ○水産物等繁殖	全 上	全 上	前期ノ続	羽織、帯ノ類	全 上	全 上	男 一四 女 一四
一一、〇六	一九、四一		二、九三	一、八一	二、七〇	二、九三	一、五八	一、八一	一、三五	一、八一	一、三五		六、七七		一、三五	六、七七			一〇〇、〇〇

二級第一級ハ比例ヲ授クヘシ此場合ニ於テハ其旨縣令ニ開申スヘシ

土地ノ情況ニヨリ初中等科ニ於テ筆算ヲ省キ高等科ニ至テ之レヲ課スルモノハ第四級ハ名數命位加法減法第三級ハ乘法除法分數（名數命位化法加法減法）第二級ハ分數（乘法除法）小數（名數命位化法加法減法）第一級ハ小數（乘法除法）比例ヲ授クヘシ此場合ニ於テハ其旨縣廳ニ開申スヘシ

土地ノ情況ニヨリ裁縫ヲ設クル能ハサル者ハ其旨縣令ニ開申スヘシ

土地ノ情況ニヨリ中等科高等科ニ於テ男子ノ農工商業女子ノ裁縫ヲ省クモノハ中等科ニ於テハ習字作文及圖書各一時間ヲ加ヘ高等科ニ於テハ習字ニ一時間作文ニ二時間ヲ加フヘシ此場合ニ於テハ其旨縣令ニ開申スヘシ

經濟及農工商業ハ男子ノミニ之レヲ課スルモノトス

家事經濟及裁縫ハ女子ノミニ之レヲ課スルモノトス

唱歌ハ當分之レヲ欠クモ妨ケナシ尤新ニ之レヲ實施セントスルトキハ豫メ其教員ノ學力履歷敎授ノ順序方法等ヲ具シ縣令ニ伺出ヘシ

土地ノ情況ニヨリ年齢滿九歳以上ノ男子ハ初等科ニアルモ別ニ農工商業ヲ學ハシメ或ハ滿九歳以上ノ女子ハ初等科ニアルモ別ニ裁縫ヲ學ハシムルハ之レヲ副科トス課程表中ノ中高等科農工商裁縫ノ細課目ニ依リ毎日一時以内正課時間外ニ於テ之レヲ授クルヲ得此場合ニ於テハ其旨縣令ニ開申スヘシ

第二條　教科用圖書配當左表ノ如シ

教科用圖書
初等科
修身之部

●左表欄外「假定」ノ二字ヲ初欄中ニ入ル

圖書名	卷數記號	出版年月	著譯者氏名	出版者氏名
小學生徒心得	一冊			東京府
新潟小學校規則第九章生徒心得				

初等科

教科用圖書

○印ヲ付スル部分ハ總テ朱書

年	期	級	脩身	讀書	讀書	習字	筭術	筭術	地理	歷史	圖畫	博物	物理	化學	生理	幾何	男 經濟	男 農業	工業	商業	女 家事經濟	女 裁縫	唱歌
第一年	前期	第六級	小學生徒心得口授 新潟縣小學校則第九章生徒心得口授 幼學綱要口授	讀方 以呂波圖五十音圖濁音圖次清音圖 文學社,單語圖六枚	作文 小學作文全書卷一 ○小學作文本卷一	習字手本 五六級 ○小學習字帖卷一																	小學唱歌集 唱歌掛圖
	後期	第五級	脩身兒訓卷一, ○和漢脩身訓卷一 小學作法書卷一 幼學綱要口授	文學社短句圖八枚 東京師範學校編輯小學讀本卷一 ○原亮策纂小學讀本卷一	仝 卷一二 ○仝 卷一	仝 五六級 ○仝 卷二																	仝
第二年	前期	第四級	脩身兒訓卷一 ○仝 小學作法書卷一 幼學綱要口授	東京師範學校編輯小學讀本卷一 作文的例卷一 仝 卷一二 ○小學日用文讀本卷一	仝 卷二三 ○仝 卷二	仝 四級 ○仝 卷三	筆算 小學用算術書卷一	珠算 算顆術授業書卷一 小學和算新書卷一															仝
	後期	第三級	脩身兒訓卷一 ○仝 小學作法書卷二 幼學綱要口授	仝 卷一 仝 卷一 仝 卷二 ○仝 卷一	仝 卷三四 ○仝 卷二	仝 三級 ○仝 卷四	仝 卷二三	仝 卷一二 仝 卷一二															仝
第三年	前期	第二級	仝 卷二 ○仝 卷二 仝 卷三 仝	仝 卷一 仝 卷一二 仝 卷二三 ○仝 卷一	仝 卷三四 ○仝 卷三	仝 二級 ○仝 卷五	仝 卷三四	仝 二三 仝 卷二															仝
	後期	第一級	仝 卷二 ○仝 卷二 仝 卷三 仝	仝 卷一二 仝 卷二 仝 卷三四 ○仝 卷二	仝 卷四五[illegible] ○仝 卷三	仝 一 ○仝 卷六	仝 卷四五 仝中編卷一	仝 三 仝 卷三															仝

圖書配當表

中等科

第四年

期	級	第一年	第二年	第三年
後期	第一級	全 卷二	全 卷三	全 卷四
前期	第六級	○全 卷二	○全 卷三	○全 卷四
後期	第五級	全 卷三四	全 卷四	全 卷五
前期	第四級	○全 卷三	○全 卷四	○全 卷五
後期	第三級	全 卷四	全 卷五	全 卷六
前期	第二級	○全 卷四	○全 卷五六	○全 卷七
後期	第一級	全 卷六	全 卷七八	全 卷九十
前期	第四級	○全 卷五	○全 卷六	○全 卷七
後期	第三級	全 卷七八	全 卷九十	全 卷十一
前期	第二級	○全 卷六	○全 卷七	○全 卷八
後期	第一級	全 卷九十	全 卷十一	全 卷十二
前期	第四級	○全 卷七	○全 卷八	○全 卷九

第五年

期	級	第一年	第二年	第三年
後期	第一級	全 卷一二	全 卷一三	全 卷一四
前期	第六級	○全 卷一二	○全 卷一三	○全 卷一四
後期	第五級	全 卷一三	全 卷一四	全 卷一五
前期	第四級	○全 卷一三	○全 卷一四	○全 卷一五
後期	第三級	全 卷一四	全 卷一五	全 卷一六
前期	第二級	○全 卷一四	○全 卷一五	○全 卷一六
後期	第一級	全 卷一五	全 卷一六	全 卷一七
前期	第四級	○全 卷一五	○全 卷一六	○全 卷一七
後期	第三級	全 卷一六	全 卷一七	全 卷一八
前期	第二級	○全 卷一六	○全 卷一七	○全 卷一八
後期	第一級	全 卷一七	全 卷一八	全 卷一九
前期	第四級	○全 卷一七	○全 卷一八	○全 卷一九

第六年

期	級	第一年	第二年	第三年
後期	第一級	全 卷一九	全 卷二十	全 卷二十一
前期	第六級	○全 卷一九	○全 卷二十	○全 卷二十一
後期	第五級	全 卷二十一	全 卷二十二	全 卷二十三
前期	第四級	○全 卷二十一	○全 卷二十二	○全 卷二十三
後期	第三級	全 卷二十二	全 卷二十三	全 卷二十四
前期	第二級	○全 卷二十二	○全 卷二十三	○全 卷二十四
後期	第一級	全 卷二十三	全 卷二十四	全 卷二十五
前期	第四級	○全 卷二十三	○全 卷二十四	○全 卷二十五
後期	第三級	全 卷二十四	全 卷二十五	全 卷二十六
前期	第二級	○全 卷二十四	○全 卷二十五	○全 卷二十六
後期	第一級	全 卷二十五	全 卷二十六	全 卷二十七
前期	第四級	○全 卷二十五	○全 卷二十六	○全 卷二十七

第一年

期	級	第一年	第二年	第三年
後期	第一級	全 卷二十七	全 卷二十八	全 卷二十九
前期	第六級	○全 卷二十七	○全 卷二十八	○全 卷二十九
後期	第五級	全 卷二十八	全 卷二十九	全 卷三十
前期	第四級	○全 卷二十八	○全 卷二十九	○全 卷三十
後期	第三級	全 卷二十九	全 卷三十	全 卷三十一
前期	第二級	○全 卷二十九	○全 卷三十	○全 卷三十一
後期	第一級	全 卷三十	全 卷三十一	全 卷三十二
前期	第四級	○全 卷三十	○全 卷三十一	○全 卷三十二
後期	第三級	全 卷三十一	全 卷三十二	全 卷三十三
前期	第二級	○全 卷三十一	○全 卷三十二	○全 卷三十三
後期	第一級	全 卷三十二	全 卷三十三	全 卷三十四
前期	第四級	○全 卷三十二	○全 卷三十三	○全 卷三十四

				四 二	條 三一	八 五	九	二	四	射圖 二口 誌撮		四學 一本	覽 誌口											
等科	五年	後期	第三級	全 卷五 ○全 卷四 全全	全 卷一 外史卷一	全 卷八九 小學女子書簡文 梯卷ノ一 ○全 卷五	作文的例卷一 菱湖楷書千字文 ○全 卷十	全 卷四	全 卷五	小學萬國地誌撮要上下 萬國暗射圖	國史記事本末卷上	全全 卷五六 卷三		物理初步卷上					全 ○全 下		全 二		全 卷中	全
	第六年	前期	第二級	全 卷五 ○全 卷四五 全全	全 卷二 全 卷一	全 卷九十 全 ○全 卷六	菱湖楷書千字文	全 卷五	全 卷五		全 卷上中	全全 卷五六 卷五		全 卷上中					全 ○全		全		全	全
		後期	第一級	全 卷六 ○全 卷五六 全全	全 卷三 全 卷一二	全 卷十十一 全 ○全 卷六	全	全 卷六	全 卷七		全 卷中下	全全 卷五六 卷五七		全 中下					全 ○全		全		全	全
高等科	第七年	前期	第四級	全 卷七 ○全 卷七八 幼學綱要口授	外史卷二三四	全 卷十一 小學女子書簡文 梯卷ノ二 ○全 卷七	菱湖楷行草千字文ノ類	全 卷六 筆算摘要卷三		地文新編卷一二		小學普通書學本乙部卷七、十一 幾何畫法教授書卷一			小學化學書卷一		小學幾何新編		初學農業書上 ○全		簿記學楷梯一 手形條例		全	全
		後期	第三級	全 卷八 ○全 卷八九 全	全 卷四五六七八九	全 卷十一十二 全 ○全 卷七	全	筆算摘要卷三				全全 卷九 卷一	植物小學上下		全 卷一二	解剖生理淺說卷一 解剖生理圖式 養生淺說卷一	全		全 ○全		全		全	全
	第八年	前期	第二級	全 卷九 ○全 卷九十 全	全 自卷十至卷十六	全 卷十二十三 小學女子書簡文 梯卷ノ三 ○全 卷八	全	全 卷五				全 卷二三	動物小學上下		全 卷二三	全 卷二 全 全 卷一二	全	初學經濟論卷一二	全 下 ○全 卷ノ下口授		全 郵便條例 二	家事經濟訓蒙卷一二	全	全
		後期	第一級	全 卷十 ○全 卷十十一 全	全 自卷十七至卷二十二	全 卷十三十四 全 ○全 卷八	全	全 卷五				全 卷三四	動物小學下 礦物小學		全 卷三	全 卷三 全 全 卷二三	全	全 卷二三	全 ○全		全	全	全	全

修身兒訓	卷一二冊	明治十四年六月	龜谷行	東京下谷區御徒町壹町目六十七番地同人	
和漢修身訓	卷一二冊	明治十五年五月	仝	仝	
幼學綱要	七冊	明治十六年十二月	宮內省	仝	
小學作法書	三冊	明治十六年六月	文部省		

讀方之部

單語圖	六圖	明治十四年十二月	文學社	東京本町四町目十六番地文學社	
短句圖	八圖	明治十四年九月ヨリ仝十二月迄	仝	仝	
小學讀本	卷一二冊	明治七年八月	東京師範學校	文部省	
初等科小學讀本	自卷一至卷四四冊	明治十六年九月	原亮策	東京日本橋區本町三丁目十七番地原亮三郎	
作文的例	卷一二冊	明治十三年二月	田中鼎	越後長岡	
小學日用文讀本	卷一二冊	明治十六年十一月	松田周平	東京日本橋區本町三丁目十七番地原亮三郎	

作文之部

小學作文全書	自卷一至卷六六冊	明治十六年十月	文學社	東京本町四丁目十六番地文學社	
假定小學作文本	自卷一至卷三三冊	明治十七年一月	濱岡善治 越後新潟	大槻修二 小林二郎	

習字之部

假定習字手本	五冊	明治十二年四月	西郷葆編 越後長岡	內田嘉一書 松田周平	
假定小學習字帖	自卷一至卷六六冊	明治十六年八月	小原聞一諸橋淺三郎編 越後新潟	菱潭書 小林二郎	

筆算之部

假定小學用算術書	自一至五五冊	明治十五年五月	今井遲藏 越後長岡	中野豐記 松田周平	
假定小學用算術書中編	卷一一冊	仝	仝	仝	

珠算之部

算顆術授業書	自一至三三冊	明治十一年七月	遠藤利貞 東京師範學校		
卷ノ三假定小學和算新書	自卷一至卷三三冊	明治十二年十月	小林義則 東京本町四丁目十六番地文學社		

唱歌之部

小學唱歌集	初編一冊	明治十四年十一月	文部省音樂取調掛編輯	文部省	
唱歌掛圖	初編仝續二綴	明治十五年四月	仝	仝	

中等科

修身之部

修身兒訓	自卷二至卷六四冊	前ニ出			
和漢修身訓	自卷三至卷六四冊	仝			
幼學綱要	七冊	仝			
女禮敎授法	一冊	明治十六年三月	神田猿樂町三番地 小笠原清務 麴町區飯田町二丁目六十五番地 同 水野忠雄	八	

讀方之部

小學讀本	卷二卷三二冊	明治七年八月	東京師範學校	文部省	
初等科小學讀本	卷四五冊二	前出			

中等科小學讀本	自卷一至卷三三冊	明治十六年九月	內田嘉一	東京日本橋區本町三丁目十七番地 原亮三郎
作文的例	卷三一冊	前出		
小學日用文讀本	卷二一冊	前出		
日本外史	卷一卷二二冊	頼襄		

作文之部

小學作文全書	自卷五至卷十七冊	前出		
假定小學作文本	自卷四至卷六三冊	前出		
小學女子書簡文梯	前編卷一卷二二冊	明治十七年二月	中村秋香	神田區通新石町廿一番地 福田仙藏

習字之部

作文的例	卷一一冊	前出		
假定小學習字帖	自卷七至卷十四冊	前出		
楷書菱湖千字文				

筆算之部

假定小學用算術書	卷五一冊	前出		
假定全中編	自卷一至卷五五冊	前出		

珠算之部

假定小學和算新書	卷三四五七四冊	前出		

地理之部

官版輿地誌略	卷一一冊	明治八年十月	內田正雄	文部省
新撰地學初步	一冊	明治十五年十二月	青木輔清	東京日本橋區濱町二丁目十一番地 同八
新潟縣地誌撮要	一冊	明治十四年十二月	田中鼎	越後新潟 小林二郎
小學日本暗射地圖附錄	二冊	明治十四年八月	中野豐記	仝
假定小學萬國地誌撮要	二冊	明治十五年四月	田中鼎	越後長岡 松田周平
小學日本暗射圖	自一至六六軸	明治十四年七月	中野豐記	越後新潟 小林二郎

小學新潟縣地誌撮要	暗射圖	一	軸	明治十四年十二月	田中鼎 全
小學萬國地誌撮要	暗射圖	二	軸	明治十五年四月	全 越後長岡 松田周平

歷史之部

假定小學國史紀事本末		三	册	明治十五年八月	椿時中 東京々橋區加賀町十八番地 前田園

圖書之部

小學畫學臨帖	前編	一	册	明治十六年九月	小原聞一 越後新潟 井筒駒吉 全 長岡 目黒十郎
小學普通書學本	乙ノ部	一	册	明治十一年六月	宮本三平 文部省

博物之部

博物教授書	自一至六	六	册	明治九年六月	片山淳吉 東京下谷區中徒町一丁目十三番地 同人
通常金石小誌	再版	全		明治十六年十月	宮崎柳條 東京日本橋區四町目七番地 牧野善兵衛
動物一覽	自一至五	五	軸	自明治六年一月至明治十年六月	田中芳男 文部省
博物圖	自一至四	四	軸	明治十年六月	小野職慤 全

植物圖		四五二	軸	明治六年十月明治十一年三月	全 文部省
金石一覽		一二三	枚	明治十三年四月	和田維四郎 東京下谷區中徒町一丁目十三番地 片山淳吉

物理之部

物理初步		三	册	明治十六年九月	志賀泰山 東京日本橋區旅籠町十一番地 小林八郎

農業之部

小學農業書		一二三	册	明治十二年八月	塚原苔園 東京下谷區下谷徒士町一丁目六十番地 全
水產小學		二	册	明治十五年六月	河原田盛美 東京日本橋區馬喰町二丁目一番地 石川治兵衛

工業之部

用書未定					

商業之部

小學商業書	前編二編	二	册	明治十四年十二月 十六年七月	塚原苔園 東京本郷區元町一丁目五番地 原田庄左衛門

裁縫之部

普通裁縫教授書	上中二冊	明治十三年十一月	渡邊 辰五郎	東京日本橋區馬喰町二丁目一番地 石川治兵衛

唱歌之部

小學唱歌集	初編二編二冊	明治十四年十二月 明治十六年六月	前出	
唱歌掛圖	初編全續全 第二編三編全	明治十五年四月 十六年六月	前出	

高等科

修身之部

修身兒訓	自卷七至卷十 四冊	前出		
和漢修身訓	自卷七至卷十五冊	前出		
幼學綱要	七冊	前出		

讀方之部

日本外史	自卷一二至卷廿二	前出		

作文之部

小學作文全書	自十一至十四	前出		
假定 小學作文本	自卷七至卷八 二冊	前出		
小學女子書簡文格	卷三 二冊	前出		

習字之部

楷行草菱千字文				

算術之部

假定 小學用算術書中編	卷六 一冊		今非退藏越後長岡 中野豊記	松川周平
筆算摘要	卷二 卷五 二冊	明治八年十一月	神津道太郎	東京麻布區新網町一丁目八番地 同人

地理之部

假定 地文新編	二冊	明治十七年八月	西村貞	東京日本橋區本町三丁目十七番地 原亮三郎

圖書之部

小學普通書學本	乙部七九 十二 二冊	前出		

幾何畫法教授書	四	冊	明治十五年十二月	諸橋淺三郎 小原聞一	越後新潟 小林二郎
博物之部					
植物小學	二	冊	明治十四年九月	松村任三	東京日本橋區石川治兵衛
動物小學	二	冊	仝	松本駒二郎	仝
礦物小學	一	冊	仝	松本榮三郎	仝
化學之部					
小學化學書	三	冊	明治七年十月	市川盛三郎	文部省
生理之部					
解剖生理淺說	三	冊	明治八年四月	小林義直	東京本鄉弓町二丁目十番地 同人
養生淺說	二	冊	明治十二年四月	小林義直	仝
解体生理圖式	四	軸		山田成章	
幾何之部					

假定小學幾何新編	一	冊	明治十六年十一月	杉浦忠昌 濱岡善治	越後 非筒目黑 駒吉十郎
經濟之部					
初學經濟論	三	冊	明治十二年十一月	牧山耕平	東京駒込西片町十番地 仝 人
家事經濟之部					
家事經濟訓蒙	二	冊	明治十六年三月	日下部三之介	東京日本橋區本町三丁目 原亮三郎
農業之部					
假定初學農業書	二	冊	明治十五年三月	志賀雪山	東京日本橋區本町三丁目 原亮三郎
工業之部					
用書未定					
商業之部					
簿記學階梯	二	冊	明治十一年十月	森島脩太郎 森下岩楠	東京深川區安宅町六番地 仝 人
現行爲替手形約束手形定例					

現行郵便條例		
裁縫之部		
普通裁縫教授書	中 一冊	前出
唱歌之部		
小學唱歌集	初編 二編 二冊	前出
唱歌掛圖		

修身ノ用書中修身兒訓ヲ用ルトハ各學區ノ適宜ニ任ス

幼學綱要ハ書冊ノ順序ニ拘ハラス生徒ノ學力ニ應シ適宜口授スルモノトス

女禮教授法ハ中等科ノ女兒ニ於テ幼學綱要ノ口授ヲ省略シテ其時間ニ之レヲ授ク可シ且實際其式ヲ演習セシムルヲ要ス

讀方用書中文學社出版ノ短句圖東京師範學校編輯ノ小學讀本及作文的例ヲ用ルト原亮策纂ノ小學讀本及小學日用文讀本ヲ用ユルトハ各學區ノ適宜ニ任ス

作文用書中作文全書ヲ用ルトハ各學區ノ適宜ニ任ス且中等科高等科ノ女兒ハ右ノ書ニ換ルニ女子書簡文梯ヲ用サ專ラ日用文ヲ習熟セシムルヲ要ス

習字用書中内田嘉一ノ習字手本ヲ用ルトハ各學區ノ適宜ニ任ス且習字及圖畫ノ手本ハ右ニ揭示セル用書ノ外別ニ其地方ニ適切ナルモノヲ撰テ換用スルコヲ得尤此場合ニ於テハ其用書ヲ添各級配當ノ順序ヲ定メ縣令ノ認可ヲ經ヘシ

右用書ノ中就レヲ用ユルモ各學區ノ適宜ニ任スル者ハ其用ル所ノ書名ヲ縣令ニ開申スヘシ

算術ハ小學用算術書算顆術授業書小學和算新書ニ據リ猶其他ノ算術書中ヨリ適宜題ヲ撰ンテ授クルモ妨ケナシ

工業ノ用書ハ該科ヲ加フル學校ニ於テ適宜用書ヲ撰定シ縣令ノ認可ヲ受ク可シ

右ニ揭ケル用書中讀書科ノ外ハ總テ文字章句ヲ習熟セシムルヲ要セス

小學生徒心得幼學綱要女禮教授法新撰地學初步輿地誌略博物教授書金石小誌普通裁縫教授書水產小學ハ口授スルモノナルヲ以テ生徒ニ用書ヲ示スヲ要セス

小學作文全書金石小誌ハ書中誤謬等不尠ニ付敎授ノ際注意スヘシ

第六章　授業要旨

男女敎場ヲ同フセサルハ敎育上企望スル所ナリ然レトモ若シ未タ遽ニ之レヲ實行シ能ハサルモノハ席位ヲ別ニスヘシ且男女ノ性質ニ應シテ敎授其宜シキヲ制シ以テ各自天賦ノ性ヲ完フセシメンコトヲ要ス

第一條　修身　修身ハ忠孝彝倫ノ道ヲ本トシ兒童ノ德性ヲ涵養シ兼テ行儀作法ヲ授ケ凡修身ヲ授クルニハ主トシテ儒敎ニ基キ初等科ニ於テハ簡易ノ格言事實等ヲ授ケ中等科及高等科ニ於テハ稍高尙ノ者ニ及ホシ其格言ハ之レヲ諳記セシメ事實ニ依リ之レヲ敷衍シ敎師躬行ヲ務メテ兒童ノ摸範トナリ常ニ好機ヲ求メ偶發ノ事ニ就キ諄々善ニ導キ其心ヲ感化シ之レヲ實踐セシメンコトヲ要ス

第二條　讀書　讀書ヲ分チテ讀方作文トス

讀方ハ初等科ニ於テハ先以呂波五十音濁音次清音ヲ授ケ次ニ假名ノ單語等ヨリ假名交リ文ノ讀方及日用文ノ讀本ヲ授ケ且讀本中緊要ノ字句ヲ書取ラシメ中等課ニ於テ

ハ稍高尙ノ假名交リ文及日用文ノ讀本ヲ授ケ兼テ漢文ノ讀本ヲ授ケ高等科ニ至テハ漢文ノ讀本ヲ授ク凡讀方ヲ授クルニハ初ハ實物或ハ繪圖ヲ示シテ正當ノ觀念ヲ得セシメ讀本ヲ授クルニ及ヒテハ兼テ文字ノ音訓ヲ正シ聲音ノ抑揚句讀ノ斷續ヲ明ニシ字義句意章意句ノ變化等ヲ理會セシムヘシ

作文ハ初等科ニ於テハ假名ノ單語短句ヲ綴ラシメ稍進テ簡易ノ假名交リ文及口上書類ヲ授ケ中等科及高等科ニ於テハ日用書類ノ外假名交リノ記事文ヲ作ラシム但女兒ニ於テハ記事文ヲ略シ主トシテ日用書類ヲ授ク凡ソ作文ヲ授クルニハ初ハ事物ニ就テ觀念ヲ得セシメ次ニ是レヲ言語ニ表シ后之レヲ文字ニ綴ラシメ漸ク進ミテハ既ニ得タル觀念ヲ整ヘ之ヲ文章ニ表章スルコトヲ習ハシム其文題ハ務メテ兒童ノ理會シ易ク且實用ニ適切ノモノヲ撰ミ文理ハ簡明着實ナランコトヲ旨トス

第三條　習字　習字ハ初等科ニ於テハ片假名平假名ヨリ容易キ行書草書ヲ習ハシメ中等科ニ至テハ行草ノ外楷書ヲ習ハシメ高等科ニ至テハ三体細字ヲ書セシム凡習字ヲ授クルニハ姿勢ヲ整ヘシメ執筆運筆ノ法ヲ敎ヘ初メハ字形ヲ主トシ漸次筆意ニ及ハ

シム其手本ハ字樣端正ニシテ民間日用ニ適切ナル文字ヲ撰フヘシ

第四條　算術　算術ハ筆算珠算ヲ併用ス初等科ニ於テ筆算ハ實物ノ計方加減除乘ノ法及其應用度量衡貨幣ノ名稱及其計算ノ法ヲ授ケ珠算ハ實物ノ計方算珠ノ運用加減法容易キ乘除法及其應用度量衡貨幣ノ名稱及其計算法ヲ授ケ中等科ニ於テハ筆算ハ四則應用ヨリ數ノ性質及ヒ分數小數比例ヲ授ケ珠算ハ乘除法ヨリ四則應用異乘同除同乘異除差分等ヲ授ケ高等科ニ於テハ筆算ノミヲ課シ百分算ヨリ求積級數マテヲ教ヘ且諸法雜題ヲ授ク土地ノ情況ニヨリ初等科或ハ初中等科ニ於テ筆算ヲ省キ精密ニ珠算ノミヲ課シ中等或ハ高等科ニ至テ始テ筆算ヲ課スルコトヲ得凡算術ヲ授ルニハ實物ニヨリテ算法ヲ說明シ更ニ此レヲ實用ノ問題ニ應用シ料密ニ題意算式ヲ考究セシメ兼テ諳算ニ熟セシム珠算ニ於テハ專ラ加減乘除ニ熟シ算珠運用ノ迅速ナルヲ旨トス

第五條　地理　地理ハ中等科ニ於テ之レヲ科シ學校近傍ノ地形ヨリ說起シ漸ク地球上ノ有樣ヲ想像セシメ次ニ管內地理及日本地理ヲ授ケ終リテ世界地理ノ總論及外國地理ノ大要ヲ授ケ凡ソ地理ヲ授クルニハ地球儀地

圖等ヲ用テ思想ヲ確實ナラシメ殊ニ地文ハ生徒ノ目擊スル事物ニ依リテ其理ヲ考究セシメ以テ觀察力ヲ養成スヘシ

第六條　歷史　歷史ハ中等科ニ於テ之ヲ課シ本邦建國ノ体制神武天皇ノ卽位仁德天皇ノ勤儉延喜天曆ノ政績源平ノ盛衰南北朝ノ正閏立德川氏ノ治績王政復古等緊要ノ事實其他古今人物ノ賢否風俗ノ變更等ノ大要ヲ授ケ以テ尊王愛國ノ志氣ヲ養成シ忠孝節義ノ風尙ヲ薰陶スルヲ旨トス又事ノ地理ニ涉ルモノハ地圖ヲ指示シ以テ其記憶ヲ鞏固ニセシム

第七條　圖畫　圖畫ハ中等科ニ於テ之ヲ課シ直線曲線ヲ畫キテ運筆ニ慣レシメ次ニ手本ニ就キテ通常庶物ノ形體ヲ畫カシム高等科ニ至テハ草木禽獸蟲魚山水等ニ及ヒ兼テ幾何畫法ヲ授ク凡圖畫ヲ授クルニハ眼及手ノ練習ヲ主トシ初メハ輪廓ヲ畫カシメ漸ク進ミテ陰影ニ及ホシ又幾何畫法ヲ授ケ用器畫法ノ端緒ヲ開ク

第八條　博物　博物ハ中等科ニ於テ之ヲ課シ通常ノ植物動物金石ニ就キ其名稱部分性質効用等ヲ授ケ高等科ニ至テ更ニ植物動物金石ノ略說ヲ授クヘシ凡博物ヲ授クルニ

ハ務テ本邦所産ノ物ニ就キ實物標本繪圖摸型等ヲ示シ殊ニ若實ナランコトヲ要ス

第九條　物理　物理ハ中等科ニ於テ之ヲ課シ重力水氣音熱光電氣磁氣等ノ諸論中ニ就キ民間緊切ノモノヲ撰ヒテ之ヲ授ケ萬有形態上普通ノ現象ヲ概知セシム凡物理ヲ授クルニハ單一ノ器械及近易ノ方便ニヨリ實地試驗ヲ施シ明ニ其理由ヲ了解セシメンコトヲ要ス

第十條　化學　化學ハ高等科ニ於テ之ヲ課シ火空氣水土等ニ就テ化學ノ端緒ヲ開キ漸次通常ノ非金屬諸元素及金屬諸元素ニ關スル化學說ノ大要ヲ授クヘシ其教授ノ目的方法等ハ猶物理ニ於ケルカ如シ

第十一條　生理　生理ハ高等科ニ於テ之ヲ課シ人体ノ搆造及機關ノ作用ニ就キ兒童ノ理會シ易キモノヲ撰ヒテ之ヲ授ケ兼テ緊要ノ養生法ニ及ホシ以テ身体ノ健康ヲ保全スルノ法ヲ知ラシムルヲ旨トス凡生理ヲ授クルニハ實際ノ觀察又ハ摸型繪圖等ニ依リ明ニ其理ヲ了解セシメンコトヲ要ス

第十二條　幾何　幾何ハ高等科ニ於テ之レヲ課シ先線角面体ノ性質ヨリ右ニ關スル諸

題ヲ授ケ以テ兒童ノ思考力ヲ啓發シ製作其他實用ニ資スルヲ旨トス凡幾何ヲ授クルニハ殊ニ順序ヲ整ヘ解釋ヲ詳ニシ考究ヲ密ニセンコトヲ要ス

第十三條　經濟　經濟ハ高等科ニ於テ男兒ノミニ之ヲ課シ生財配財及交易等ニ關スル法則中普通淺近ノ者ヲ授ケ凡經濟ヲ授クルニハ解說ヲ平易ニシ日常適切ノ事實ニ依リテ之ヲ敷衍シ以テ其概要ヲ理會セシメンコトヲ要ス

第十四條　家事經濟　家事經濟ハ高等科ニ於テ女兒ノミニ之ヲ課シ衣服洗濯住居什器食物割烹理髮出納等一家經濟ニ關スル事項ヲ授ク凡家事經濟ヲ授クルニハ民間日用ニ應用セシムコトヲ旨トス

第十五條　農業　農業ハ中等科及高等科ニ於テ男兒ノミニ之ヲ課シ穀類菜類耕作等ノ大略土地氣候農具肥料疏水注水牧畜等農家ニ緊要ノ事項ヲ授クヘシ尤海濱ニ在テハ之ニ換ルニ水產漁業ノ大意ヲ授クルヲ得

第十六條　工業　工業ハ中等科及高等科ニ於テ男兒ノミニ之ヲ課シ器械ノ功用潮水風力利用ノ概班工家ノ經濟及其土地ニ適切ナル製造物ノ品性等凡ソ工家ニ緊要ノ事

ハ務テ本邦所産ノ物ニ就キ實物標本繪圖摸型等ヲ示シ殊ニ若實ナランコトヲ要ス

第九條　物理　物理ハ中等科ニ於テ之ヲ課シ重力水氣音熱光電氣磁氣等ノ諸論中ニ就キ民間緊切ノモノヲ撰ヒテ之ヲ授ケ萬有形態上普通ノ現象ヲ概知セシム凡物理ヲ授クルニハ單一ノ器械及近易ノ方便ニヨリ實地試驗ヲ施シ明ニ其理由ヲ了解セシメンコトヲ要ス

第十條　化學　化學ハ高等科ニ於テ之ヲ課シ火空氣水土等ニ就テ化學ノ端緒ヲ開キ漸次通常ノ非金屬諸元素及金屬諸元素ニ關スル化學說ノ大要ヲ授クヘシ其敎授ノ目的方法等ハ猶物理ニ於ケルカ如シ

第十一條　生理　生理ハ高等科ニ於テ之ヲ課シ人体ノ構造及機關ノ作用ニ就キ兒童ノ理會シ易キモノヲ撰ヒテ之ヲ授ケ兼テ緊要ノ養生法ニ及ホシ以テ身体ノ健康ヲ保全スルノ法ヲ知ラシムルヲ旨トス凡生理ヲ授クルニハ實際ノ視察又ハ摸型繪圖等ニ依リ明ニ其理ヲ了解セシメンコトヲ要ス

第十二條　幾何　幾何ハ高等科ニ於テ之レヲ課シ先線角面体ノ性質ヨリ右ニ關スル諸

題ヲ授ケ以テ兒童ノ思考力ヲ啓發シ製作其他ノ實用ニ資スルヲ旨トス凡幾何ヲ授クルニハ殊ニ順序ヲ整ヘ解釋ヲ詳ニシ考究ヲ密ニセンコトヲ要ス

第十三條　經濟　經濟ハ高等科ニ於テ男兒ノミニ之ヲ課シ生財配財及交易等ニ關スル法則中普通淺近ノ者ヲ授ク凡經濟ヲ授クルニハ解說ヲ平易ニシ日常適切ノ事實ニ依リテ之ヲ敎術シ以テ其概要ヲ理會セシメンコトヲ要ス

第十四條　家事經濟　家事經濟ハ高等科ニ於テ女兒ノミニ之ヲ課シ衣服洗濯住居什器食物割烹理髮出納等一家經濟ニ關スル事項ヲ授ク凡家事經濟ヲ授クルニハ民間日用ニ應用セシムコトヲ旨トス

第十五條　農業　農業ハ中等科及高等科ニ於テ男兒ノミニ之ヲ課シ穀類菜類耕作等ノ大略土地氣候農具肥料疏水注水牧畜等農家ニ緊要ノ事項ヲ授クヘシ尤海濱ニ在テハ之ニ換ルニ水產漁業ノ大意ヲ授クルヲ得

第十六條　工業　工業ハ中等科及高等科ニ於テ男兒ノミニ之レヲ課シ器械ノ功用濕水風力利用ノ二班工家ノ經濟及其土地ニ適切ナル製造物ノ品性等凡ソ工家ニ緊要ノ事

項ヲ授クヘシ

第十七條　商業　商業ハ中等科及高等科ニ於テ男兒ノミニ之レヲ課シ商家ニ必要ナル心得取扱等ノ一班綴記ノ大略及爲替約束手形條例郵便條例等ヲ授クヘシ

第十八條　裁縫　裁縫ハ中等科及高等科ニ於テ女兒ノミニ之ヲ課シ運針方ヨリ織物ノ種類丈幅編染色及衣服各部ノ名稱ヲ授ケ漸次單物袷綿入羽織帶ノ類ノ裁方縫方ヲ授クル凡裁縫ヲ授クルニハ務テ民間日用ニ應セシムコトヲ要ス

第十九條　唱歌　唱歌ハ初等科ニ於テハ容易キ歌曲ヲ用ヒテ五音以下ノ單音唱歌ヨリ漸次複音及三重音唱歌ヲ授ケ兒ケ中等科及高等科ニ至テハ六音以上ノ單音唱歌ヨリ漸次複音及三重音唱歌ヲ授ケ兒童ノ胸膈ヲ開暢シテ其健康ヲ補益シ心情ヲ感發シテ此美德ヲ涵養セシムコトヲ旨トス凡唱歌ヲ授クルニハ体勢ヲ正整シ聲音ヲ暢和シ琴或ハ風琴等ヲ用テ之ヲ調和セシムコトヲ要ス

第二十條　體操　體操ハ初等科ノ初ハ適宜ノ遊戲ヲ以テ之ニ充テ漸次徒手運動ニ及ホシ中等科及高等科ノ男子ニ於ハ兼テ輕器械運動ヲナサシメ或ハ步兵運動ノ端緒ヲ授

ク凡体操ヲ授クルニハ先体勢ヲ整ヘ十分ニ筋力ヲ使用シ身体ノ發育ヲ平等ニシ健康ヲ保全セシメンコトヲ要ス

第七章　小學試驗規則

第一條　試驗ヲ別テ小試驗大試驗卒業試驗臨時試驗ノ四種トス

第二條　小試驗ハ每月若クハ隔月ニ於テ已ニ學修シタル課業ノ熟否ヲ試ミ其席次ヲ進退スルモノトス

第三條　大試驗ハ每學期ノ終リニ於テ之ヲ行ヒ其階級ヲ改ムルモノトス

第四條　卒業試驗ハ第三年後期第六年後期第八年後期ニ於テ其等中ノ諸科ヲ試驗シ初等中等高等科ノ卒業ヲ証明スルモノトス

第五條　臨時試驗ハ定期ニヨラスシテ之ヲ行フモノトス

第六條　大試驗ヲ施行スルトキハ其月ノ行狀作文習字圖畫等ノ得點ヲ平均シ通約シテ其月ノ小試驗點ニ充テ卒業試驗ヲ施行スルトキハ其期ノ大試驗ヲ行ハス其期ノ小試驗通約點ノ和ヲ其試驗ノ度數ニテ除シ二倍シテ其期ノ大試驗點ニ

充ツ

第七條　小試驗優劣ヲ判スルノ法ハ毎科ノ定點ヲ五十點トシ其多寡ニ從テ席次ヲ定メ而シテ毎科ノ得點ヲ記錄シ置キ大試驗ノ際數ニ加フルモノトス

第八條　大試驗ノ及落ヲ判スルノ法ハ毎科ノ定點ヲ一百點トシ大試驗合得點ノ通約ニ毎小試驗合得點通約ノ和ヲ加ヘ其學期中ノ小試驗ノ度數ニ二（大試驗ノ分即小試驗ノ二倍ニ當ルヲ以テナリ）ヲ加ヘタル數ヲ以テ之ヲ除シ其商數ヲ二倍シ成績點トナス而シテ成績點定點ノ十分ノ五ヲ超ユル者ハ昇級セシメ十分ノ五ヲ超エサル者ハ猶原級ニ留ムルモノトス

但定點十分ノ五ヲ超ユル者ト雖モ一科定點五分ノ一以下ナルトキハ昇級セシメサル者トス尤モ特ニ該學科ノミヲ温習セシメ再試驗ヲナスコアルヘシ

第九條　卒業試驗ノ及落ヲ判スルノ法ハ毎科ノ定點ヲ二百點トシ卒業試驗合得點ノ通約ニ毎大試驗成績點ノ和ヲ加ヘ其等中大試驗ノ數ニ二（卒業試驗ノ分即大試驗ノ二倍ニ當ルヲ以テナリ）ヲ加ヘタル數ニテ除シ其商數ヲ二倍シ成績點トナス而シテ成績點定點ノ十分ノ五ヲ超エル者ハ卒業證書ヲ附與スルモノトス但定點十分ノ九、十分ノ八、十分ノ七、十分ノ六、十分ノ五ヲ超ヘタルモノヲ甲乙丙丁戊ノ五ニ分ヲ之ヲ其証書ニ記載スヘシ若シ十分ノ五ヲ超エサルモノ及ヒ一科定點五分ノ一以下ノ者ハ更ニ温習セシメ再試驗合格ノ上卒業証書ヲ附與スルモノトス

第十條　臨時試驗ノ及落ヲ判スルノ法ハ前條ニ同シト雖若シ昇級或ハ入校後一回ノ小試驗ヲモ受サル者ノ如キハ該科目ノ數ヲ以テ各科ノ合得點ヲ除シ其商數定點十分ノ六ヲ超ルモノニ非サレハ昇級セシメサルモノトス

第十一條　各科ノ定點ハ問題ノ難易ヲ斟酌シテ豫メ之ヲ題數ニ配當シ誤謬ノ多少ニ從ヒ得點ノ數ヲ判定スルモノトス

第十二條　各種試驗問題ハ凡大試驗ハ小試驗ノ二倍卒業試驗ハ大試驗ノ二倍ノ點數ヲ配當シ得ルニ恰當ナルモノヲ撰フヘシ

第十三條　讀方、作文、筆算、珠算、ハ各一科ト見做シテ定點ヲ配當スヘシ

第十四條　修身科ハ生徒ノ實行ヲ主トス故ニ定點ヲ別テ行狀點ト試驗點ノ二トス行狀

充ツ

第七條　小試驗優劣ヲ判スルノ法ハ毎科ノ定點ヲ五十點トシ其多寡ニ從テ席次ヲ定メ而シテ毎科ノ得點ヲ記錄シ置キ大試驗ノ際數ニ加フルモノトス

第八條　大試驗ノ及落ヲ判スルノ法ハ毎科ノ定點ヲ二百點トシ大試驗合得點ノ通約ニ毎小試驗合得點通約ノ和ヲ加ヘ其學則中ノ小試驗ノ度數ニ二（大試驗ノ分即小試驗ノ二倍ニ當ルヲ以テナリ）ヲ加ヘタル數ヲ以テ之ヲ除シ其商數ヲ二倍シ成績點トナス而シテ成績點定點ノ十分ノ五ヲ超ユル者ハ昇級セシメ十分ノ五ヲ超エサル者ハ猶原級ニ留ムルモノトス

但定點十分ノ五ヲ超ユル者トハ雖モ一科定點五分ノ一以下ナルトキハ昇級セシメサル者トス尤モ特ニ該學科ノミヲ溫習セシメ再試驗ヲナスコアルヘシ

第九條　卒業試驗ノ及落ヲ判スルノ法ハ毎科ノ定點ヲ二百點トシ卒業試驗合得點ヲ通約ニ毎大試驗成績點ノ和ヲ加ヘ其等中大試驗ノ分即大試驗ノ二倍ニ當ルヲ以テナリ）ヲ加ヘタル數ニテ除シ其商數ヲ二倍シ成績點トナス而シテ成

績點定點ノ十分ノ五ヲ超ルモノハ卒業証書ヲ附與スルモノトス但定點十分ノ九、十分ノ八、十分ノ七、十分ノ六、十分ノ五ヲ超ヘタルモノヲ甲乙丙丁戊ノ五ニ分ヲ之ヲ其証書ニ記載スヘシ若シ十分ノ五ヲ超エサルモノ及ヒ一科定點五分ノ一以下ノ者ハ更ニ溫習セシメ再試驗合格ノ上卒業証書ヲ附與スルモノトス

第十條　臨時試驗ノ及落ヲ判スルノ法ハ前條ニ同シト雖若シ昇級或ハ入校後一回ノ小試驗ヲモ受サル者ノ如キハ該科目ノ數ヲ以テ各科ノ合得點ヲ除シ其商數定點十分ノ六ヲ超ルモノニ非サレハ昇級セシメサルモノトス

第十一條　各科ノ定點ハ問題ノ難易ヲ斟酌シテ豫メ之ヲ題數ニ配當シ誤謬ノ多少ニ從ヒ得點ノ數ヲ判定スルモノトス

第十二條　各種試驗問題ハ凡大試驗ハ小試驗ノ二倍卒業試驗ハ大試驗ノ二倍ノ點數ヲ配當シ得ルニ恰當ナルモノヲ撰フヘシ

第十三條　讀方、作文、筆算、珠算、ハ各一科ト見做シテ定點ヲ配當スヘシ

第十四條　修身科ハ生徒ノ實行ヲ主トス故ニ定點ヲ別テ行狀點ト試驗點ノ二トス行狀

點ハ每日各生ノ行狀ヲ監察シ其良否ニ應シ之ヲ付與シ試驗點ニ合算スルモノトス

但臨時試驗ニ在テ行狀點ヲ付スルヲ得サルモノハ學科ノ試驗點ノミヲ以テ定點ノ全數トナスヘシ

第十五條　大試驗ノ場合ニ於テ前條ノ行狀點ヲ定ムルノ法ハ每小試驗行狀點ノ通約ヲ二倍シ卒業試驗ノ場合ニ在テハ每大試驗行狀點ノ通約ヲ二倍シ以テ諸科ノ定點ニ比例スヘシ

第十六條　讀方ハ讀本中ノ行文及字句ヲ示シ其傍訓意義ヲ記セシメ若クハ又書ニ就キテ之ヲ讀ミ且ツ講セシム

但初等科二三學期ノ間ハ口述ノミヲ以テ試ムルモノトス

第十七條　作文ハ題ヲ課シテ之ヲ作ラシム

第十八條　習字ハ字樣又ハ手本ヲ示シ之ヲ書カシム

第十九條　圖畫ハ圖或ハ實物ヲ示シ又ハ題ヲ與ヘテ之ヲ畫カシム

第二十條　算術ハ暗算式題（珠算ニ在テハ教師加減スヘキ數ヲ口唱ス）問題ヲ課シ其答ヲ筆記セシム

但問題ハ筆算ハ答式珠算ハ可成術解ヲ記セシムヘシ

第廿一條　脩身地理歷史博物物理化學生理幾何經濟家事經濟農工商等ハ問題又ハ實物繪圖等ニ就キ其答ヲ口述又ハ筆記セシム

第廿二條　裁縫唱歌体操ハ其一二ヲ演セシム但裁縫ハ要件ヲ問答シ若クハ筆記セシムルコトアルヘシ

第廿三條　小試驗ハ一週中三時以上ノ學科ハ每月之ヲ行ヒ其以下ハ隔月ニ之ヲ行フモノトス

但作文習字圖畫ハ生徒ノ草稿淨書精寫ニ就キ優劣點ヲ附シ其平均點ヲ以テ小試驗ノ得點ト見做シ別ニ小試驗ヲ施行スルヲ要セス

第廿四條　大試驗及卒業試驗前ハ一二週間復習ノ餘地ヲ與ヘ疑義ヲ質問スルコトヲ許スヘシ

第廿五條　小試驗欠席ノ者ハ一期中試驗得點ノ最小數ヲ取リ以テ當時ノ得點トナス

但一二科欠席ノ者ハ該科試驗得點ノ最小數ヲ以テ其得點ヲ設ク

第廿六條　大試驗卒業試驗欠席ノモノハ其出席ヲ待テ之レヲ施行ス

但欠席數週ニ及フモノハ試驗ヲ用ヰス原級ニ止ルヿアルヘシ

第廿七條　試驗ヲ終リタル後該級受持教員ハ優劣表（第一號書式）ヲ製シテ之ヲ生徒ニ示シ其成績ニヨリ教場ノ名札ヲ昇降シ其席次ヲ定メ更ニ之ヲ得點簿（第二號書式）ニ記入スヘシ

第廿八條　大試驗卒業試驗ニ於テ成績點定點十分ノ八ヲ超ユル者若クハ成績定點十分ノ七ヲ超ヘ平素學業勉勵品行端正衆生徒ノ摸範タル者ハ賞譽スルヿアルヘシ

第廿九條　大試驗及卒業試驗及第ノ者ハ左ノ証書ヲ付與スヘシ

大試驗証書々式

第第何號朱書

何府縣華士族平民何誰

子女兄弟姉妹

氏名

年齡

右ハ新潟縣ニ於テ制定セル小學科第何年何期ノ試驗ニ及第セルヲ以テ初（中）（高）等小學科第何級ニ昇進セシムルモノナリ

年月日　　校名印

卒業試驗証書々式

第何號甲（乙）（丙）（丁）（戊）朱書

何府縣華士族平民何誰

子女兄弟姉妹

氏名

年齡

右ハ新潟縣ニ於テ制定セル學期第三（六）（八）年ノ課程ヲ脩メ考試咸完セルヲ以テ初（中）（高）等小學科卒業ヲ証明スル者ナリ

年月日　　校名印

第一號書式

何年
何月　何試驗優劣表

何等科小學第何級生

成績點ハ小試驗ノ表ニハ之ヲ除ク

修身	讀方	作文	習字	筆算	珠算	地理	歷史	圖畫	博物	物理	化學	生理	幾何	經濟	家事	裁縫	唱歌	体操	農	工	商	通約	大(小)試合計成績	及落	氏名

第二號書式

各種試驗得點簿

小試驗ハ成績點ノ欄内ニ記入スルニ及ハス

氏

試驗	修身	讀方	作文	習字	筆算	珠算	地理	歷史	圖畫	博物	物理	化學	生理	幾何	經濟	家事	裁縫	唱歌	体操	農	工	商	通約	成績點
第一小試																								
第二小試																								
第三小試																								
第四小試																								
第五小試																								
第六小試																								
第一大試																								
第一小試																								
第二小試																								
第三小試																								
第四小試																								
第五小試																								
第六小試																								
第二大試																								
第一小試																								
第二小試																								
第三小試																								
第四小試																								
第五小試																								
第六小試																								
第三大試																								
第一小試																								
第二小試																								
第三小試																								
第四小試																								
第五小試																								
第六小試																								
第四大試																								
第一小試																								
第二小試																								
第三小試																								
第四小試																								
第五小試																								
第六小試																								
第五大試																								

名	
第一小試	
第二小試	
第三小試	
第四小試	
第五小試	
第六小試	
第六大試	
卒業試驗	

第八章　入學退學及欠席

第一條　子女ヲ入學セシメントスルモノハ其族籍氏名年齡住所ヲ記シ父兄若クハ後見人ヨリ其學校ニ申出テ校長或ハ首座教員ハ入學ノ手續等ヲ指示スヘシ

第二條　種痘或ハ天然痘ヲ歷タル者ニアラサレハ入學ヲ許サス

第三條　生徒若シ已ムヲ得サル事故或ハ相當ノ理由アリテ退學ヲ請フモノ及他ニ轉學スルモノハ事實ヲ取糺シ之ヲ許可スヘシ

第四條　生徒事故アリ欠席スルモノハ其旨ヲ屆出ヘシ若シ屆出難キトキハ出席ノ節其欠席ノ事故ヲ受持教員ニ申出ツ可シ

但欠席一週日已上ニ及フモノハ父兄若クハ後見人ヨリ其旨屆出ヘシ

第五條　生徒傳染病ニ罹ルモノハ出席ヲ止メ全癒ヲ待テ昇校セシムヘシ

第九章　授業料

第一條　授業料ノ收否ハ各學校町村ノ評決ニ依ル若シ之ヲ收ムルトキハ其金額ヲ縣廳ニ伺出テ認可ヲ受クヘシ

第十章　生徒心得

第一條　學業ハ身ヲ立ルノ基礎ニシテ德ヲ脩メ智ヲ開キ體ヲ育ヒ以テ後來有用ノ人タラシムルノ道ヲ敎ルモノナレハ平居左ノ條件ヲ服膺シ各自ノ幸福ヲ得ルコトヲ要ス

第二條　人タルモノハ皆國ノ保護ヲ受テ安全ニ生ヲ送ルコトヲ得ルモノナレハ幼稚ノ者ト雖國恩ヲ知ラサルヘカラス宜ク皇室ニ忠ニ國家ヲ愛スルノ念ヲ忘ルヘカラス

第三條　父母ハ我ヲ生ミ我ヲ育ヒ我ヲ敎ヘ其恩尤深シ故ニ之レニ對シ孝順愛敬ノ心ヲ怠ル可ラス

第四條　敎師ハ我ニ學業ヲ敎ル所ノ恩人ナレハ常ニ之レヲ敬重スヘシ

第五條　兄弟ハ親睦ヲ旨トシ朋友ハ信義ヲ守リ苟モ不睦不信等ノ擧動アルヘカラス

第六條　每朝早ク起キ衣服ヲ着ケ盥ヒ嗽キ髮ヲ櫛リ父母長上ノ安否ヲ問ヒ朝餐ヲ終ラハ昇校ノ用意ヲナシ書籍石盤筆紙等課業必需ノ物品ヲ取揃フヘシ

第七條　家ヲ出又家ニ歸リタルトキハ必父母長上ニ面シ一禮スヘシ

第八條　每日昇校ハ起業前十分前タルヘシ若起業時間ニ後レタルトキハ教師ニ其由ヲ告ケ指揮ヲ待ツヘシ

第九條　學校ニ往來スル途中ニ於テ猥リニ遊戲ヲナシ或ハ無用ノ場所ニ立寄ルヘカラス

第十條　途上ニ於テ師友或ハ相識ノ人ニ逢ハヽ必禮ヲナスヘシ若車馬等ニ逢ハヽ路傍ニ避ケ怪我セサル樣注意スヘシ

第十一條　昇校退校ノ節各自其傘下駄ノ類錯雜セサル樣注意スヘシ

第十二條　無用ノ玩弄物ヲ學校ヘ携帶シ來ルヘカラス

第十三條　起業ノ報ヲ聽カハ速ニ遊戲ヲ止メ整列シテ教師ノ誘道ヲ待ツヘシ

第十四條　教場ヘ入ルニハ課業必需ノ書器ヲ遺忘ナク携帶スヘシ

第十五條　教場ニ在リテハ帽襟卷合羽等ヲ着ケヘカラス

第十六條　教場ニ在リテハ教師ノ許可ナクシテ猥ニ發言又ハ席次ヲ離ルヘカラス他念ナク教師ノ教授ヲ受クヘシ

第十七條　教師ノ許可ナクシテ漫ニ教場ヲ出入スヘカラス

第十八條　書籍器械ハ毀損セサル樣丁寧ニ取扱フヘシ

第十九條　書籍器械其他一切ノ物品等猥リニ貸借交易スヘカラス止ムヲ得サルトキハ教師ニ告ケ指揮ヲ受クヘシ

第二十條　校中ニ於テ高聲疾走シ或ハ他人ノ遊戲ヲ妨ケ又ハ喧嘩口論等ヲナスヘカラス

第廿一條　戸牖子壁机腰掛等ニ戲書シ或ハ之ヲ毀損スヘカラス

第廿二條　諸掲示ヲ破ルヘカラス

第廿三條　猥リニ瓦石ヲ抛ヲ屋墻及ヒ樹木ニ登リ園中ノ花卉ヲ折リ地上ニ坐臥スル等總テ危害ノ遊戲ヲナスヘカラス

第廿四條　放課時間ハ勉メテ運動ヲナサスヘシ

第廿五條　凡生徒タルモノハ學校ニ在テ教師ノ訓戒ヲ守リ行狀ヲ愼ミ學術ヲ勵ムヲ以テ足レリトスヘカラス家ニ歸リテモ父母長上ニ事ヘ子タルノ務ヲ盡シ其學フ所ヲ實行スルヲ要スヘシ

第十一章　生徒懲戒

第一條　生徒タル者敎師ノ命令ニ從ハス生徒心得ヲ遵守セスシテ不良ノ所行アルトキハ其情狀ヲ取糺シ次條ノ方法ニ從ヒ之ヲ懲戒シ勉テ自改ノ情思ヲ喚發セシムヘシ

第二條　生徒懲戒ノ方法ヲ分チテ左ノ三項トス

第一項　戒諭

生徒不良ノ所行アルトキハ敎師懇ニ戒諭シテ後來ヲ諴マシム

第二項　默立

前項ノ如ク戒諭スルノ後十五分乃至三十分間緘默シテ直立セシム

第三項　抑留

第一項ノ如ク戒諭スルノ後一時間乃至二時間抑留シテ他生ト共ニ家ニ歸ルヲ許サス且其不良ノ行爲ヲ父兄ニ通知スヘシ但寄宿生ハ一日乃至二日間ノ禁足ニ換フ

右ノ懲戒ニ處セラレシモノハ當日遊歩場ニ於テ隨意ノ遊戲ヲ禁スルヲアルヘシ

第十二章　寄宿舍規則

第一條　寄宿舍ハ取締ヲ置キ舍中一切ノ監督ヲナサシム

第二條　生徒舍內ニ在テハ容儀ヲ正シ學生タルニ耻ツヘキ擧動アルヘカラス

第三條　每朝晨起後ハ直ニ寢衣ヲ收メ舍內ヲ掃除シ器具ヲ整頓スヘシ

第四條　舍內ノ警火ハ常ニ怠ルヘカラス

第五條　外來者ハ猥リニ舍內ニ誘導スヘカラス

第六條　外出セントスルトキハ取締ノ許可ヲ受ケ歸舍ノ節ハ直ニ届出ヘシ

第七條　就寢ノ期至レハ直ニ書器ヲ藏メ燈火ヲ滅シ寢ニ就クヘシ

○第廿五節　小學區畫小學校數及小學校組合改正

○本縣甲第七十九號　明治十八年五月八日

本縣小學區書小學校數及小學校組合別冊之通改正指示ス此旨布達候事

（別冊略之）

○第廿六節　町村立小學校ヲ高等中等初等ノ三種ニ別ヶ本分校ノ名稱ヲ廢ス

○本縣甲第八十號布達　明治十八年五月八日

本縣町村立小學校ヲ高等中等初等ノ三種ニ別ヶ從前本分校ノ名稱ヲ廢ス此旨布達候事

○第廿七節　小學校所在町村及小學校等位ヲ定ム

○本縣乙第四十五號達　明治十八年五月八日　郡區役所　戶長役場　學務委員

今般學區々畫小學校數小學校組合及小學校種別布達候ニ付テハ小學校所在町村及小學校等位別表之通相定ムヘシ此旨相達候事

（別表略之）

○第廿八節　公立小學校名稱及標札書式改正

○本縣乙第五十四號達　明治十八年五月八日　郡區役所　戶長役場　學務委員

公立小學校名稱ノ儀自今公立某小學校ト唱フヘシ此旨相達候事

但十三年乙第八十四號達標札ノ儀左ノ書式ニ改正スヘシ

三尺ヨリ五尺マテ

新潟縣何郡區

公立某小學校

第何小學區

○第廿九節　小學校資格並ニ維持方心得

○本縣乙第五十五號達　明治十八年五月八日　郡區役所　戶長役場　學務委員

小學區畫校數及小學校等位等改正布達候ニ付テハ別紙小學校資格並維持方心得ニ據リ施行方處理スヘシ此旨相達候事

小學校資格並ニ維持方心得

第一條　高等小學校ハ高中初等科中等小學校ハ中初等科初等小學校ハ初等科生徒ヲ敎育スルニ足ルヘキ諸般ノ準備ヲ爲スヘシ其要領左ノ如シ

一教員及授業生ノ員數ハ生徒ノ級別ニ應シ增減ナカルヘカラスト雖モ凡高等科生徒毎十五名中等科生徒毎廿名初等科生徒毎廿五名ニ該等科以上ノ教員各一名ヲ置クヲ要ス但各等科生徒該員數ノ三倍迄ハ授業生ヲ以テ之ヲ補助セシムルヲ得

一校舍ハ組合町村ノ就業スヘキ生徒ノ數ニ應シ教場体操場生徒控所教員室等ヲ設ケ而シテ其教場ハ成ルヘク各室ヲ經界シ聲音ノ喧雜ヲ避ケ通風採光宜ニ適セシムヘシ殊ニ高中等小學校ニシテ通學不便ノ土地ハ生徒寄宿舍ノ備アルヲ要ス

一書器高中小等科ニ應シ該等科須要ナル教科用圖書器械及教員參考書等ヲ整備スヘシ

第二條　高中初等小學校ノ關係左ノ如シ

一初等小學校組合ノ中等若クハ高等科生徒中等小學校組合ノ高等科生徒ハ該學區內最近ノ中等若クハ高等校ニ通學又ハ寄宿セシムルモノトス

一初等若クハ中等小學校ノ該學區內中等若クハ高等小學校ヨリ他學區ノ中等若クハ高等小學校ニ近邇スル者ハ兩學區ノ協議ニ依リテハ他學區ニ通學スルモ妨ケナシ

一高等若クハ中等小學校ノ校長首坐教員ハ時々該校ニ通學又ハ寄宿スヘキ中等若クハ初等小學校ヲ巡回シ授業管理ノ改良ヲ謀リ或ハ大試驗卒業試驗等ノ際各校生徒ヲ召集聯合スル等其他教育內部ノ改良ヲ誘進スルモノトス

第三條　小學校ノ等位ハ學事ノ振張ニ從ヒ諸般ノ準備ヲ整ヒ之ヲ上進スルコトアルヘシ

第四條　小學校組合中一二ノ町村距離遠隔シ兒童通學ノ便ヲ欠キ而シテ小學ヲ設置スルノ資力ナク或ハ校舍狹隘等ノ場合ニ於テハ別ニ教場ヲ分置シ教員若クハ授業生ヲ派遣シ生徒ヲ教授スヘシ之ヲ分教場ト稱ス

第五條　氷雪或ハ霖雨等ノ候道路ノ壅塞スル場合ニ於テハ別ニ假教場ヲ設ケ教員若クハ授業生ヲ派遣シ生徒ヲ教授スヘシ之レヲ派出教場ト稱ス

第六條　小學校ノ維持ハ可成確實ノ資本ヲ具備シ其利子等ヲ以テ經費ノ全部ヲ支辨シ若クハ其幾分ヲ支出スルヲ要ス

第七條　小學校ノ經濟ハ該學區一般ニ共通負擔スルヲ正例トナスト雖モ數箇小學校ヲ設置スル學區ニ於テハ學區會ノ評決ニ依リテハ左ノ例ニ依リ負擔スルコヲ得

但第三第四項ハ止テ得サルモノニ限ル此場合ニ於テハ縣令ノ認可ヲ經ルモノトス

一學務委員給料旅費職務取扱費及學區教育會費等學區全体ニ關係スルモノハ必ス學區一般ニ負擔スヘシ

一高等科若クハ中等科ニ要スル經費ハ該校ニ連絡スル所ノ中等科若クハ初等科ノ學校組合モ亦之ヲ負擔スルモノトス

一中等若クハ初等小學校組合ニ於テ高等若クハ中等小學校ニ通學寄宿ノ生員僅少絶無ノ場合ニ於テハ其經費ノ支出ハ適宜ノ特約ヲ爲スコヲ得

一高中初等科ノ他ノ小學校ニ關係ナキ町村ハ該校組合限リ其經費ヲ負擔スルコヲ得

第八條　學區々畫或ハ小學校組合ノ變更シタルトキ其分離シタル町村ハ從前該校ニ出ス所ノ資本及分配ヲ受ヘキ蓄積金（文部省委托金地方稅補助金等）ハ該校ヨリ分割シテ新設若クハ組替小學校ノ資本及蓄積金トナスヘシ

第九條　前條ノ場合ニ於テ書器其他共有物件ノ處分ハ從前ノ學區若クハ小學校組合聯合町村會ノ評決ニ依ルヘシ

○第十二章　徵發

○第一節　徵發令

○太政官第四十三號布告　明治十五年八月十二日

徵發令別冊ノ通制定ス

右奉　勅旨布告候事

徵發令

第一條　徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條　徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條　左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

一陸軍卿海軍卿鎭臺司令官及ヒ鎭守府長官

二陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ行軍ノ軍隊長
三海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令官分遣艦長若クハ操練及ヒ航海
ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條　徴發スヘキモノノ種類ニ依リ徴發區（會社モ之ニ準ス）ヲ定ムルヿ左ノ如シ

一第十二條第一項ハ　府縣
二第十二條第二項及ヒ第三項ハ　郡區
三第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ　町村
四船舶會社所有ノ瀛車ハ　會社

第五條　徴發スヘキモノハ徴發區内ニ現在スルモノニ限ル

第六條　徴發書ハ徴發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶ノ店長ニ付スヘシ

第七條　徴發書ヲ受タル府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶ノ店長ハ時期ヲ誤ルヿナク其供給ヲ完全セシムルノ責アリトス

第八條　各徴發區ニ於テハ臨時徴發ニ應スヘキ便宜ノ方法ヲ豫定スヘキモノトス

第九條　徴發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フヿナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ヲ違フヿアハ府知事縣令郡區長戸長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシムル但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ

第十條　徴發ヲ課セラレタルモノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルヿヲ得

第十一條　供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條　徴發スヘキモノ左ノ如シ

一米麥秣猶鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭
二乘馬駄馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具

三八夫

四宿舍廐圈及ヒ倉庫
五飲水石炭
六船舶
七鐵道瀛車
八演習ニ要スル地所
九演習ニ要スル材料器具

第十三條　戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ揭クルモノヽ外徵發スヘキモノヽ左ノ如シ但シ平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルヿヲ得ス

一造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具
二職工礦夫洗濯人ノ類
三被服裝具艸鞋兵器彈藥船具寢具醫劑治療器械及ヒ繃帶具
四水車搗舂ノ類
五病院

第十四條　第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

一皇族所用ノ車馬
二外國公使館並ニ領事館ニ屬スル車馬
三乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
四郵便用ノ車馬
五公認セラレタル種牛種馬

第十五條　第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受クヘキモノ左ノ如シ

一公務ニ屬スル廨署
二皇族ノ邸宅
三外國公使館領事館及ヒ其所屬館
四鐵道電信郵便用ノ建造物
五陸海軍將校並ニ同等官現住ノ家屋
六博物館書籍館

七病院盲唖院乗員院
八學校但臨戰合圍地境内ニ在リテハ此限ニ在ラス
九製造場内機械室

第十六條 第十二條第二項ニ揭クルモノヽ使用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス

第十七條 第十二條第二項ニ揭クルモノハ其產出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ揭クルモノハ合圍地境内ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ揭クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ部合ニ依リ特ニ其場所ヲ

指定スルコアルヘシ

第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコヲ許サス廐圈倉庫亦同シ

第二十二條 宿舍廐圈ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食餉ヲ供給スヘシ但シ駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食餉ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食餉ヲ要スルモノ併ハセテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ揭クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコアルヘシ

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ揭クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ揭クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ艀船ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條　第十二條第七項ニ屬スル鐵車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條　第十三條第五項ニ揭クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圖地境內ニ在テハ全ク明渡サシムルヲ得

第二十九條　徵發ニ係ルモノハ第卅一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條　徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ支辨セス

第三十一條　賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滯メ三ケ月ヲ越エルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條　賠償ハ徵發區每ニ一括シテ府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條　徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ區戶長ニ屆出ヘシ

其屆出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越エ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限中持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

一　西洋形船舶　七日間

二　地所　評價委員ノ告示スル時日間

三　其他ノ物件　一日間

第三十四條　第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其他市場ノ前三ケ年間ノ平均價ヲ取リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條　第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條　第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ飼ニ係ハラス賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但シ此ノ場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條　第十二條第二項及ヒ第六項ニ揭クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ

都合ニ依リ價格ノ預定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置クヲ可シ其金額ニ付キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條　第十二條第三項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第三十九條　第十二條第四項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條　第十二條第五項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條　第十二條第六項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノヽ外左ノ區別ニ從フ

一　出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二　定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿タサル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三　出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等

其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委ノ員評定額

第四十二條　第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航船實費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ケ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條　第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但シ船橋及ヒ艀船ニ充テタルモノヽ賠償金額ハ第四十一條第三項ニ準ス

第四十四條　第十二條第七項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノヽ外平常ノ定賃トス

第四十五條　第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條　第十二條第八項ノ徴發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限リ賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條　第十二條第九項ノ徴發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ

都合ニ依リ價格ノ預定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置クヲ可シ其金額ニ付キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條　第十二條第三項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第三十九條　第十二條第四項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條　第十二條第五項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條　第十二條第六項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノハ外左ノ區別ニ從フ

一　出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二　定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿タスル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三　出船及ヒ航路ノ定メナキモノハ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條　第三十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航船實費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ケ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條　第三十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但シ艀橋及ヒ艀船ニ充テタルモノハ賠償金額ハ第四十一條第三項ニ準ス

第四十四條　第十二條第七項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノハ外平常ノ定賃トス

第四十五條　第三十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條　第十二條第八項ノ徴發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限リ賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條　第十二條第九項ノ徴發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ

[illegible]賠償ス[illegible]

第四十八條ニ第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若[illegible]ハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサル時ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條ハ第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ準シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス[illegible]

第五十條　第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フ[illegible]賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ準ス

第五十一條　徵發ヲ拒ミ或ハ忌避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條ハ徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長其[illegible]處置ヲ爲サ[illegible]ルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其解怠ニ出ルモノハ貳十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條　徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官

[illegible]憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

[illegible]

○第三節　徵發事務條例

○太政官第貳拾六號布達　明治十五年十二月十八日

徵發事務條例別冊之通之ヲ定ム

右布達候事[illegible]

[illegible]徵發事務條例[illegible]

第一條　徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムルモノトス

第二條　陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ酌量シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ徵發書ヲ出ス可シ

第三條　徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ徵發スルコトヲ得[illegible]

第四條　徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ揭クル特命司令官軍團長師團長艦隊司令長官ハ時機ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分任ス

ルコトヲ得

第五條　徴發令第三條第二項中ニ揭クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣艦長ハ其獨立中ニ限リ徴發書項中ニ揭クル特命司令官艦隊司令官分遣艦長ハ其獨立中ニ限リ徴發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ニ雖モ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セラレタルトキハ徴發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令長官ノミ之ヲ有ス

第六條　徴發令第三條第二項中ニ揭クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團隊ヲ統フル長(二士官以上)ヲ言ヒ艦長トハ先任艦長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徴發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖モ其部下ノ團隊若クハ各艦往返中ニ限リ其團隊長若クハ艦長各自ニ徴發書ヲ出スノ權ヲ有ス

第七條　徴發ニ應シタル人員ハ勉メテ彈丸ノ達セサル場所ニ於テ之ヲ使用スヘシ

第八條　徴發物件其徴發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戸長及ヒ証人二人(其町村内ニ住スル親族又ハ預リ主又ハ同物品營業者ノ内ヨリ戸長ノ撰定スルモノ)立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシムヘシ

第九條　徴發ヲ課セラレタルモノハ徴發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徴發ニ應スル可キ人員亦同シ

第十條　徴發書ハ徴發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シト雖モ臨戰若クハ合圍次地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付ス可キモノヲ町村ニ付シ店長ニ付ス可キモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ

第十一條　右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徴發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徴發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徴發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徴發書ヲ用ヒス本人ニ受領証票ヲ交付スルニ止ル

本條ノ場合ニ於テハ徵發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若
ク[illegible]店長ニ其旨ヲ通知ス可シ[illegible]
第十一條[illegible]徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ晝夜ヲ別タス速ニ其處置ヲ爲ス可シ[illegible]
第十二條ヲ徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク
可キ官憲ニ報告ス可シ[illegible]
町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事縣令ヨリ徵發ノ賦課ヲ受
ケタルトキ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戸長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令
ニ速ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ陸海軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏
員ヲ派出シ檢査セシムルコアル可シ[illegible]
郡區長府知事縣令其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事縣令ハ他ノ郡
區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ[illegible]
第十三條[illegible]府知事縣令徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦
課シタル郡區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官憲ニ報告ス可シ[illegible]

第十四條[illegible]府知事縣令郡區長及ヒ戸長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法
ヲ豫定ス可シ[illegible]
第十五條ヽ徵發ヲ課セラレタルモノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ
處分ス可シ[illegible]正當ノ理由ヲ証明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス
第十六條[illegible]徵發令第十一條ニ掲クル受領証票ハ附錄第三號雛形ニ依リ調製ス可シ[illegible]
第十七條ヲ受領証票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ屬スル物
件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ徵用濟ノ後之ヲ交付ス可シ但徵用濟
ノ後交付スル場合ニ於テハ同令第十三條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船
所工作所第四項及ヒ第五項ニ掲クルモノヲ除ク外當初領收ノ際假受領証ヲ交付ス
可シ[illegible]
第十八條ヽ徵發令第十二條第二項第三項及ヒ第十三條第二項ニ掲クルモノヲ宿泊セシ
メテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ幷ニ同令第二十條第六項ニ
掲クルモノ(艀船及ヒ船橋ヲ除ク)ヲ借切トシテ徵用スルトキハ特ニ本人若クハ操

業者ニ受領証票ヲ交付スルコトアル可シ

第十九條　徴用十五日以上ニ及ブモノハ一個月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領証票ヲ交付ス可シ

第二十條　徴發令第十二條第一項ニ掲クルモノヽ徴發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先ツシ尚ホ完全セサルトキニ限リ他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陷ヒラサラシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置クヲ可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　營業者所有ノ物品ハ徴發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ

二　他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量

第二十一條　郡區長ハ附錄第三號雛形ニ依リ毎年一月一日調ヲ以テ徴發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出シ府縣廳ハ其年三月三十一日限リ之ヲ陸軍省ニ送付ス可シ

第二十二條　郡區長ハ徴發物件表ノ副本ヲ其役所ニ備ヘ戸長ハ町村ニ係ル書類ヲ其役場ニ備ヘ置キ物產ヲ除クノ外增減ヲ記シ供給ノ便宜ニ供ス可シ

第二十三條　徴發物件表ハ左ノ諸項ニ照シ調製ス可シ

一　馬匹車輛ハ其郡區内ニ於テ登時實用ヲ爲スモノ

二　人夫ハ其郡區内ニ於テ負擔ニ係ル業体ヲ爲スモノニシテ年齢十七歳ヨリ六十歳迄ノモノ

三　廐圈倉庫ハ貸廐貸庫ニ限ル

四　職工ハ總數ヲ表中ニ掲ケ備考中ニ就キ其業体ヲ分チ記ス可シ

五　官廨社寺學校廠場水車場ノ坪數ハ調査ニ及ハス

六　物產中米麥等ノ如キハ其高ヲ記ス可シ

七　郵便局アル町村ニハ◎電信分局ニ其線路ハ═鐵道ハ一ノ符號ヲ記ス可シ

第二十四條　府知事縣令ハ郡區長ヨリ受ケタル徵發物件表ニ照シ附錄第四號雛形ニ依リ其管下ニ係ル徵發物件概覽表ヲ製シ各郡區徵發物件表ト共ニ陸軍省ニ送付スル可シ

第二十五條　戶長ハ附錄第五號雛形ニ依リ每年一月一日調ヲ以テ船舶表ヲ製シ郡區長ヲ經テ之ヲ府縣廳ニ差出シ府縣廳ハ其年三月三十一日限リ之ヲ海軍省ニ送付スル可シ

第二十六條　徵發令第十二條第二項第七項ニ揭クル物ハ總テ使用ノ爲ニ必用ナル屬具ヲ併セテ供給スル可キモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコヲ得ス

第二十七條　徵發令第十二條第六項ニ揭クル船舶中郵便船ニ限リ其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ス又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ス

第二十八條　徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖廚ヲ指シ營業ニ必要ナル場所トハ商估ノ店舖農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸座敷貸席等ヲ包含ス

第二十九條　宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖ヒ戶長ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルコト左ノ如シ

一廨署　二將官其參謀部ト共ニ　一家屋

三上長官又ハ同等軍屬一名　一室

四士官又ハ同等軍屬二名　一室

五下士又ハ同等軍屬一名　一疊半乃至二疊

六卒又ハ同等軍屬一名　一疊乃至一疊半

七徵發ニ應シタル人員三名　二疊

第三十條　戶長ハ陸海軍ノ宿割主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ム可シ

第三十一條　徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サスト雖ヒ若シ該家ニ病者死者等アルトキハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之カ爲メ徵發令第二十二條ニ揭クル日限ヲ更新スルモノニアラス

第三十二條　徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給スル可キ食飼ノ定量大率ヲ左ノ如シト雖ヒ陸海軍給與ノ規則ニ由リ定量以內ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアル可シ